

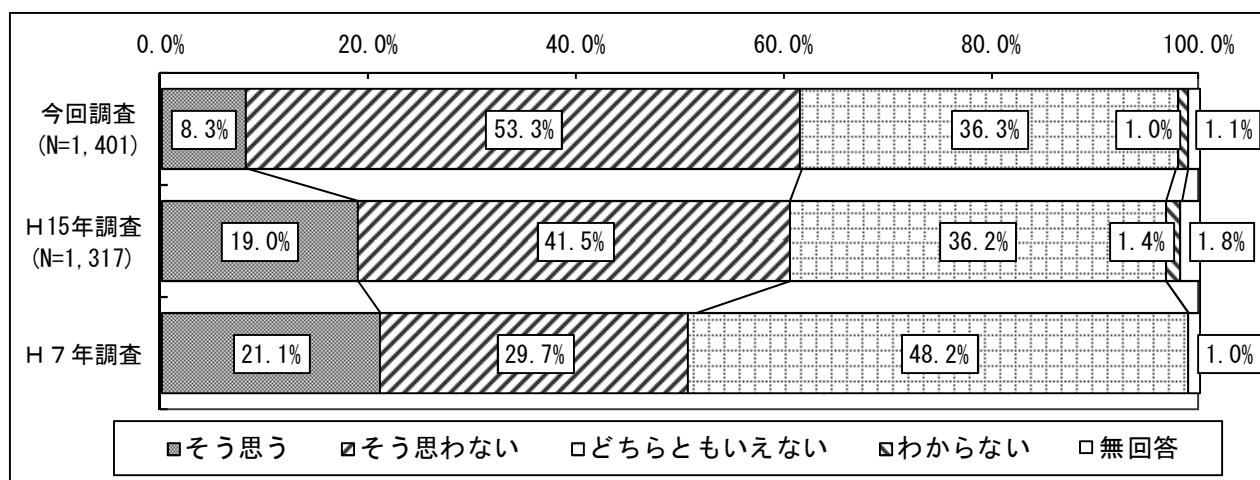
## 2. 男女共同参画について

### (1) 性別役割分担意識

問1 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。  
(いずれか1つに○)

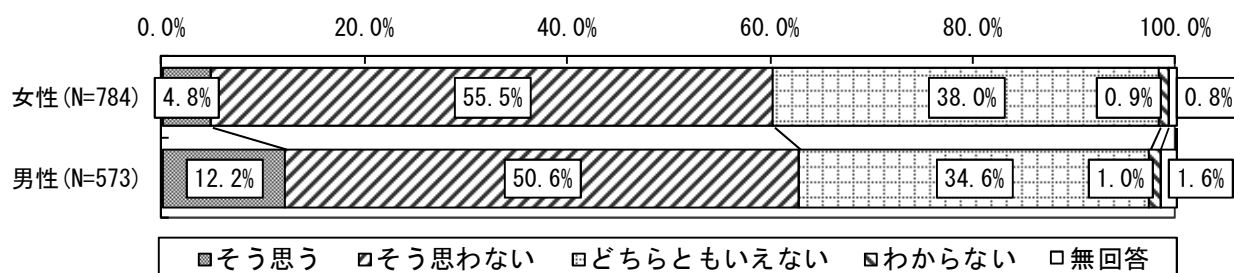
- 今回調査では、「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「そう思わない」が53.3%、「そう思う」が8.3%となり、思わない人が半数以上となっている。
- 過去の調査結果と比較すると、「そう思う」が毎回減少し、平成7年調査の21.1%、前回の19.0%から今回調査では8.3%と減少し、「そう思わない」が29.7%から前回41.5%、今回調査では53.3%と増加している。

図表 性別役割分担意識—経年変化



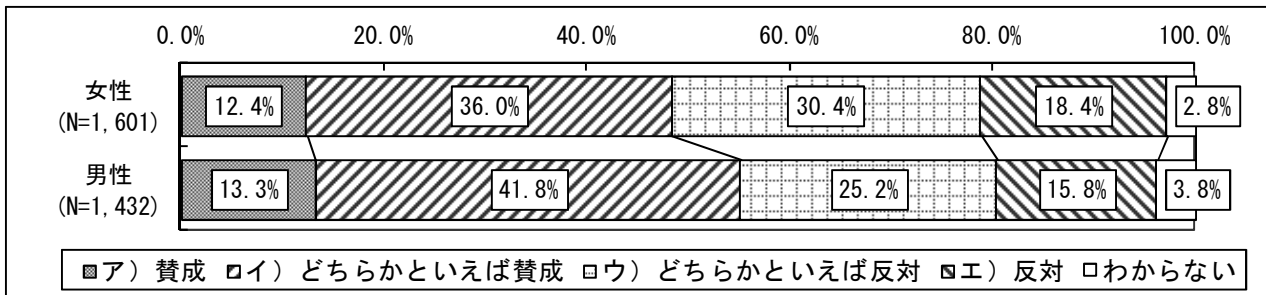
- 性別にみると、「そう思う」は、「男性」が12.2%で、「女性」が4.8%と男性のほうが多くなっている。

図表 性別役割分担意識—性別



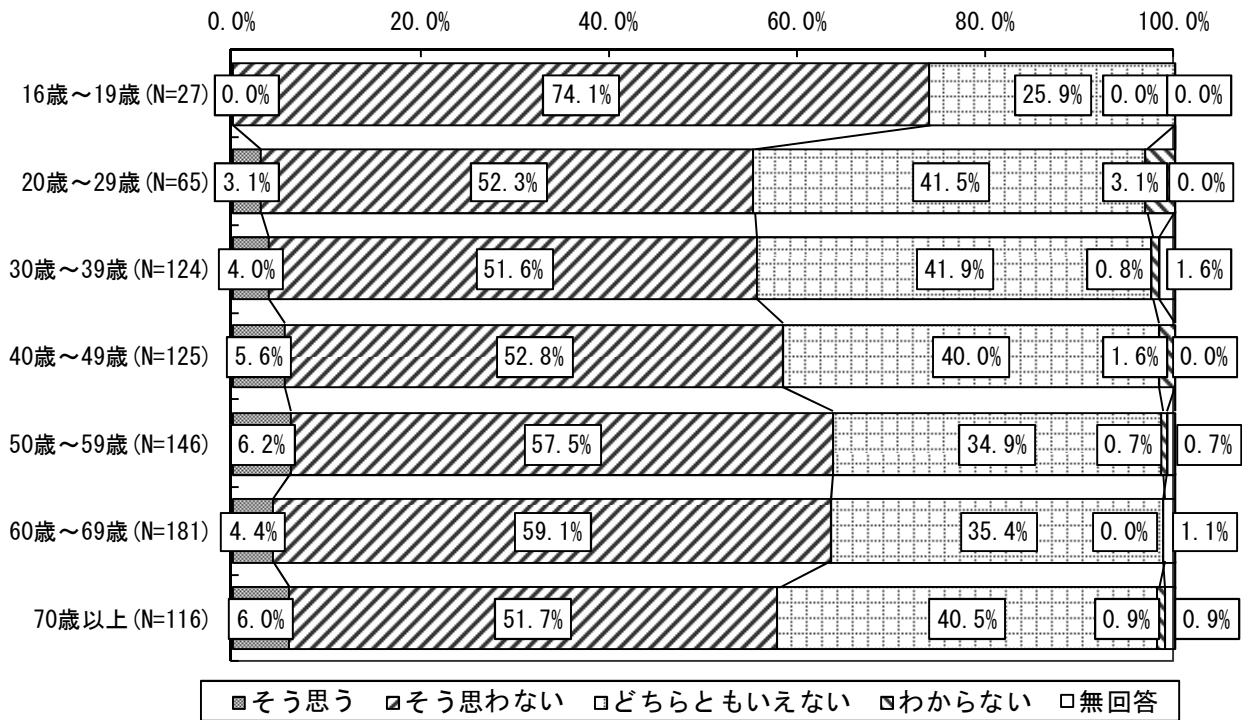
●内閣府調査と比較すると、選択肢が異なっているが、生駒市調査では、「そう思う」が内閣府調査の「賛成」よりも男女とも少なくなっている。

図表 (参考) 性別役割分担意識－平成24年内閣府男女共同参画に関する世論調査

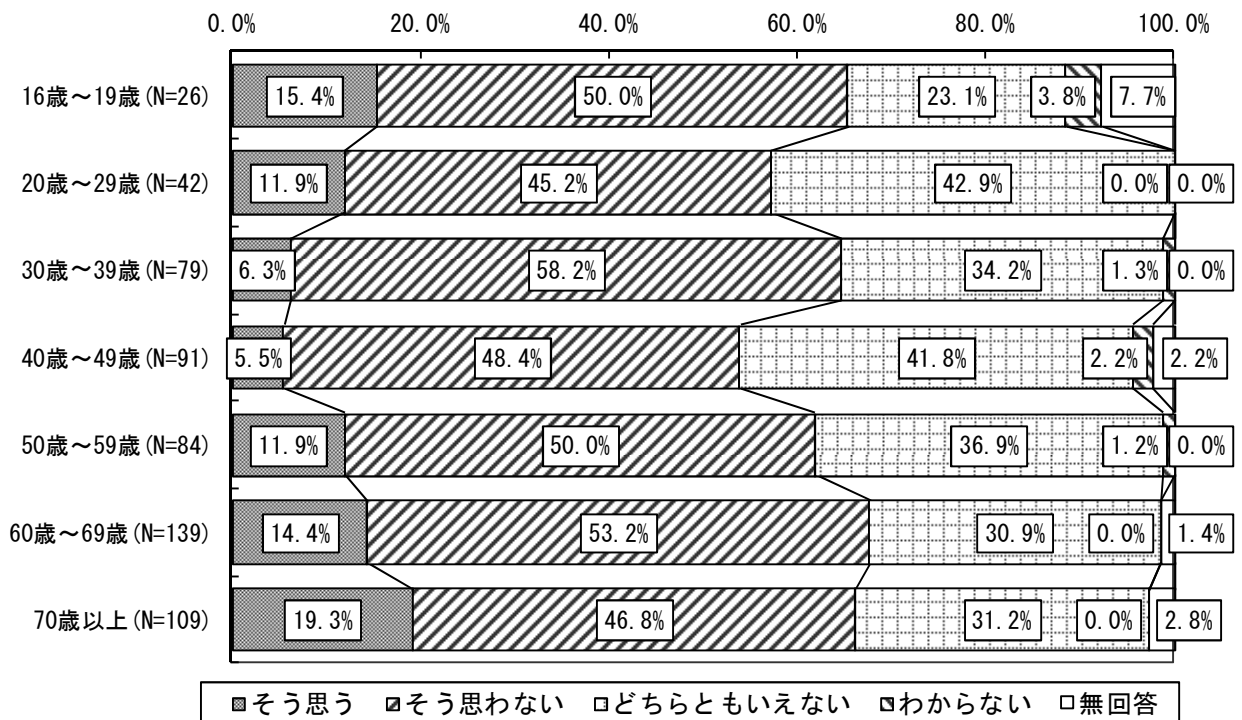


●性・年齢別にみると、「そう思わない」は「女性の10歳代」の74.1%が最も多くなっているなど、女性の各年代ではいずれも半数以上となっている。

図表 性別役割分担意識—女性・年齢別



図表 性別役割分担意識—男性・年齢別

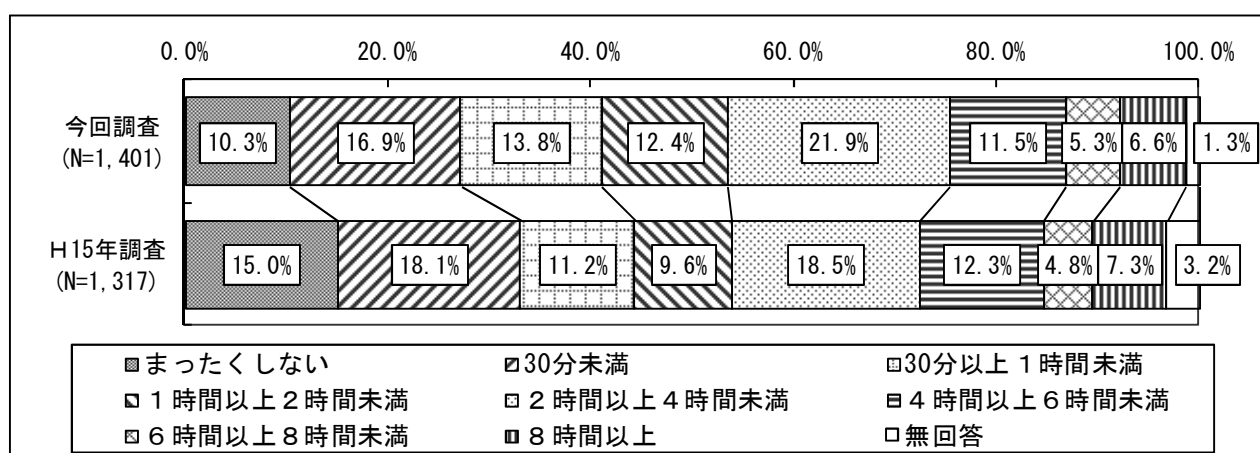


## (2) 平日の家事時間

問2 あなたが家事（育児・介護等を含めて）をする時間は、平日の平均で1日どのくらいですか。（いずれか1つに○）

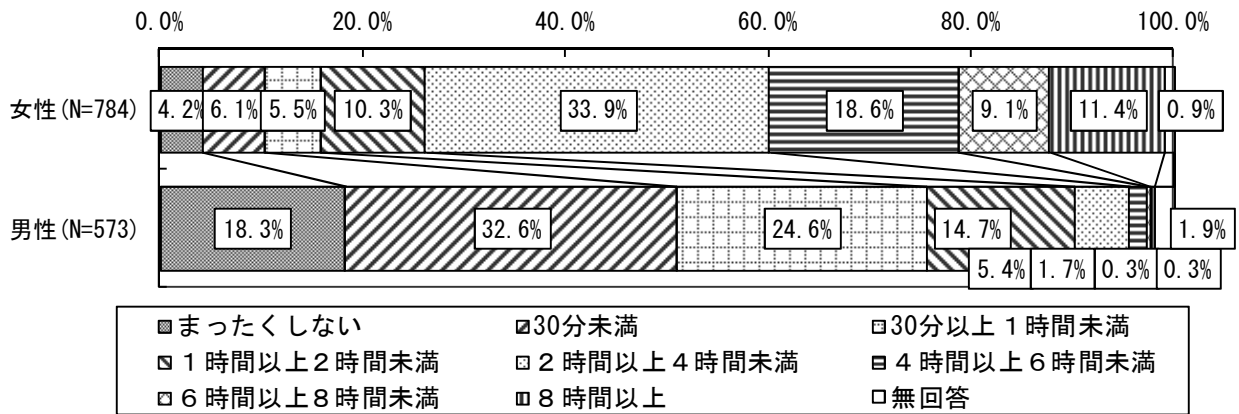
- 平日の家事時間では、「2時間以上4時間未満」が21.9%と最も多く、次いで「30分未満」の16.9%、「30分以上1時間未満」の13.8%などとなっている。
- 前回調査と比較すると、「まったくしない」や「30分未満」が減少し、「30分以上1時間未満」から「2時間以上4時間未満」の割合が増加している。
- また、「4時間以上」との回答は、いずれも減少しており、比較的長時間かけているという人は少なくなっている。

図表 平日の家事時間－経年変化

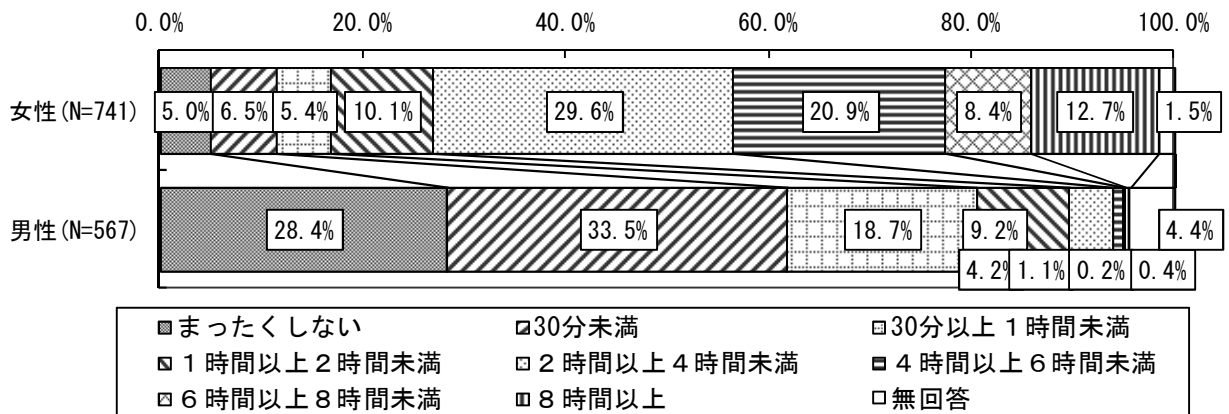


- 性別にみると、「男性」は、「30分未満」が32.6%で最も多く、次いで「30分以上1時間未満」が24.6%、「まったくしない」が18.3%となる。「女性」は、「2時間以上4時間未満」が33.9%で最も多く、次いで「4時間以上6時間未満」の18.6%、「8時間以上」の11.4%となり、男性に比べて長い時間を費やしている人が多いことが歴然としている。
- 前回調査と比較すると、「女性」はあまり大きな変化はみられなかった。
- 「男性」は、前回調査では「まったくしない」が28.4%あったものが、今回調査では18.3%と10ポイント程度減少している。また、「30分以上1時間未満」が18.7%が24.6%、「1時間以上2時間未満」が9.2%が14.7%とそれぞれ増加するなど比較的家事労働に従事する割合が多くなっている。

図表 平日の家事時間－性別



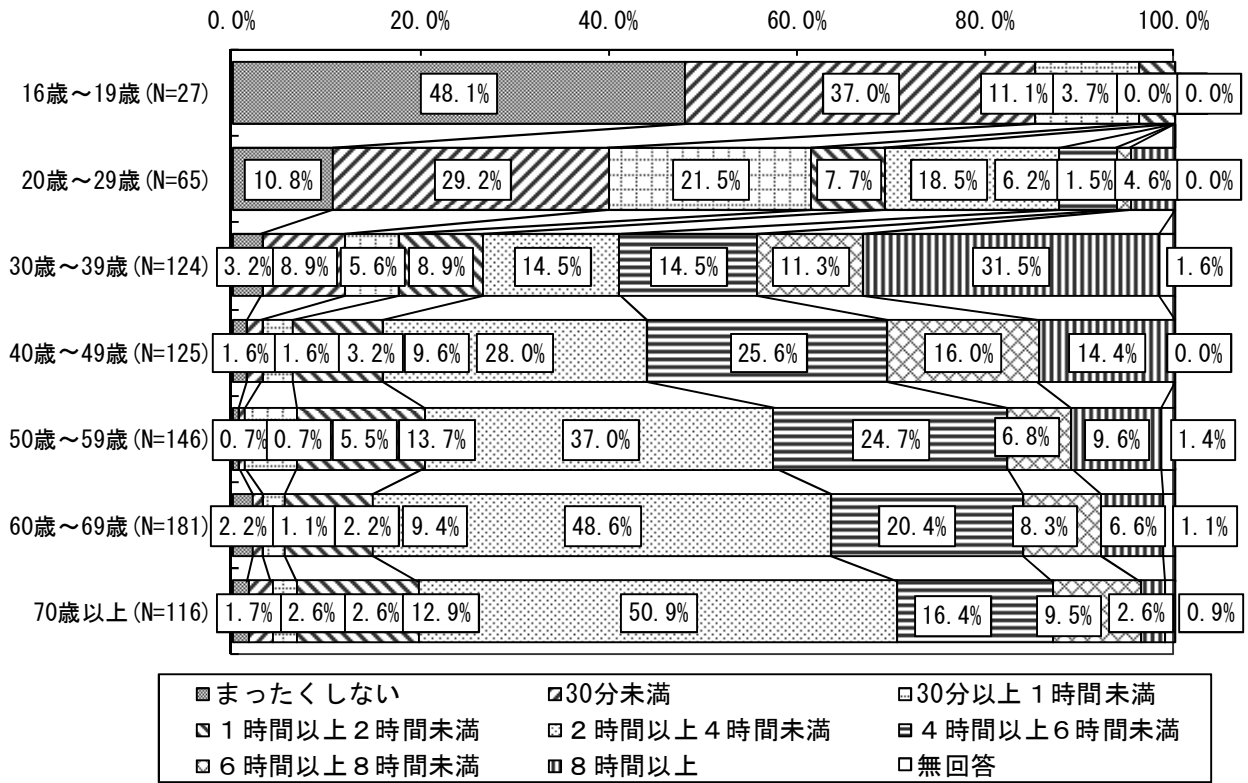
図表 平日の家事時間－前回調査性別



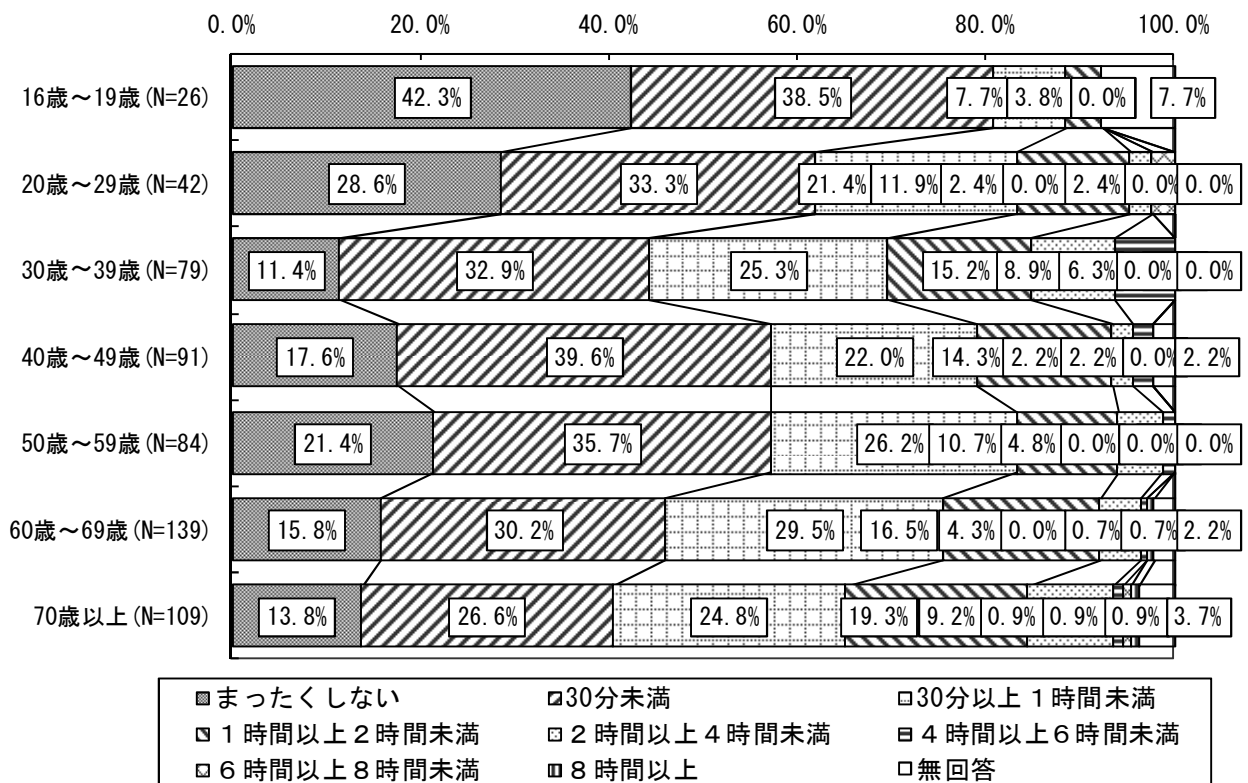
●性・年齢別にみると、「まったくしない」は、「女性10歳代」が48.1%で、「男性10歳代」が42.3%と、男女とも半数近くとなっている。

●「まったくしない」は、20歳代になると、「女性」は10.8%、「男性」は28.6%と男性が多くなっている。

図表 平日の家事時間－女性・年齢別



図表 平日の家事時間－男性・年齢別

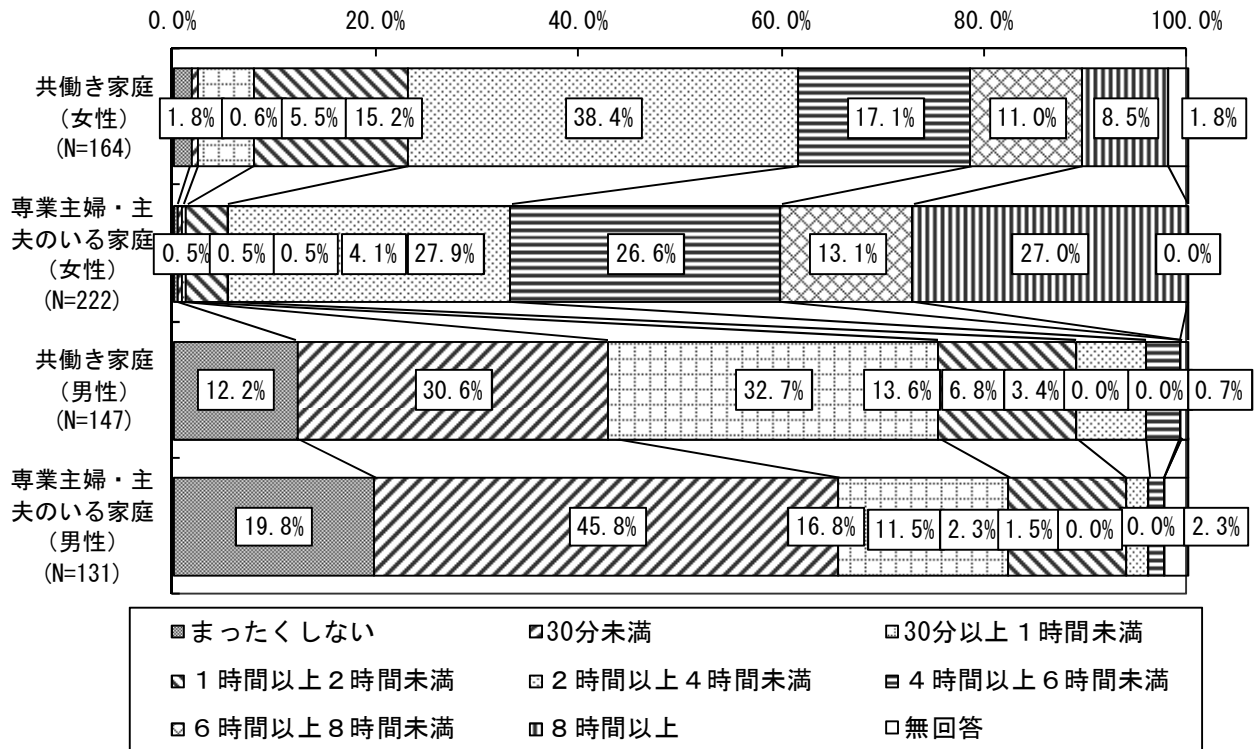


図表 参考平成23年 社会生活基本調査一年齢別家事時間（分）

	全体	女性	男性
総数	87	154	17
10～14歳	4	4	4
15～19歳	6	8	4
20～24歳	19	31	8
25～29歳	41	76	6
30～34歳	70	132	8
35～39歳	90	175	7
40～44歳	108	210	8
45～49歳	112	213	11
50～54歳	104	197	10
55～59歳	111	207	13
60～64歳	116	206	23
65～69歳	125	207	35
70～74歳	129	204	41
75～79歳	123	183	46
80～84歳	112	154	50
85歳以上	71	85	40

- 平日の家事時間を共働き家庭と専業主婦のいる家庭との比較でみると、「女性」は「2時間以上4時間未満」が、「共働き家庭」「専業主婦のいる家庭」とも最多層となっているが、「専業主婦のいる家庭」ではそれ以上の時間帯が「共働き家庭」より多くなっており、「共働き家庭」では「1時間以上2時間未満」などが増加している。
- 男性を同様に比較してみると、「30分以上1時間未満」の割合が32.7%と16.8%となるなど、「共働き家庭」のほうが「専業主婦のいる家庭」よりも全体的に長くなっている。

図表 平日の家事時間－共働きと専業主婦のいる家庭の比較





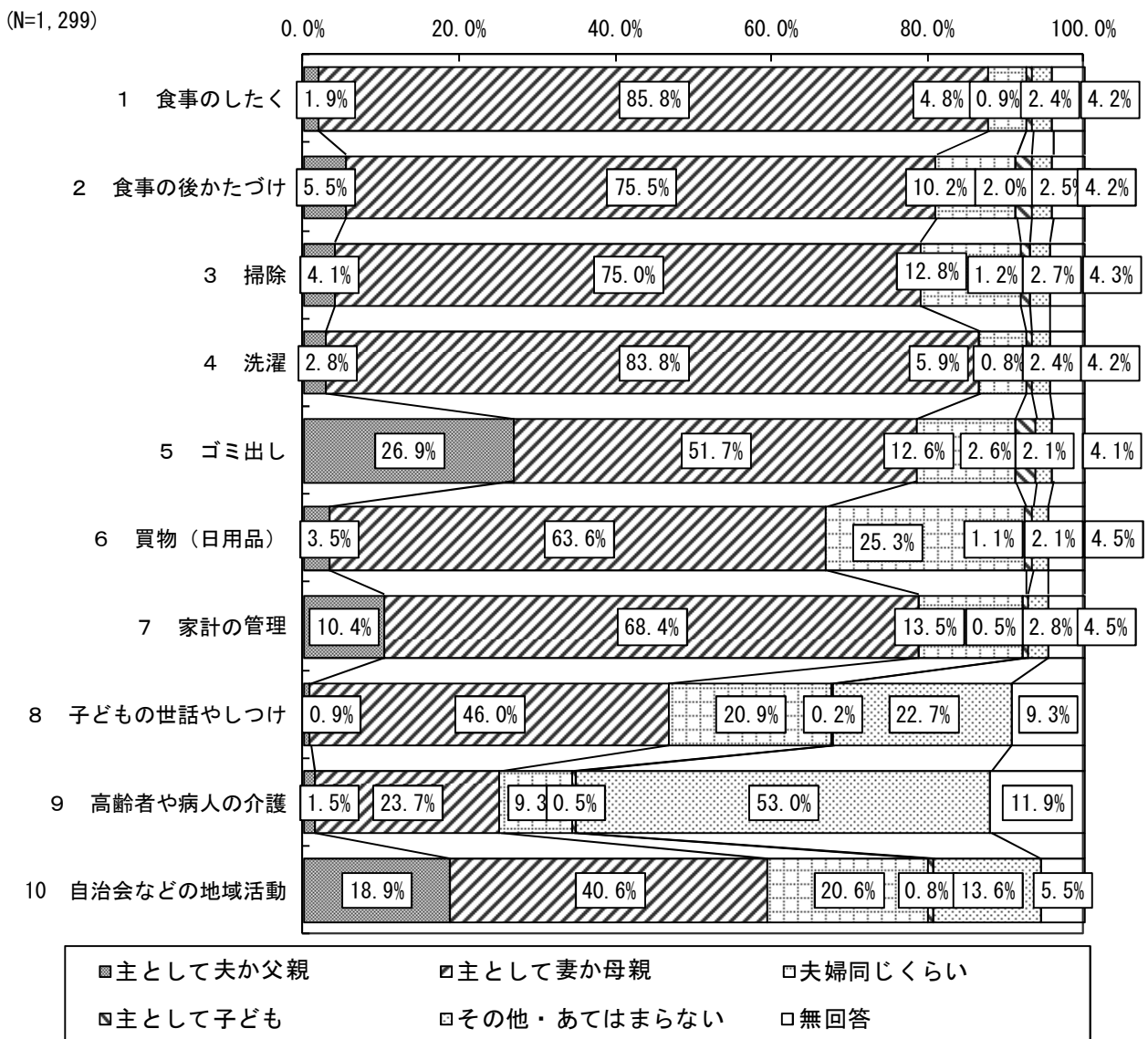
### (3) 家事・育児等の役割分担

世帯でお住まいの方におたずねします。(単身者家庭を除く)

問3 あなたの家庭では、次にあげるようなことは、現在どなたが担当されていますか。  
(それぞれいずれか1つに○)

- 家事などの家庭内での役割分担については、「高齢者や病人の介護」を除くと、いずれの項目においても「主として妻か母親」が最も多くなっている。
- 「高齢者や病人の介護」においても「その他・あてはまらない」の53.0%を除くと「主として妻か母親」が23.7%と最も多くなっており、家庭内の家事労働等については女性の役割という位置づけとなっている。

図表 家事・育児等の役割分担



●性別にみても、「高齢者や病人の介護」の「その他・あてはまらない」が多いことを除くと、いずれの項目においても「主として妻か母親」との回答が最も多くなっている。また、「高齢者や病人の介護」においても、「主として妻か母親」との回答は、男女とも「その他・あてはまらない」に次いで多くなっている。

●また、男女間の比較をみてみると、「女性」は、「主として妻か母親」との回答が「男性」より多く、「男性」は、「夫婦同じくらい」との回答が「女性」に比べて多くなっており、男性は女性に比べて家事分担をしているとの意識が強くなっている。

●年齢別にみると、大きな差異はなく、いずれも「主として妻か母親」との回答がおおくなっている。

●前回調査と比較すると、「主として夫か父親」との回答がいずれも増加している。

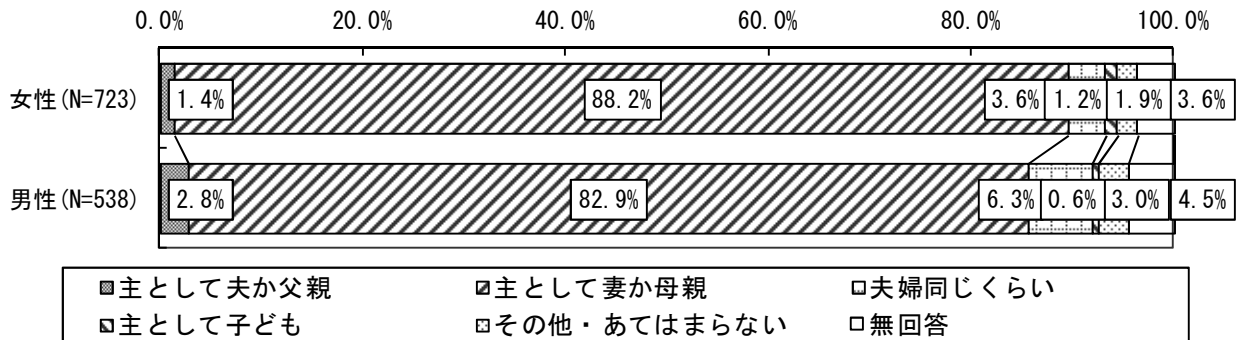
図表 家事・育児等の役割分担－経年変化

		主として 夫か父親	主として 妻か母親	夫婦同じ くらい	主として 子ども	その他・ あてはま らない	無回答
1 食事のしたく	今回調査	1.9%	85.8%	4.8%	0.9%	2.4%	4.2%
	H15年調査	0.4%	89.1%	4.6%	2.3%	0.2%	3.4%
2 食事の後かたづけ	今回調査	5.5%	75.5%	10.2%	2.0%	2.5%	4.2%
	H15年調査	2.2%	82.1%	9.5%	2.6%	0.0%	3.5%
3 掃除	今回調査	4.1%	75.0%	12.8%	1.2%	2.7%	4.3%
	H15年調査	2.1%	77.6%	14.4%	2.4%	0.0%	3.5%
4 洗濯	今回調査	2.8%	83.8%	5.9%	0.8%	2.4%	4.2%
	H15年調査	1.6%	86.8%	5.2%	2.6%	0.1%	3.7%
5 ゴミ出し	今回調査	26.9%	51.7%	12.6%	2.6%	2.1%	4.1%
	H15年調査	18.7%	59.1%	14.2%	4.3%	0.1%	3.7%
6 買物（日用品）	今回調査	3.5%	63.6%	25.3%	1.1%	2.1%	4.5%
	H15年調査	1.6%	70.5%	21.9%	1.9%	0.1%	4.0%
7 家計の管理	今回調査	10.4%	68.4%	13.5%	0.5%	2.8%	4.5%
	H15年調査	5.5%	77.0%	10.5%	1.0%	0.9%	5.2%
8 子どもの世話やしつけ	今回調査	0.9%	46.0%	20.9%	0.2%	22.7%	9.3%
	H15年調査	0.2%	51.8%	17.2%	0.7%	20.9%	9.2%
9 高齢者や病人の介護	今回調査	1.5%	23.7%	9.3%	0.5%	53.0%	11.9%
	H15年調査	0.7%	22.1%	7.0%	1.1%	59.0%	10.1%
10 自治会などの地域活動	今回調査	18.9%	40.6%	20.6%	0.8%	13.6%	5.5%
	H15年調査	8.7%	49.8%	31.7%	1.9%	3.0%	4.8%

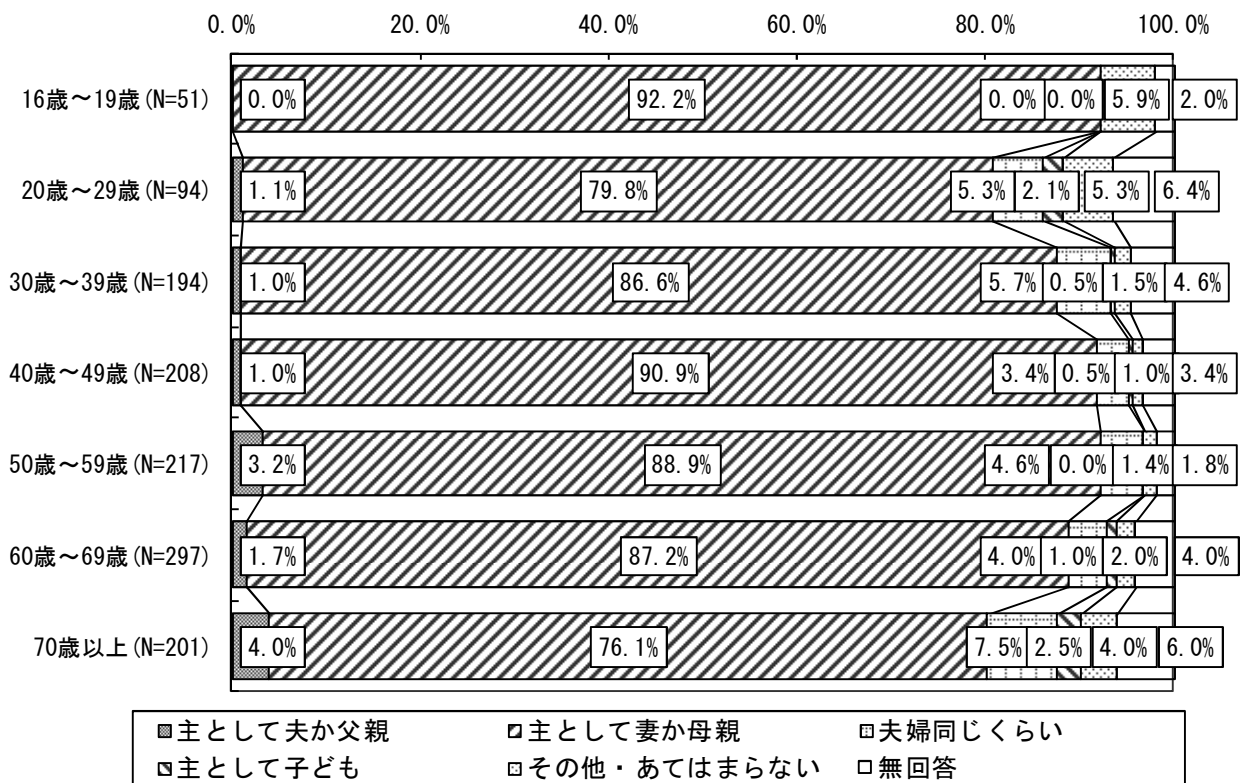
今回調査 (N=1,299)    H15年調査 (N=985)

# 1 食事のしたく

図表 家事・育児等の役割分担（食事のしたく）－性別

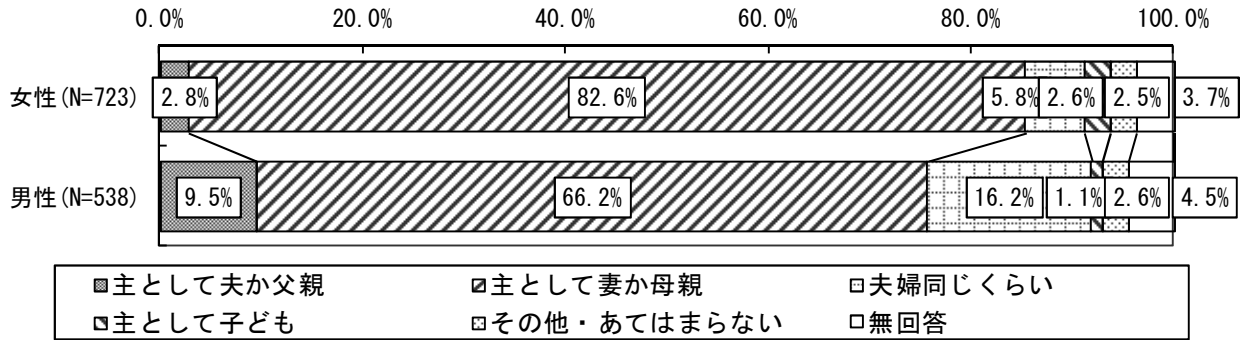


図表 家事・育児等の役割分担（食事のしたく）－年齢別

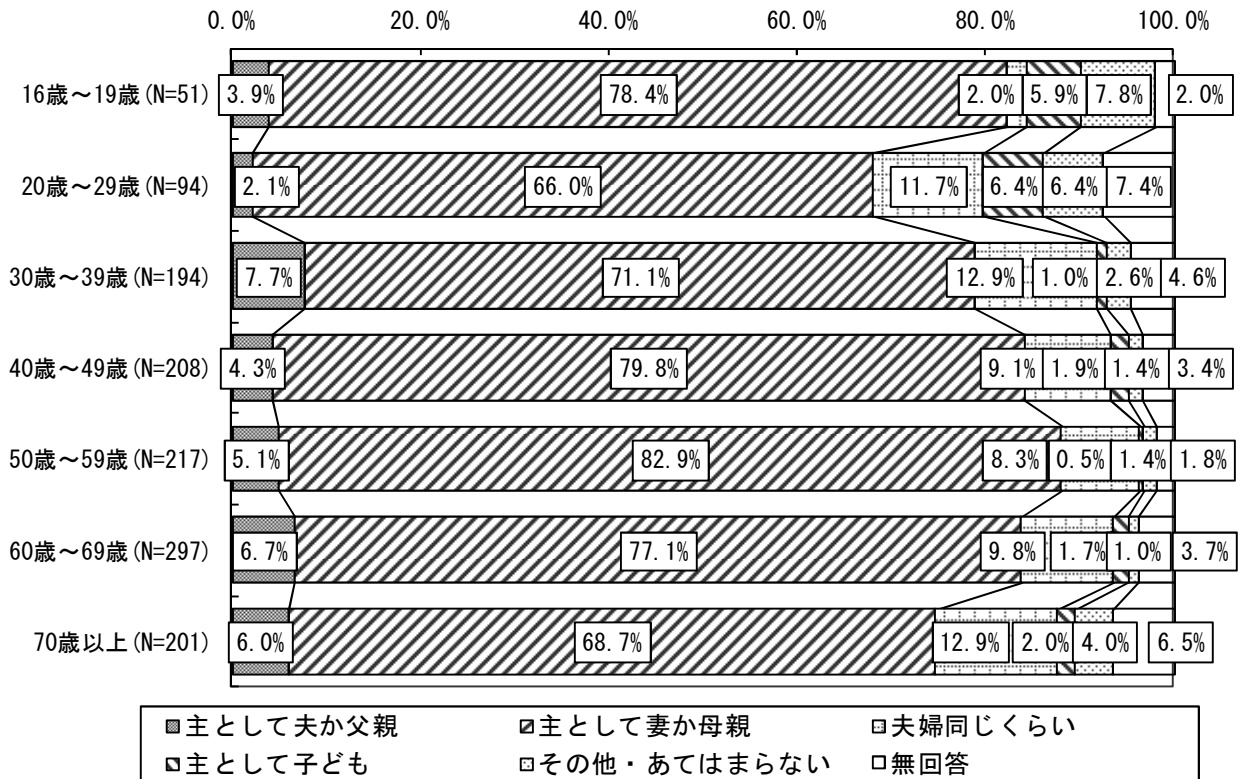


## 2 食事の後かたづけ

図表 家事・育児等の役割分担（食事の後かたづけ）－性別

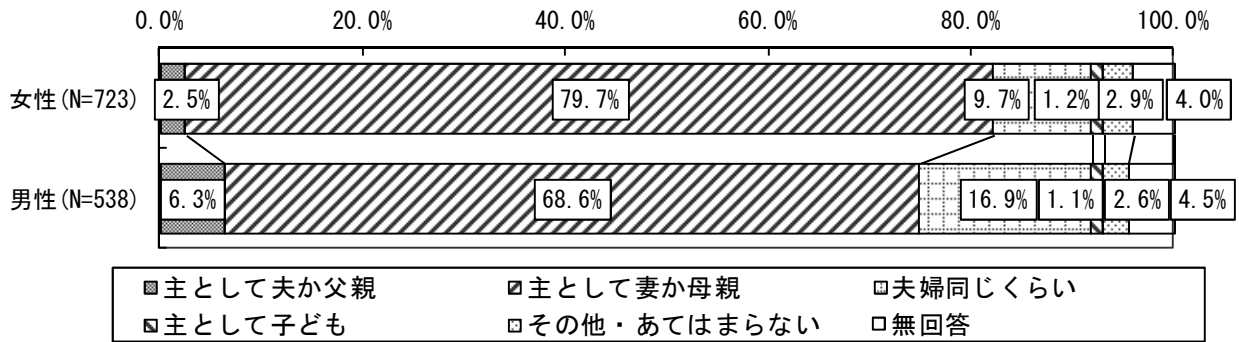


図表 家事・育児等の役割分担（食事の後かたづけ）－年齢別

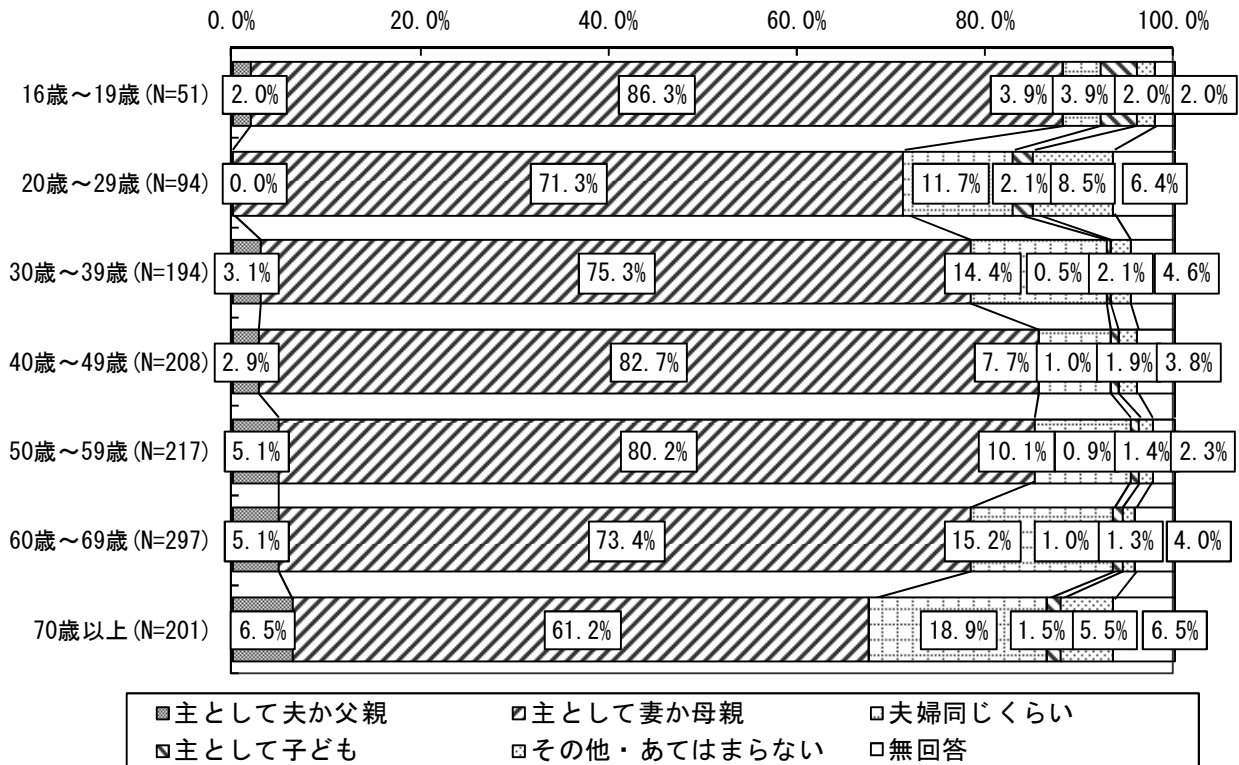


### 3 掃除

図表 家事・育児等の役割分担（掃除）－性別

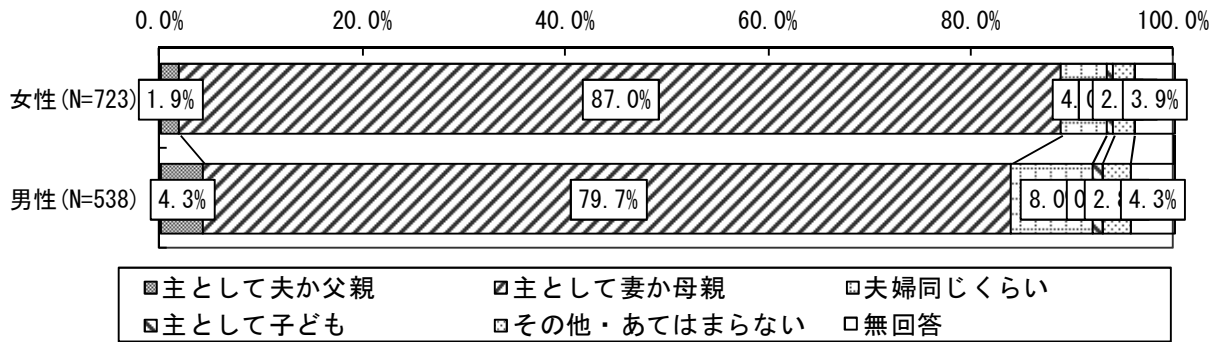


図表 家事・育児等の役割分担（掃除）－年齢別

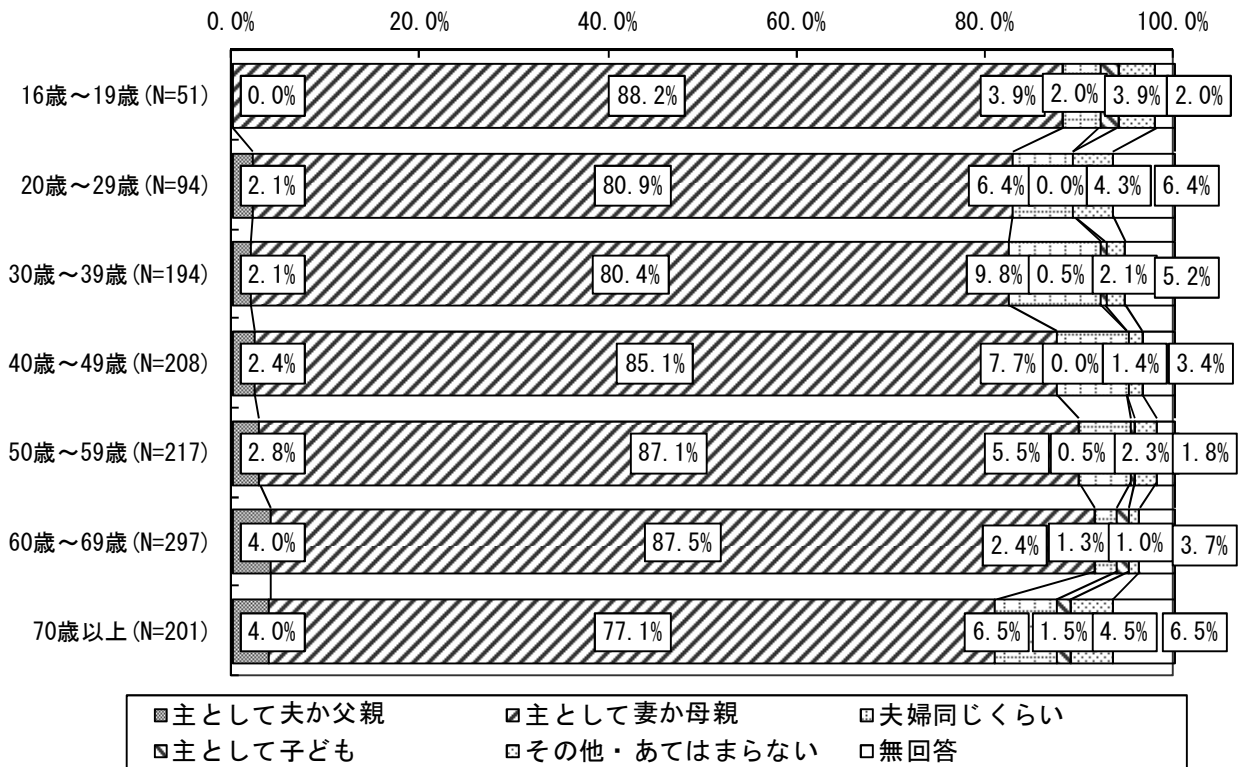


4 洗濯

図表 家事・育児等の役割分担（洗濯）－性別

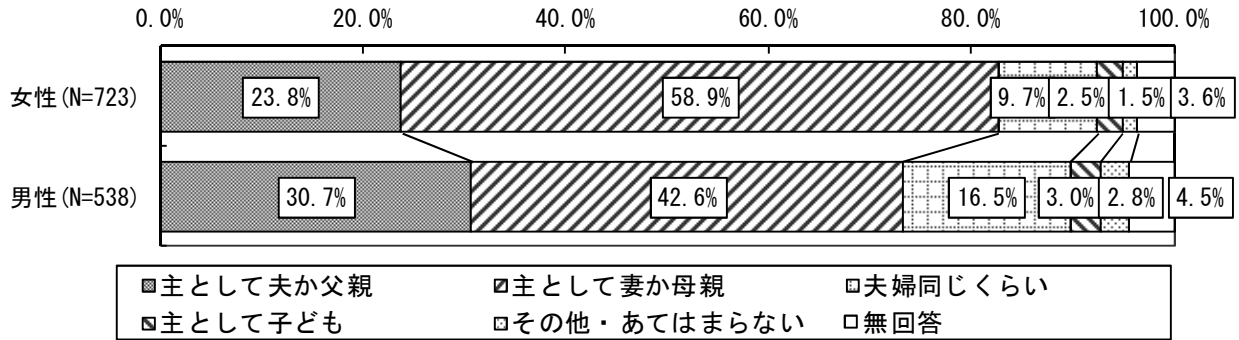


図表 家事・育児等の役割分担（洗濯）－年齢別

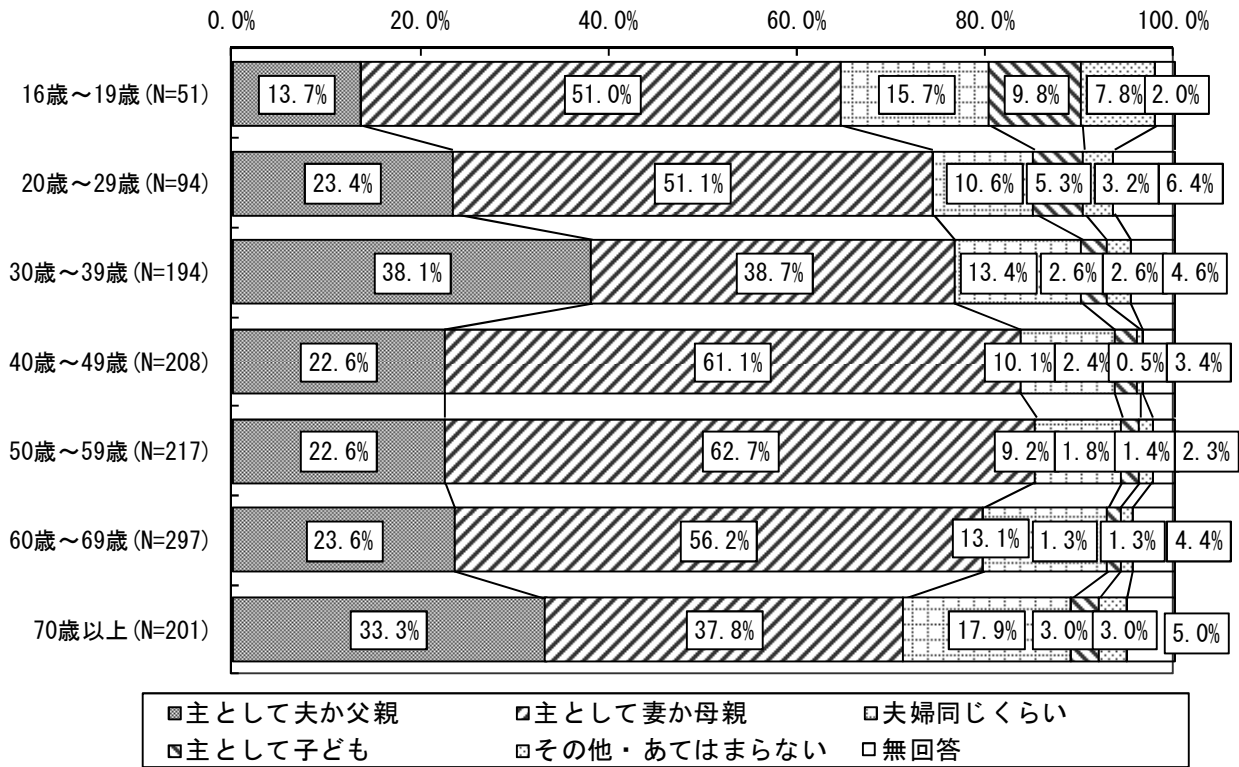


5 ゴミ出し

図表 家事・育児等の役割分担（ゴミ出し）－性別

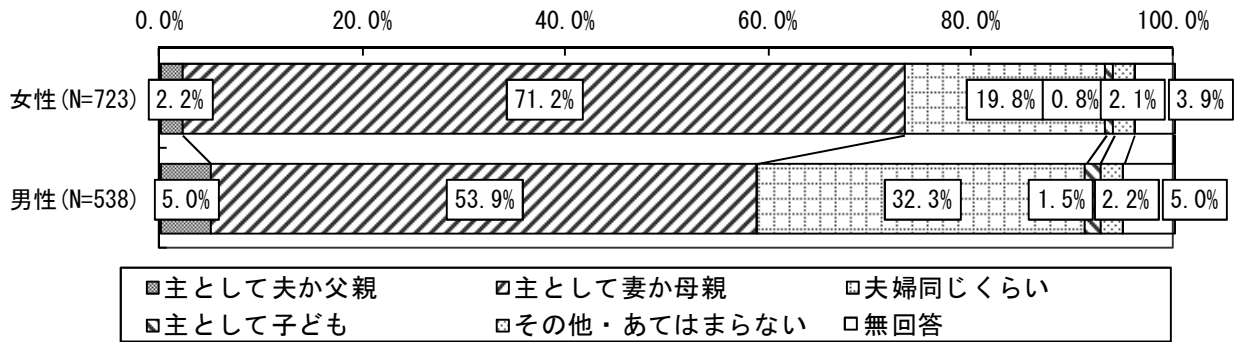


図表 家事・育児等の役割分担（ゴミ出し）－年齢別

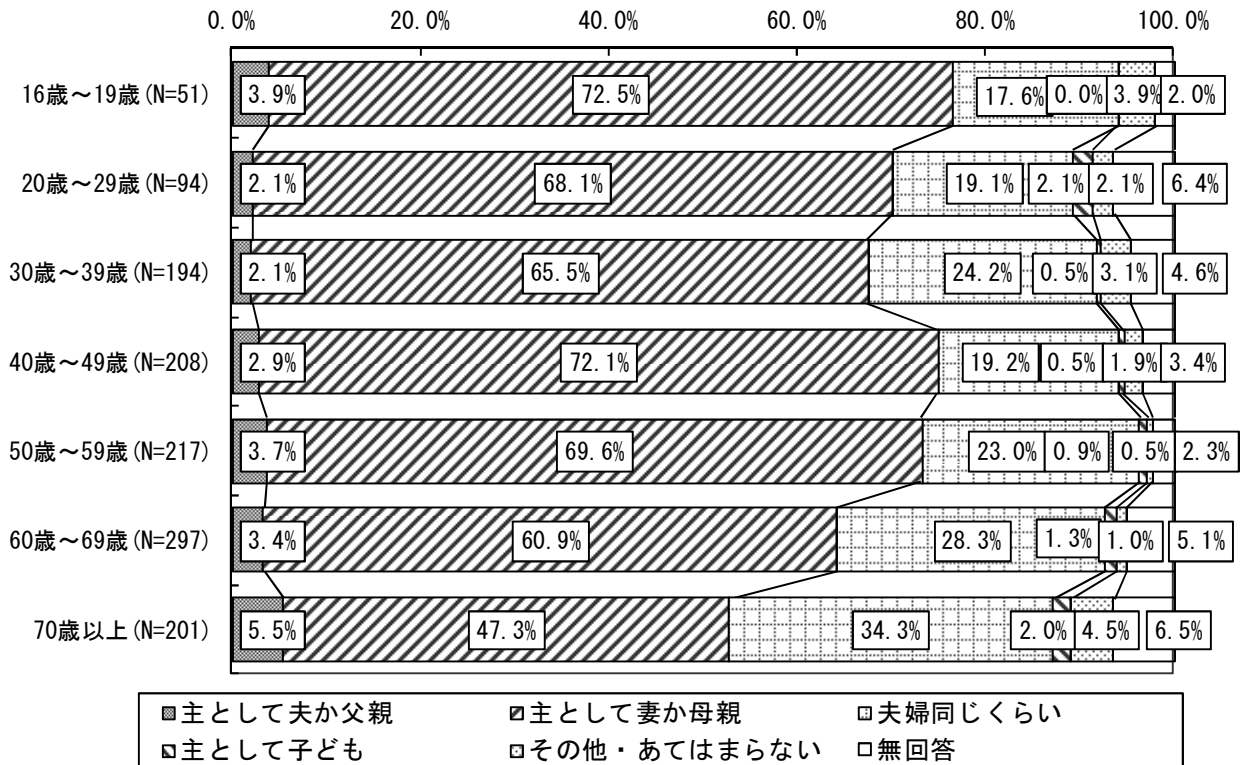


6 日用品の買物

図表 家事・育児等の役割分担（日用品の買物）－性別



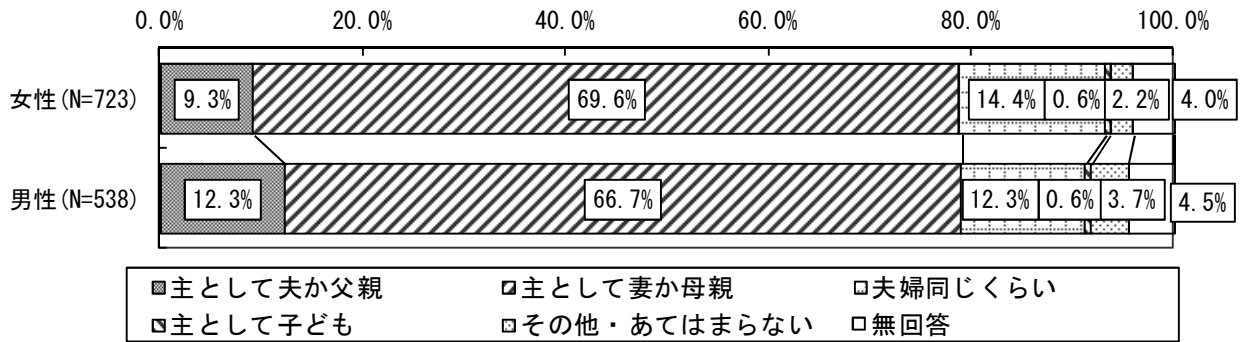
図表 家事・育児等の役割分担（日用品の買物）－年齢別



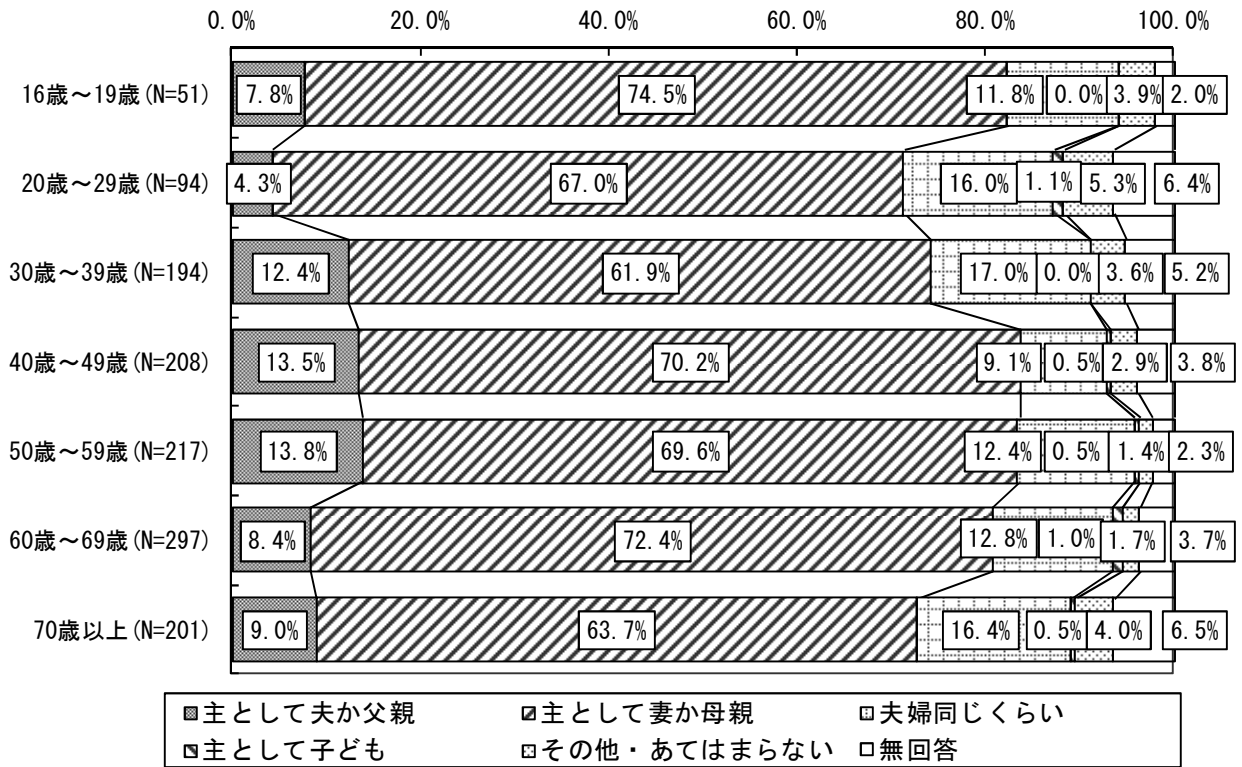


7 家計の管理

図表 家事・育児等の役割分担（家計の管理）－性別

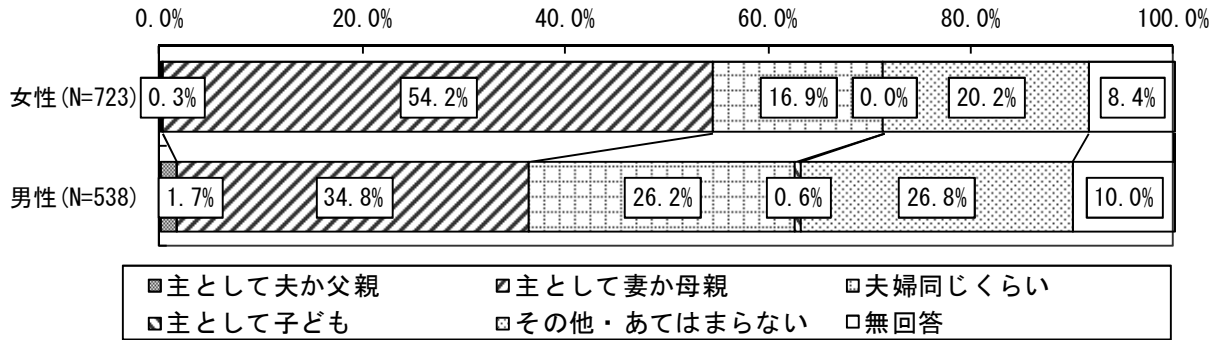


図表 家事・育児等の役割分担（家計の管理）－年齢別

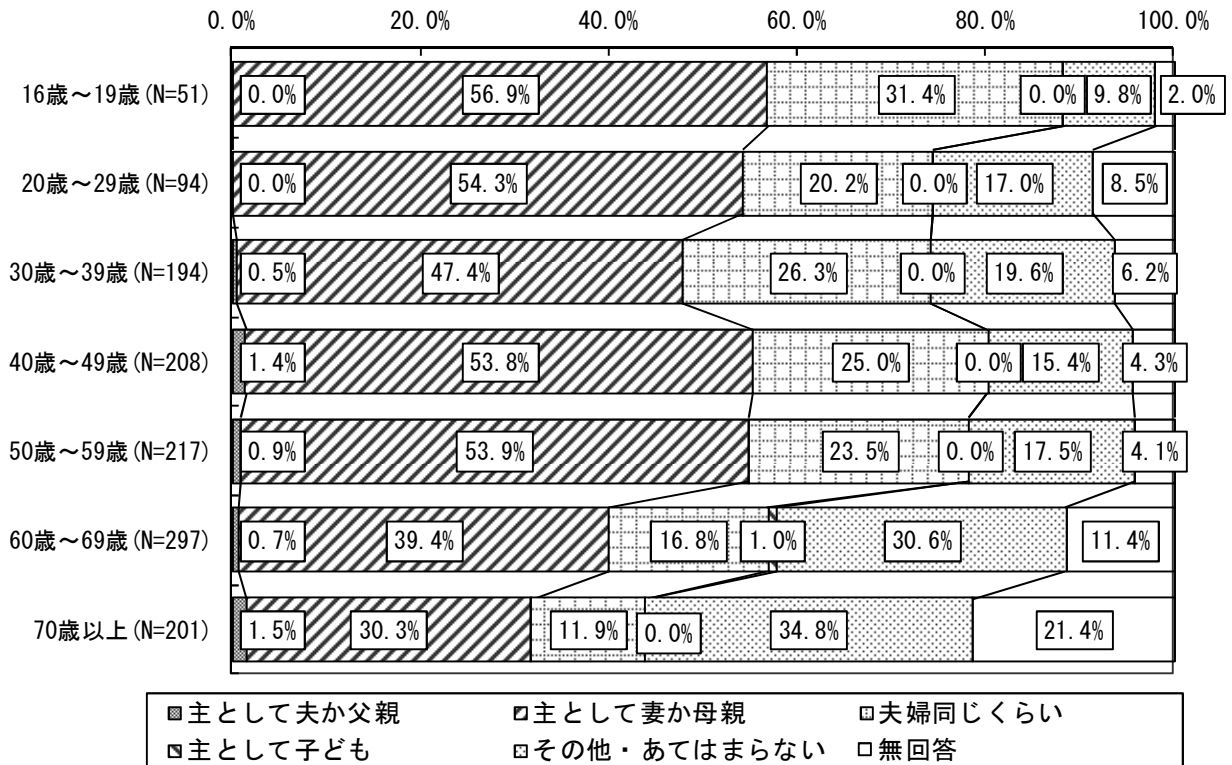


## 8 子どもの世話やしつけ

図表 家事・育児等の役割分担（子どもの世話やしつけ）－性別

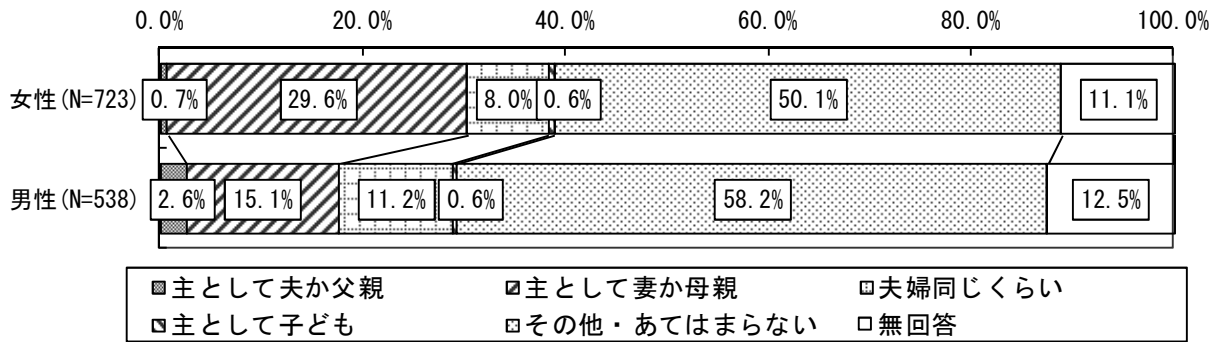


図表 家事・育児等の役割分担（子どもの世話やしつけ）－年齢別

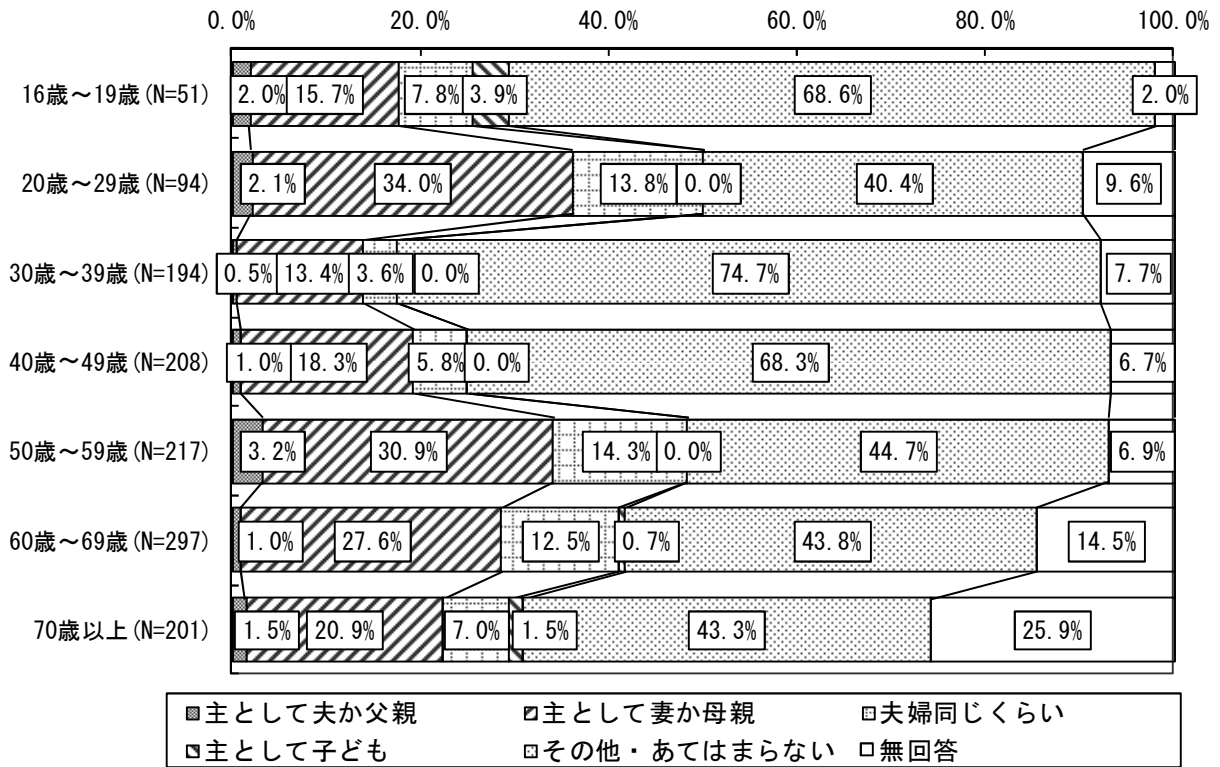


9 高齢者や病人の介護

図表 家事・育児等の役割分担（高齢者や病人の介護）－性別

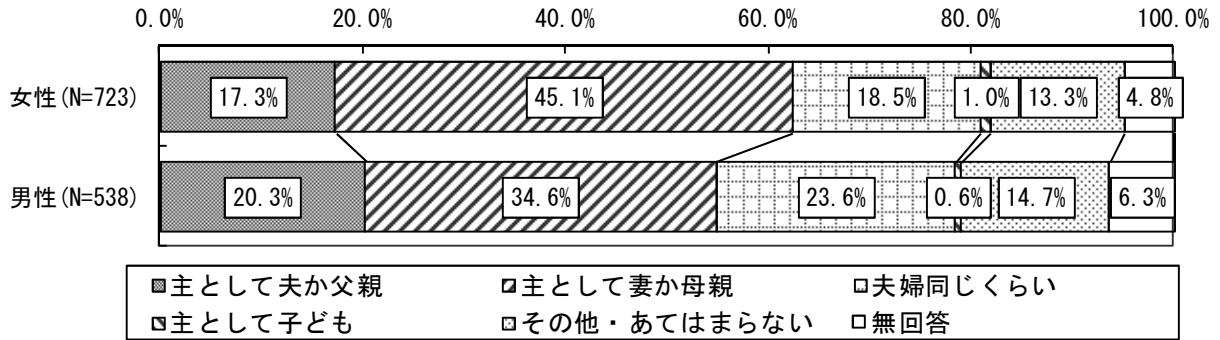


図表 家事・育児等の役割分担（高齢者や病人の介護）－年齢別

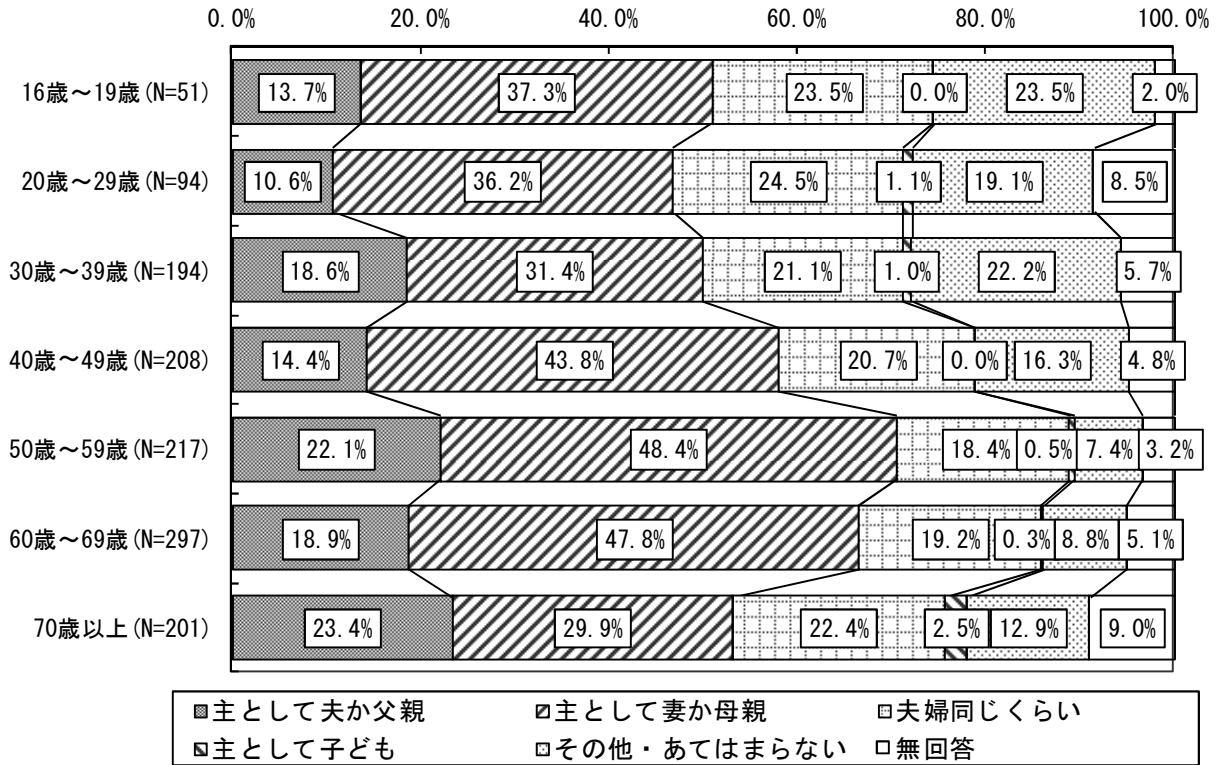


10 自治会などの地域活動

図表 家事・育児等の役割分担（自治会などの地域活動）－性別



図表 家事・育児等の役割分担（自治会などの地域活動）－年齢別



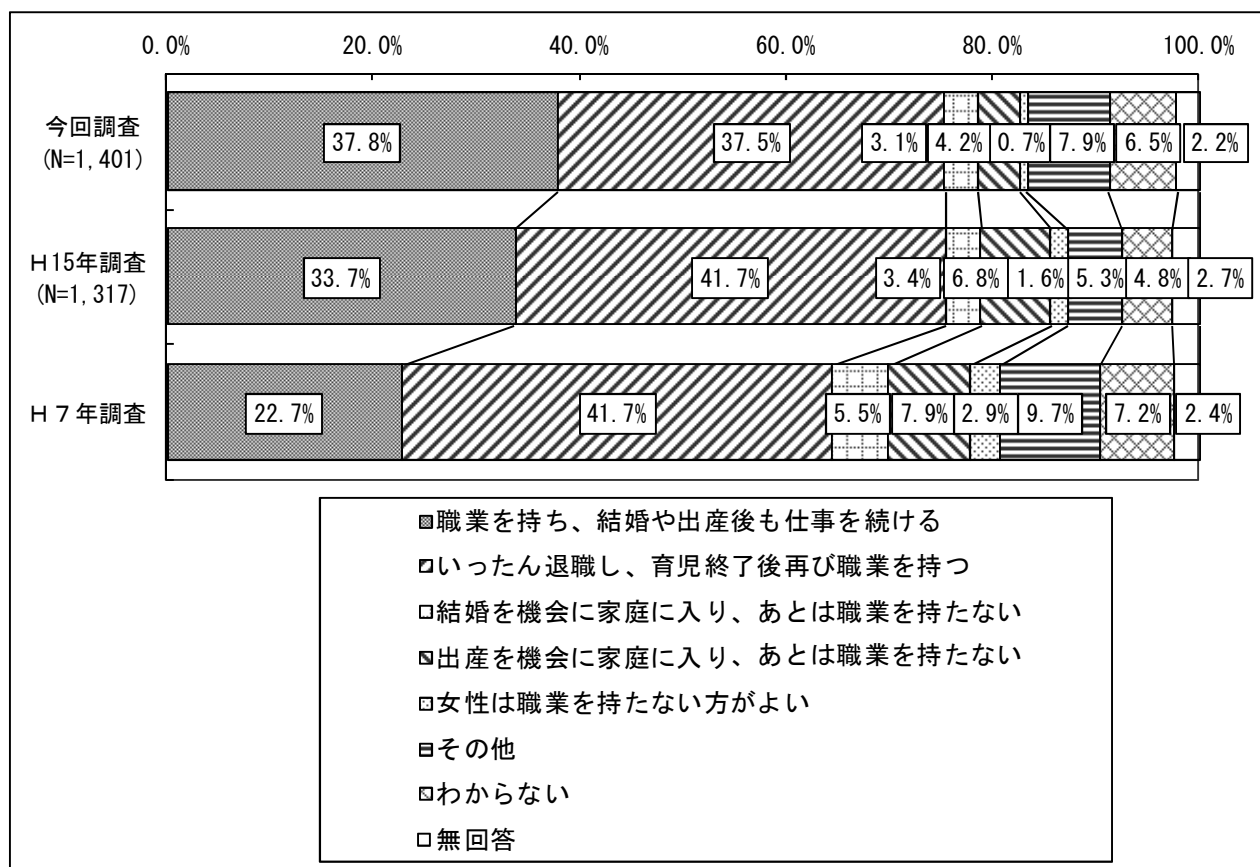
#### (4) 女性が職業を持つことについての考え

問4 女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。  
(いずれか1つに○)

●女性が職業を持つことに対する考え方では、「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける」が37.8%、「いったん退職し、育児終了後再び職業を持つ」が37.5%と職業を持ち続けることが望ましいとの考え方が大半を占めている。

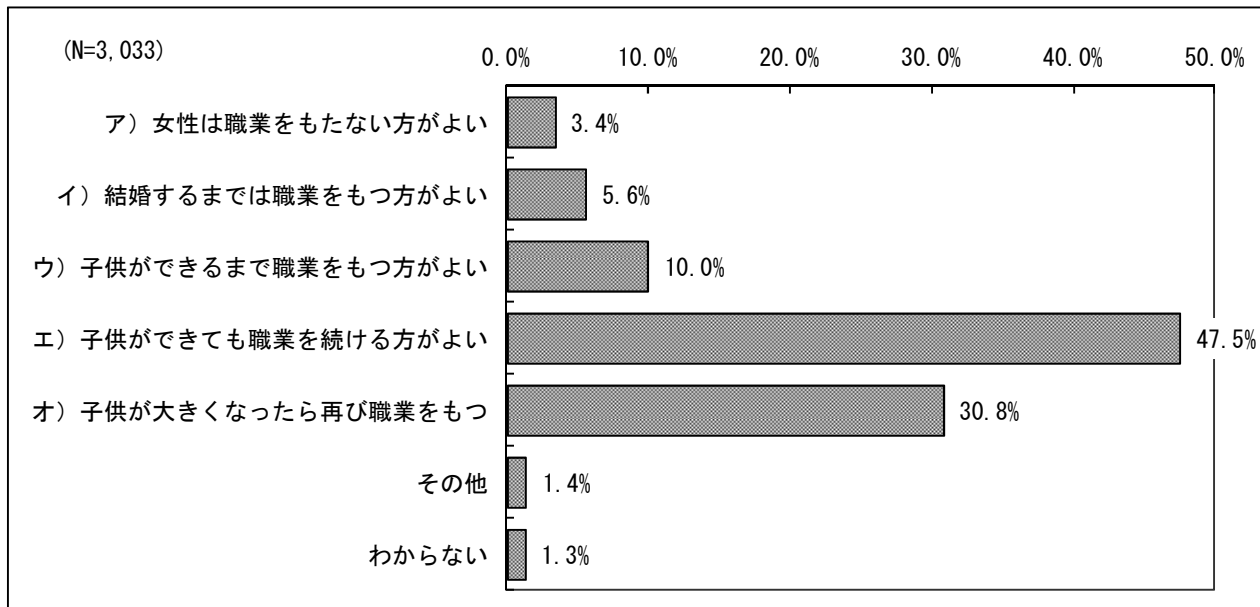
●前回調査と比較すると、「職業をもち、結婚や出産後も仕事を続ける」が少し増えている。

図表 女性が職業を持つことについての考え—経年変化



●内閣府調査と比較すると、選択肢が異なっているが、生駒市調査と同様の傾向を示しており、「子供ができて職業を続ける方がよい」が47.5%と最も多く、次いで「子供が大きくなったら再び職業をもつ」の30.8%となり、仕事を続けていくことに賛成の意見が多くなっている。

図表 (参考) 女性が職業を持つことについての考え  
 —平成24年内閣府男女共同参画に関する世論調査

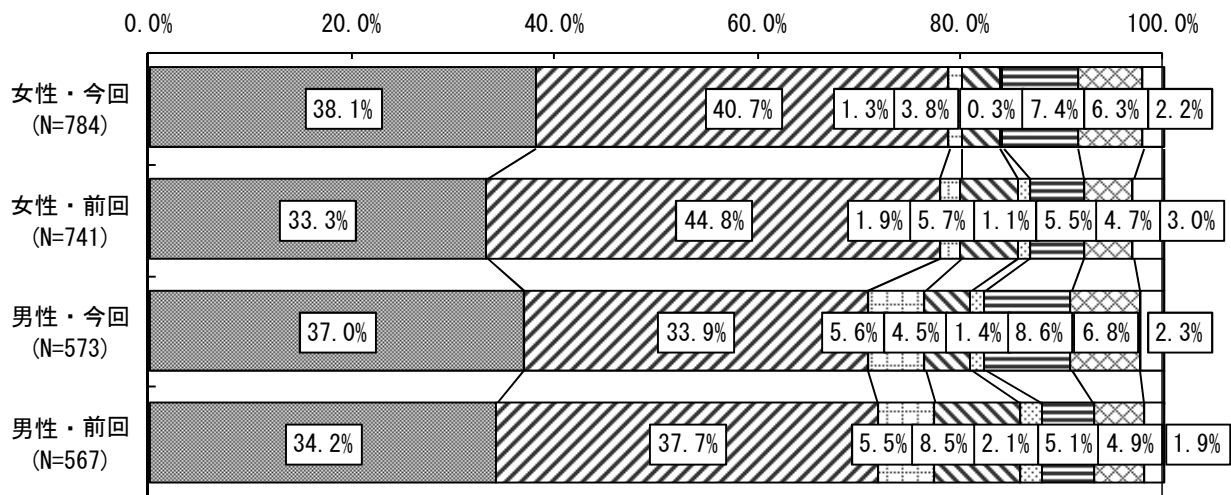


●性別にみると、男女ともに「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける」や「いったん退職し、育児終了後再び職業を持つ」が多いが、「女性」は「いったん退職し、育児終了後再び職業を持つ」が40.7%と最も多く、「男性」は「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける」が37.0%と最も多くなっている。

●前回と比較すると男女ともに「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける」が増加している。

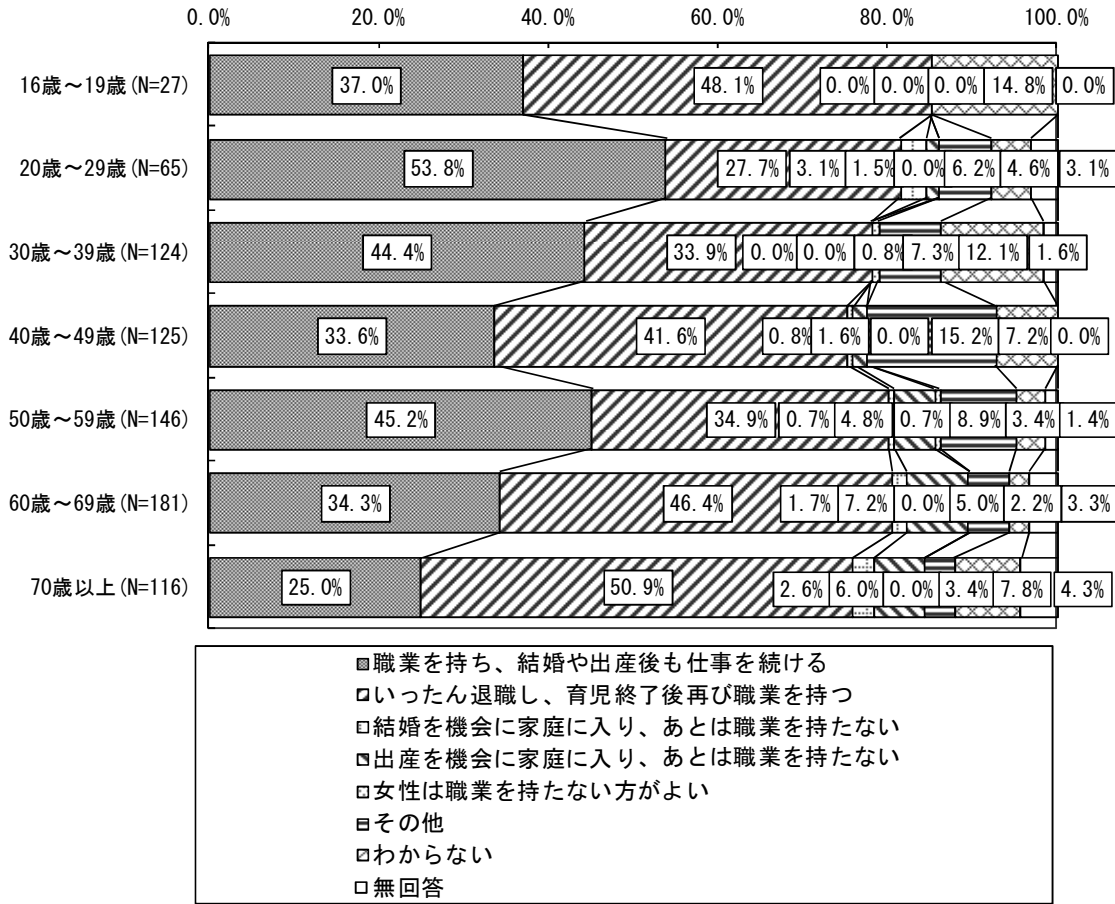
●性・年齢別にみると、男女とも同じような傾向を示しており、「職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける」は、「20歳代」が最も多く、「30歳代」や「40歳代」では減少し、「50歳代」になるとまた増加する傾向となっている。

図表 女性が職業を持つことについての考え－性別

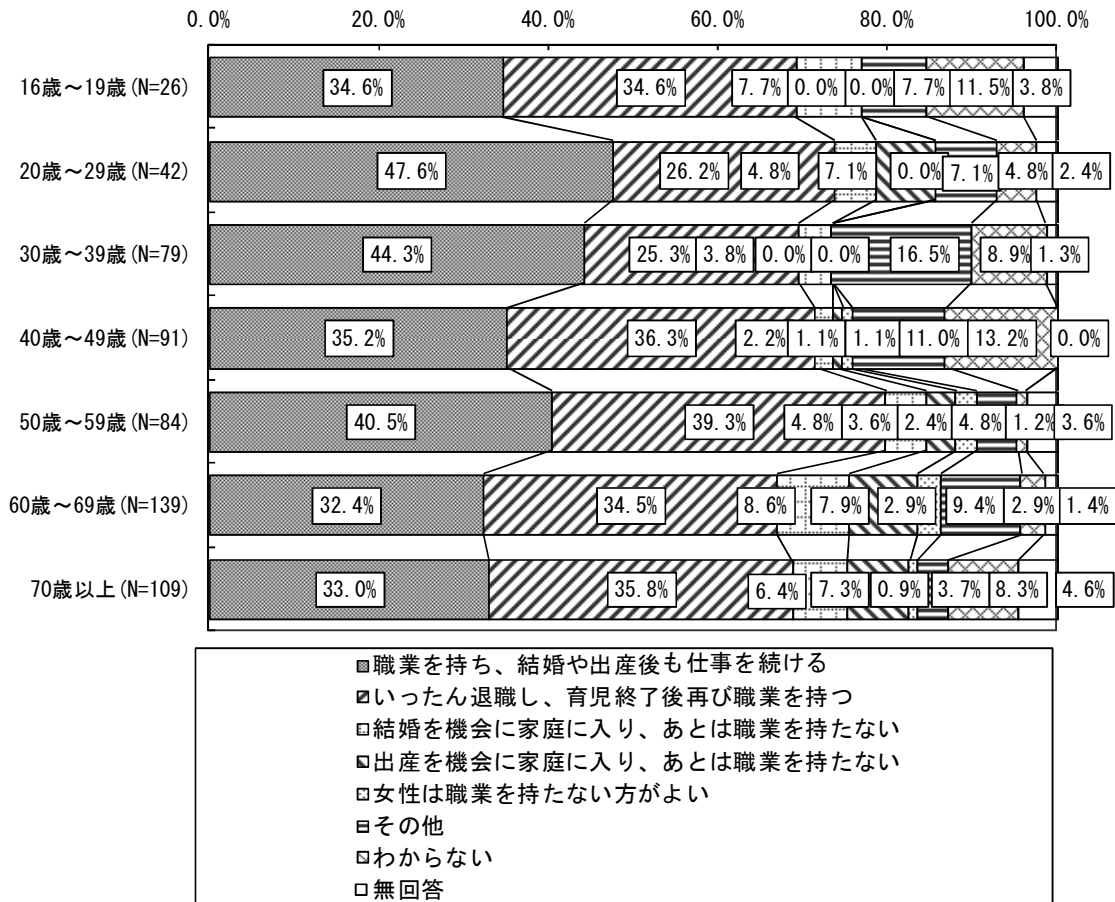


- 職業を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける
- ▣ いったん退職し、育児終了後再び職業を持つ
- 結婚を機会に家庭に入り、あとは職業を持たない
- ▣ 出産を機会に家庭に入り、あとは職業を持たない
- 女性は職業を持たない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

図表 女性が職業を持つことについての考え—女性・年齢別



図表 女性が職業を持つことについての考え—男性・年齢別



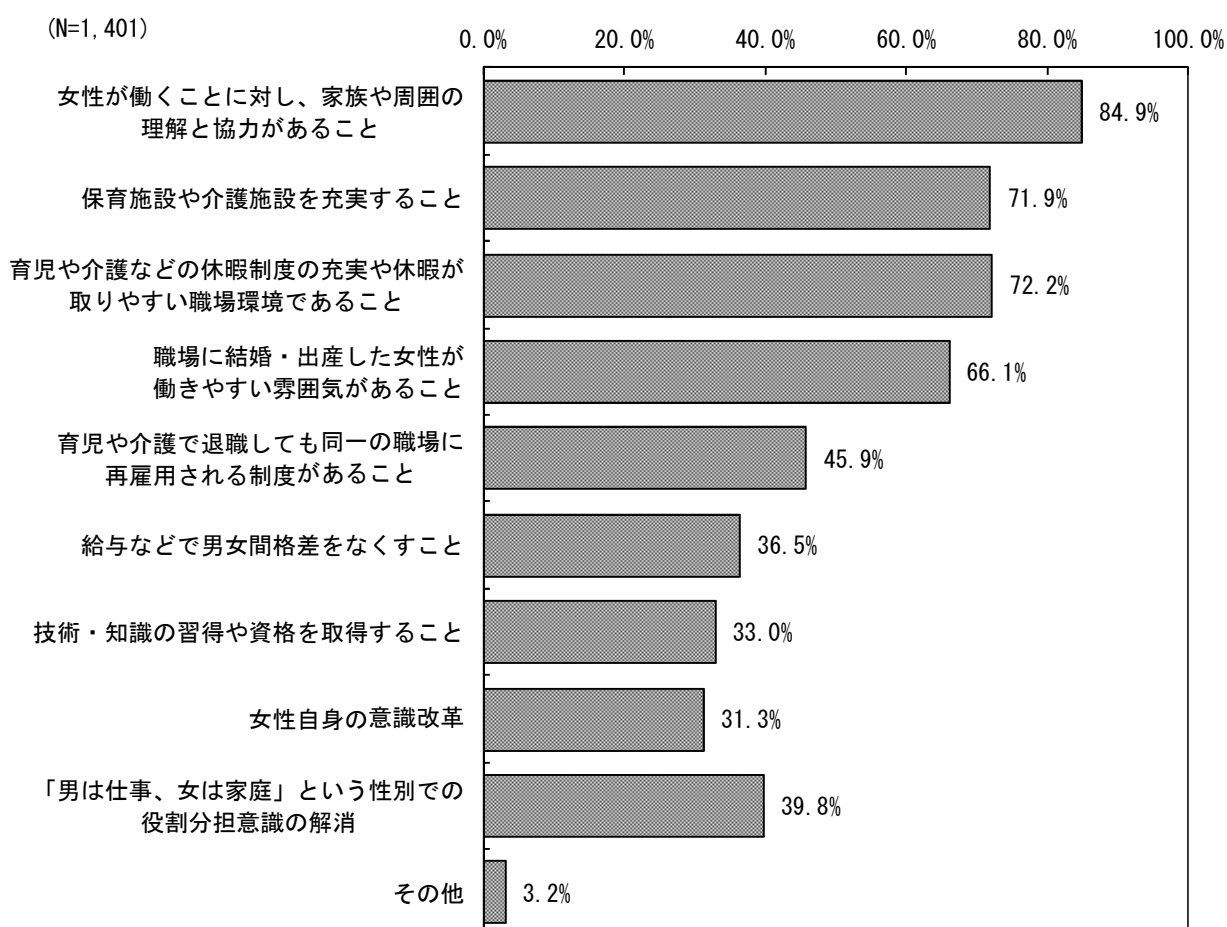


## (5) 女性が仕事を続けるために必要と思うこと

問5 女性が仕事を続けるために必要なことで、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

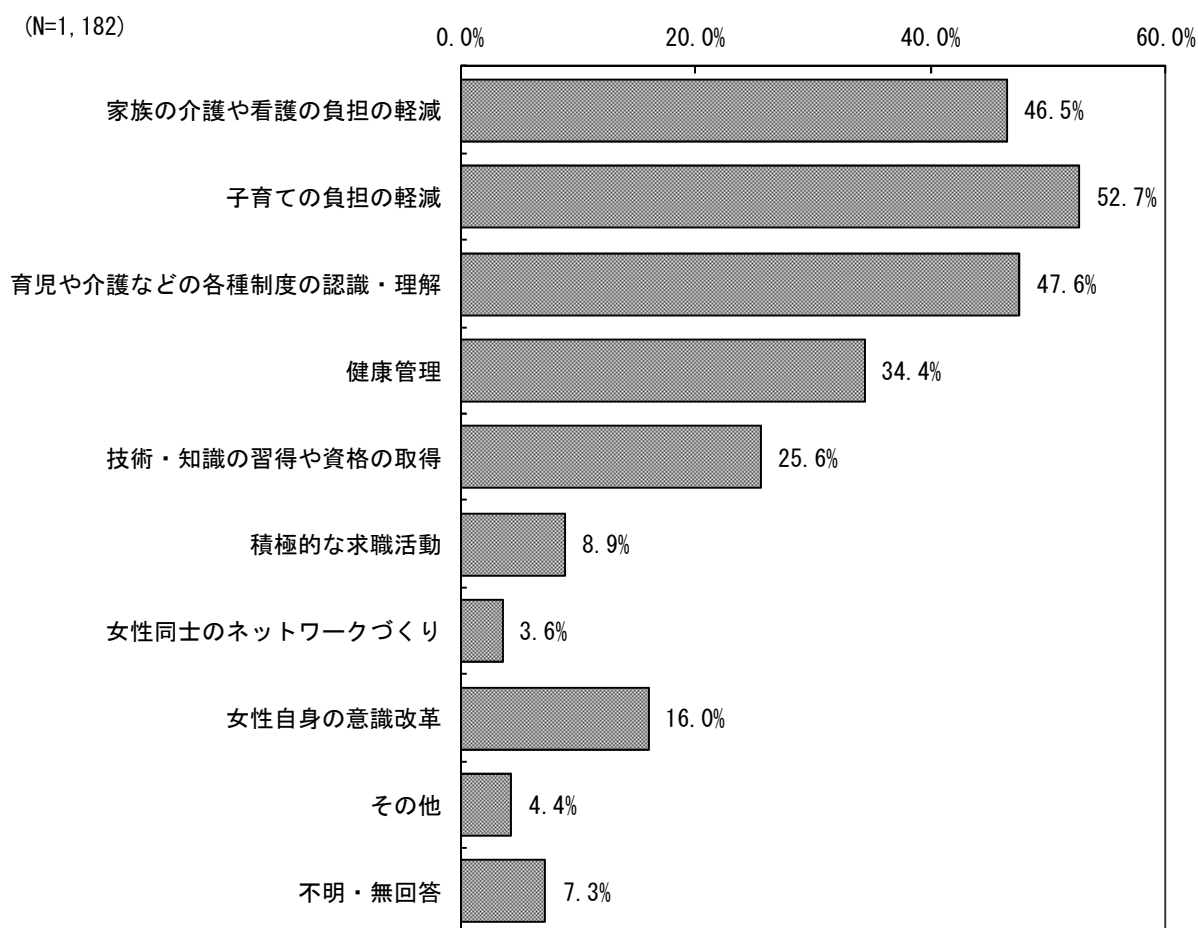
●女性が仕事を続けるために必要なことでは、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が84.9%、「育児や介護などの休暇制度の充実や休暇が取りやすい職場環境であること」が72.2%。「保育施設や介護施設を充実すること」が71.9%、「職場に結婚・出産した女性が働きやすい雰囲気があること」が66.1%とこの4項目が多くなっている。

図表 女性が仕事を続けるために必要と思うこと



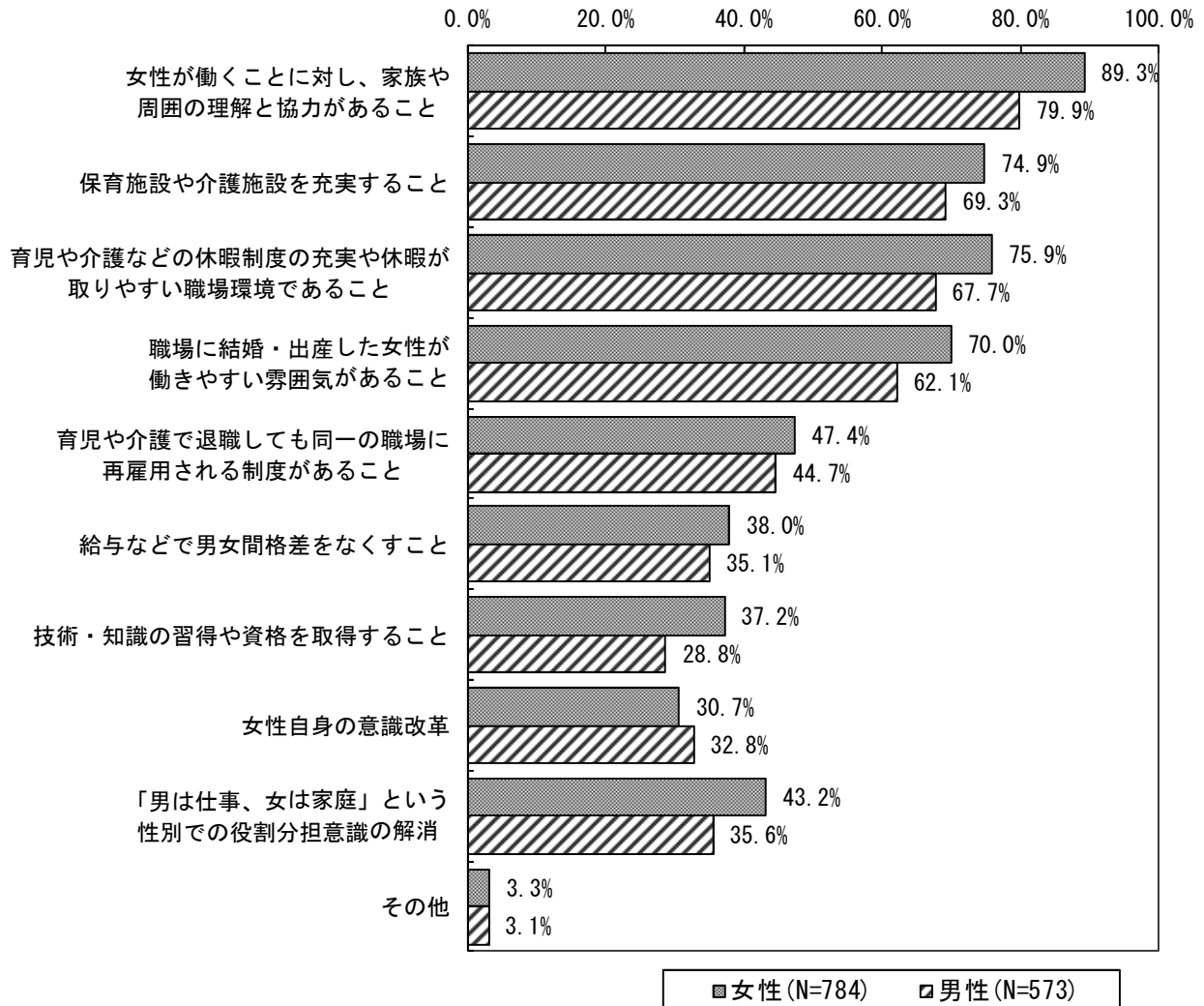
●奈良県県民アンケート調査と比較すると、選択肢の項目が違っているが、奈良県調査では「子育ての負担の軽減」が52.7%と最も多く、次いで「育児や介護などの各種制度の認識・理解」の47.6%、「家族の介護や看護の負担の軽減」の46.5%となり、生駒市調査と同様、子育てや介護などの負担軽減を求める意見が上位となっている。

図表 (参考) 女性が仕事を続けるために必要と思うこと  
—平成25年度 奈良県県民アンケート調査



- 性別にみると、「女性自身の意識改革」を除くいずれの項目でも、「女性」のほうが「男性」に比べて多くなっている。
- 「女性自身の意識改革」は、「男性」が32.8%で、「女性」の30.7%を上回っており、男性は、女性自身の意識改革の必要性をより強く思っている。

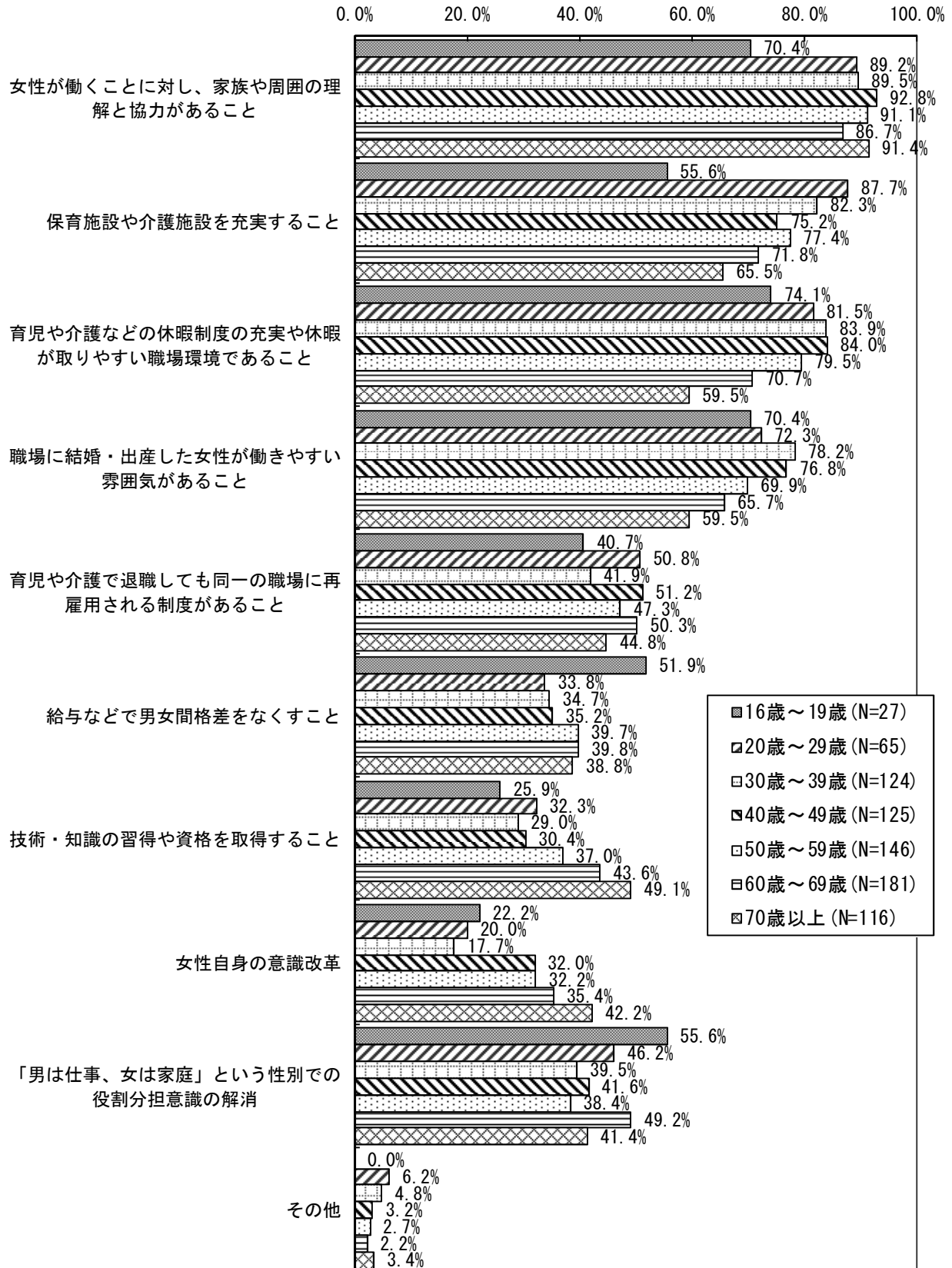
図表 女性が仕事を続けるために必要と思うこと－性別



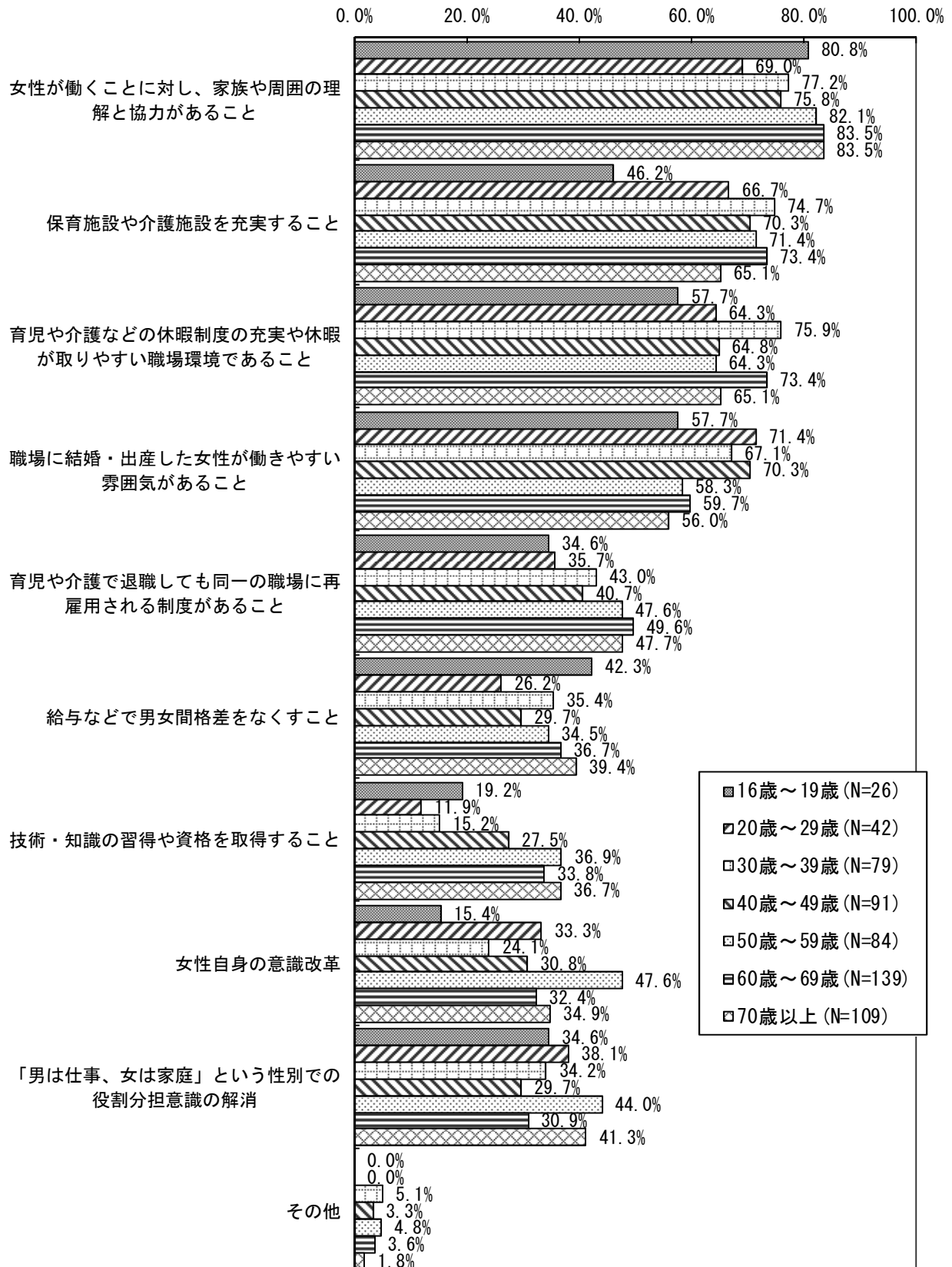
●性・年齢別にみると、「保育施設や介護施設を充実すること」で、「女性 20 歳代」や「30 歳代」で 8 割を超えており、ニーズが高くなっている。

●「女性自身の意識改革」は、「男性 50 歳代」で 47.6%と多くなっている。

図表 女性が仕事を続けるために必要と思うこと－女性・年齢別



図表 女性が仕事を続けるために必要と思うこと－男性・年齢別



(6) 育児休業や介護休業の利用状況

お仕事をされている方におたずねします。

問6 育児休業や介護休業について、あなたの職場であてはまるものをお答えください。

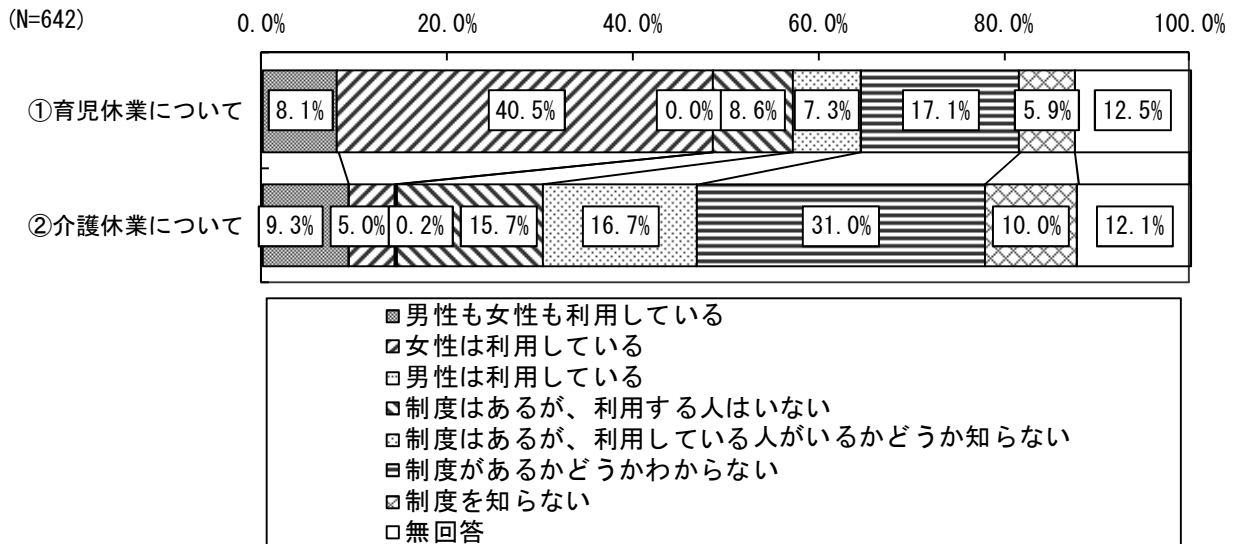
(①、②のそれぞれについて、いずれか1つに○)

- ①育児休業について
- ②介護休業について

●育児休業制度や介護休業制度についての利用状況をたずねたところ、育児休業制度は、「女性は利用している」が40.5%で最も多くなっている。

●介護休業制度では、「制度があるかどうか分からない」が31.0%と最も多くなっている。

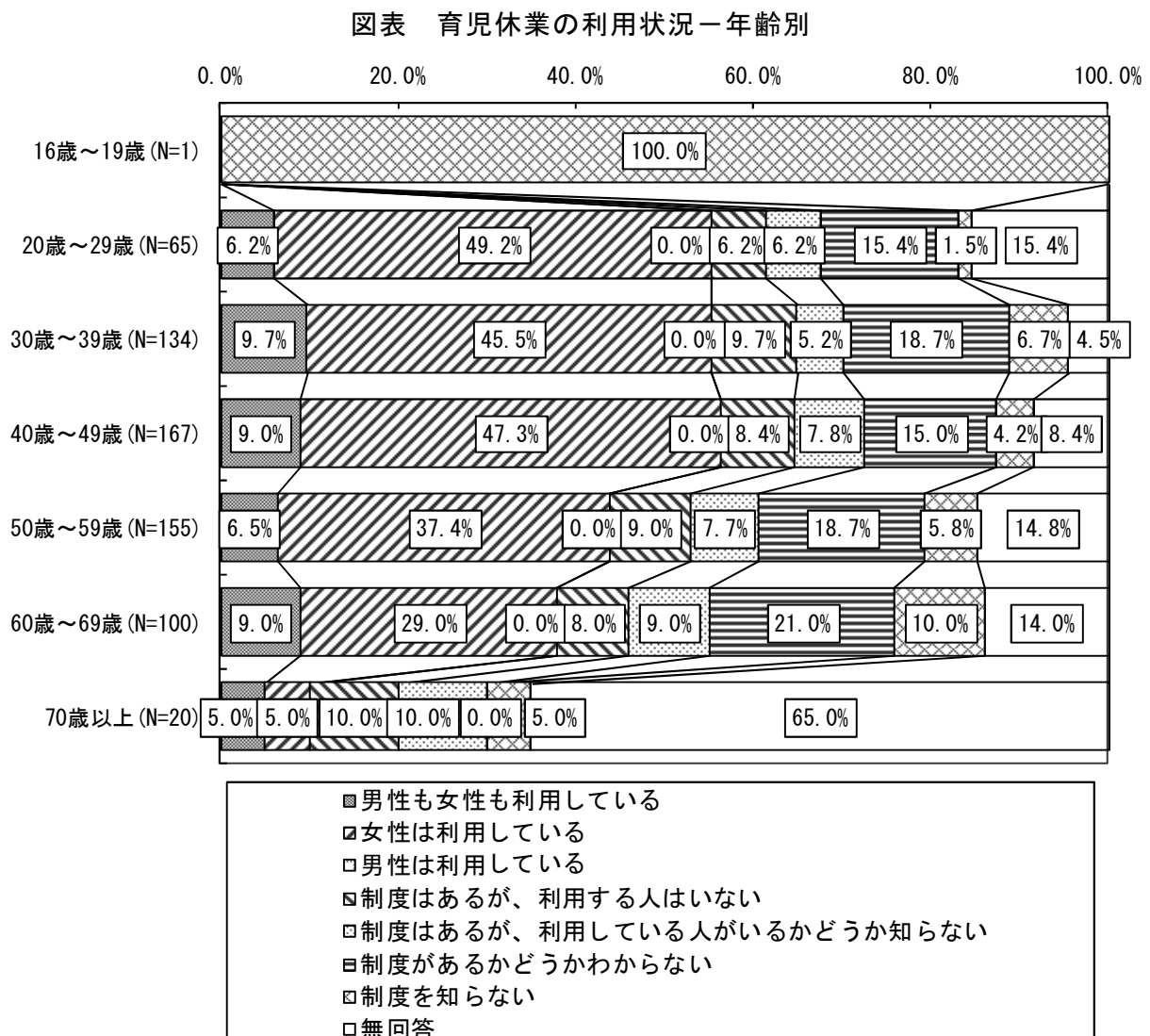
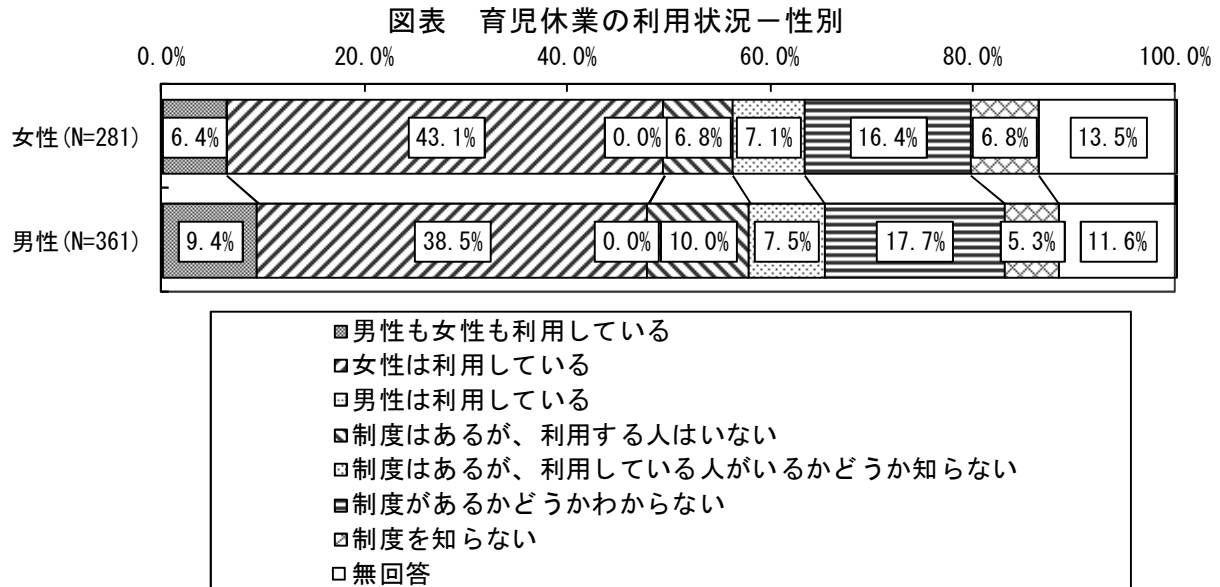
図表 育児休業や介護休業の利用状況



① 育児休業について

●性別に育児休業制度の利用状況についてみると、男女ともに「女性は利用している」が、女性が43.1%、男性は38.5%と最も多くなっている。

●年齢別にみると、「20歳代から40歳代」で「女性は利用している」が4割以上となっている。なお、「10歳代」は「制度を知らない」が100%となっているが、回答数は1件である。

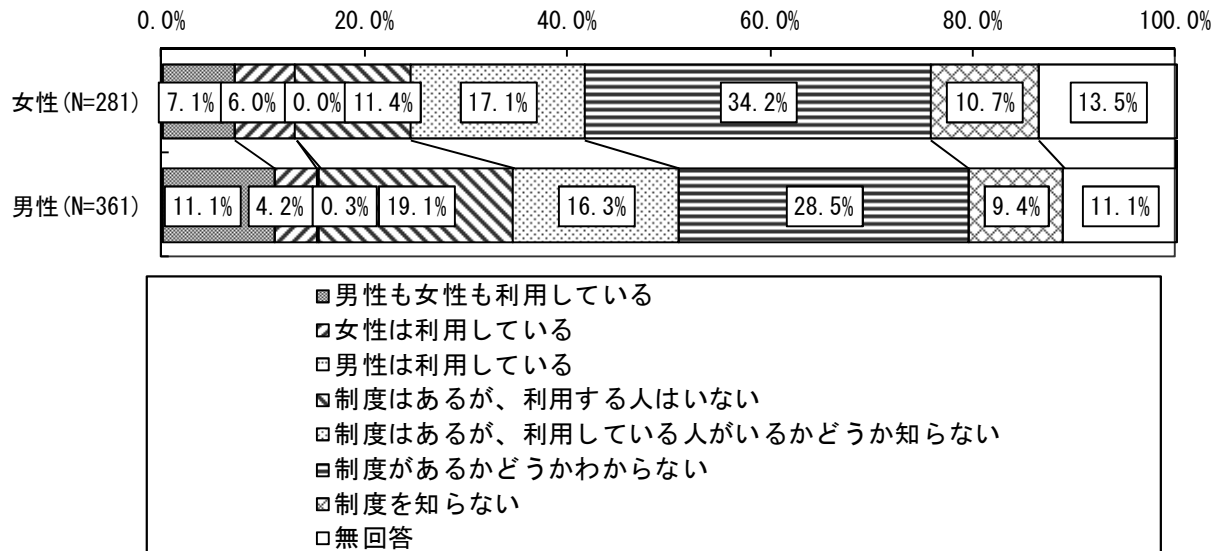


## ② 介護休業について

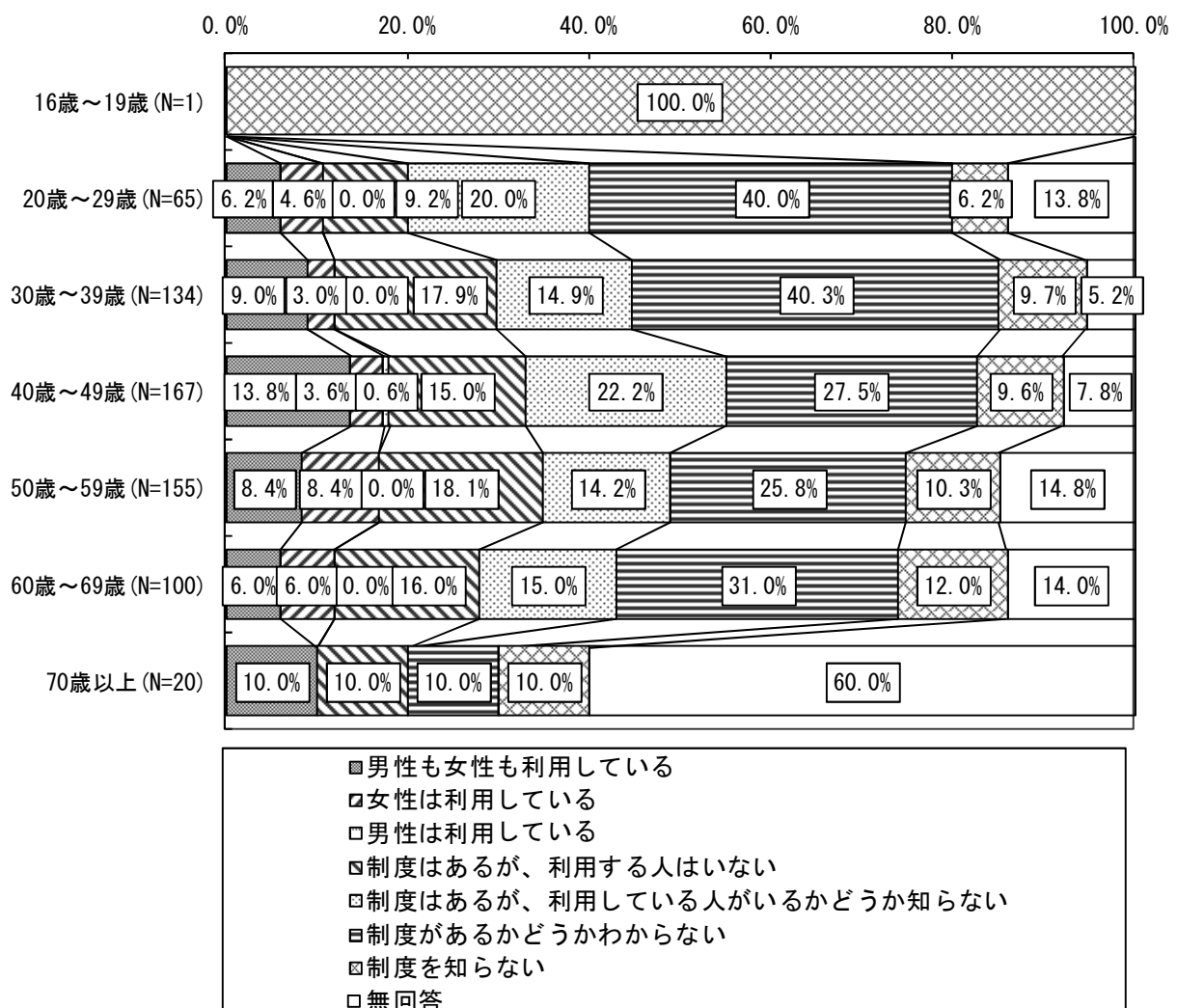
●同様に、性別に介護休業制度の利用状況をみると、男女ともに「制度があるかどうか分からない」が最も多くなっており、制度の認知があまりなされていない状況となっている。

●年齢別にみると、「制度があるかどうか分からない」は「20歳代～60歳代」で多くなっている。なお、「10歳代」は「制度を知らない」が100%となっているが、回答数は1件である。

図表 介護休業の利用状況－性別



図表 介護休業の利用状況－年齢別





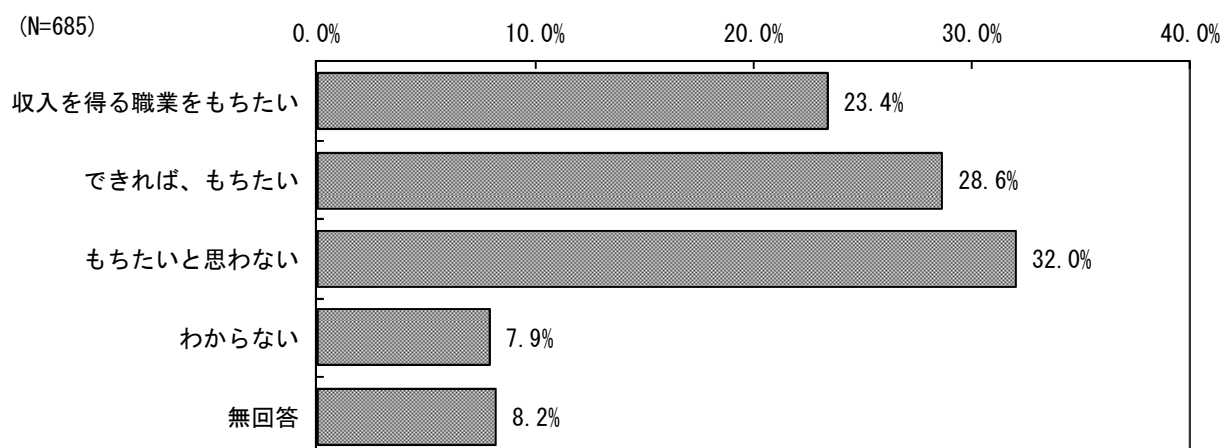
## (7) 収入を得る職業を持ちたいか

現在、お仕事をされていない方（主婦・主夫、学生、無職など収入がない方）におたずねします。

問7 あなたは、今後、収入を得る職業を持ちたいと思いますか。（いずれか1つに○）

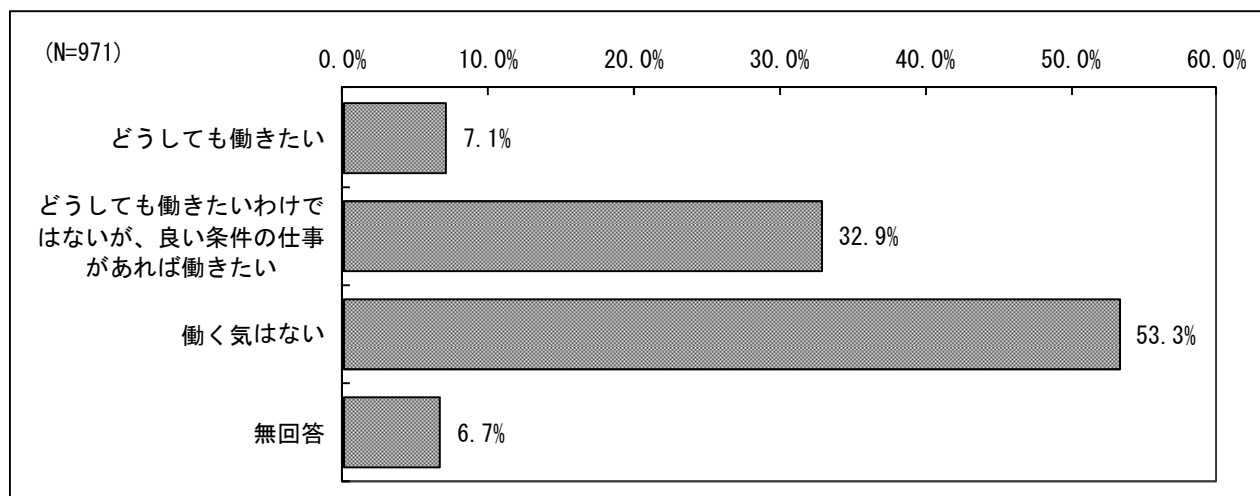
- 仕事をしていない人について、今後収入を得る仕事を持ちたいかどうかをたずねたところ、「もちたいと思わない」が32.0%で最も多いが、「できれば、もちたい」の28.6%と「収入を得る職業を持ちたい」の23.4%を合わせると、52.0%と半数以上の人は仕事を持ちたいと考えている。
- 性別にみると、女性は「できれば、もちたい」が31.3%と最も多く、男性は「もちたいと思わない」の36.7%が最も多くなっている。

図表 収入を得る職業を持ちたいか

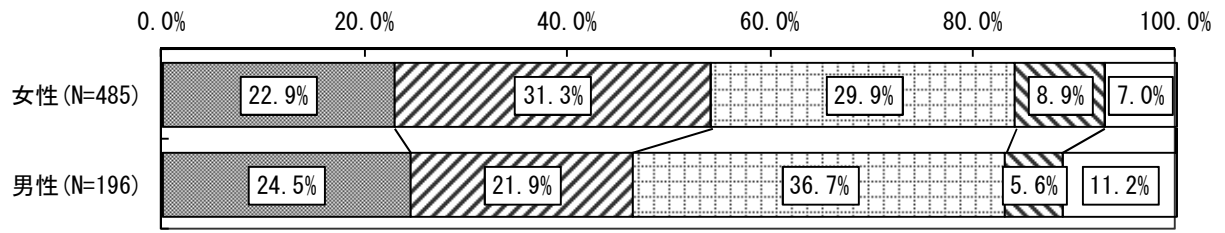


- 奈良県県民アンケート調査と比較すると、選択肢の項目が違っているが、奈良県調査では、「働く気はない」が52.3%と最も多く、生駒市調査よりも働く意志のない人が多くなっている。

図表 (参考) 収入を得る職業を持ちたいかー平成23年度 奈良県県民アンケート調査



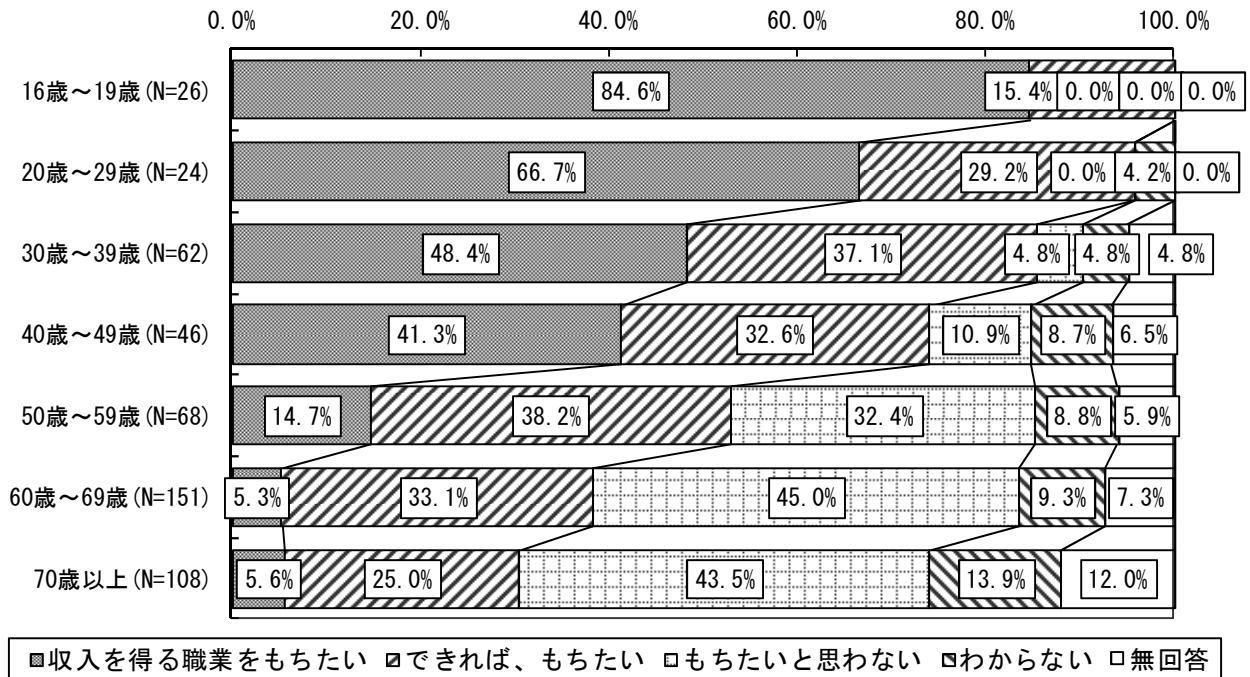
図表 収入を得る職業を持ちたいかー性別



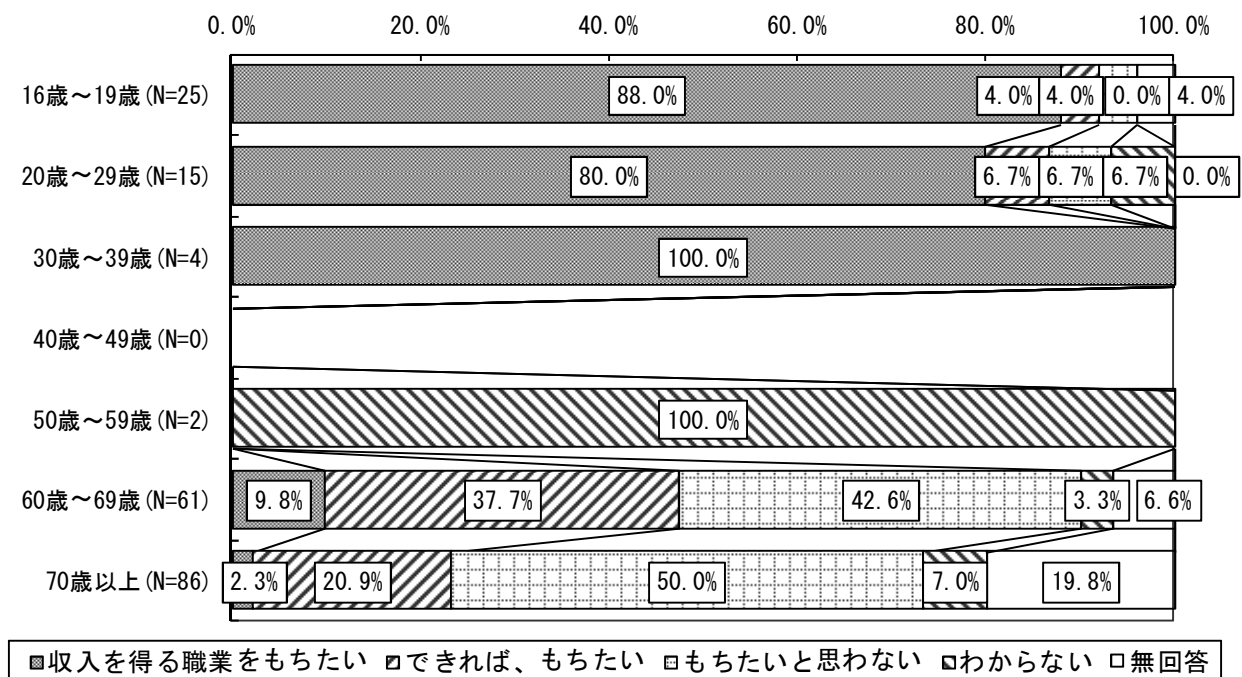
■収入を得る職業をもちたい □できれば、もちたい □もちたいと思わない □わからない □無回答

●性・年齢別にみると、「収入を得る職業をもちたい」は、「女性」の「10歳代から40歳代」に多くみられ、現在、収入を得る仕事に就いていない女性においても、就労意欲は高くなっている。

図表 収入を得る職業をもちたいかー女性・年齢別



図表 収入を得る職業をもちたいかー男性・年齢別



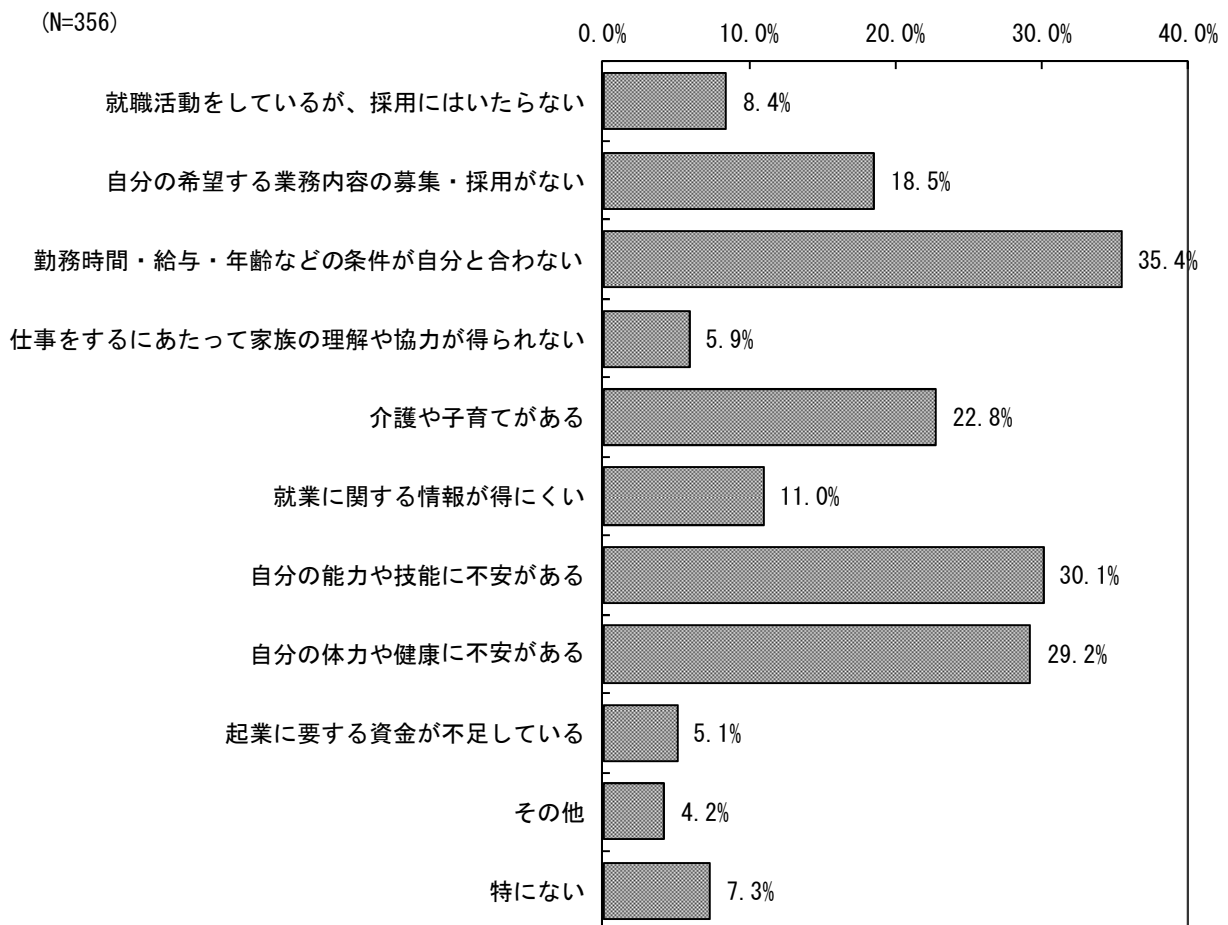
## (8) 今後、就業する上での問題

問7で「1 収入を得る職業をもちたい」「2 できれば、もちたい」と答えられた方におたずねします。

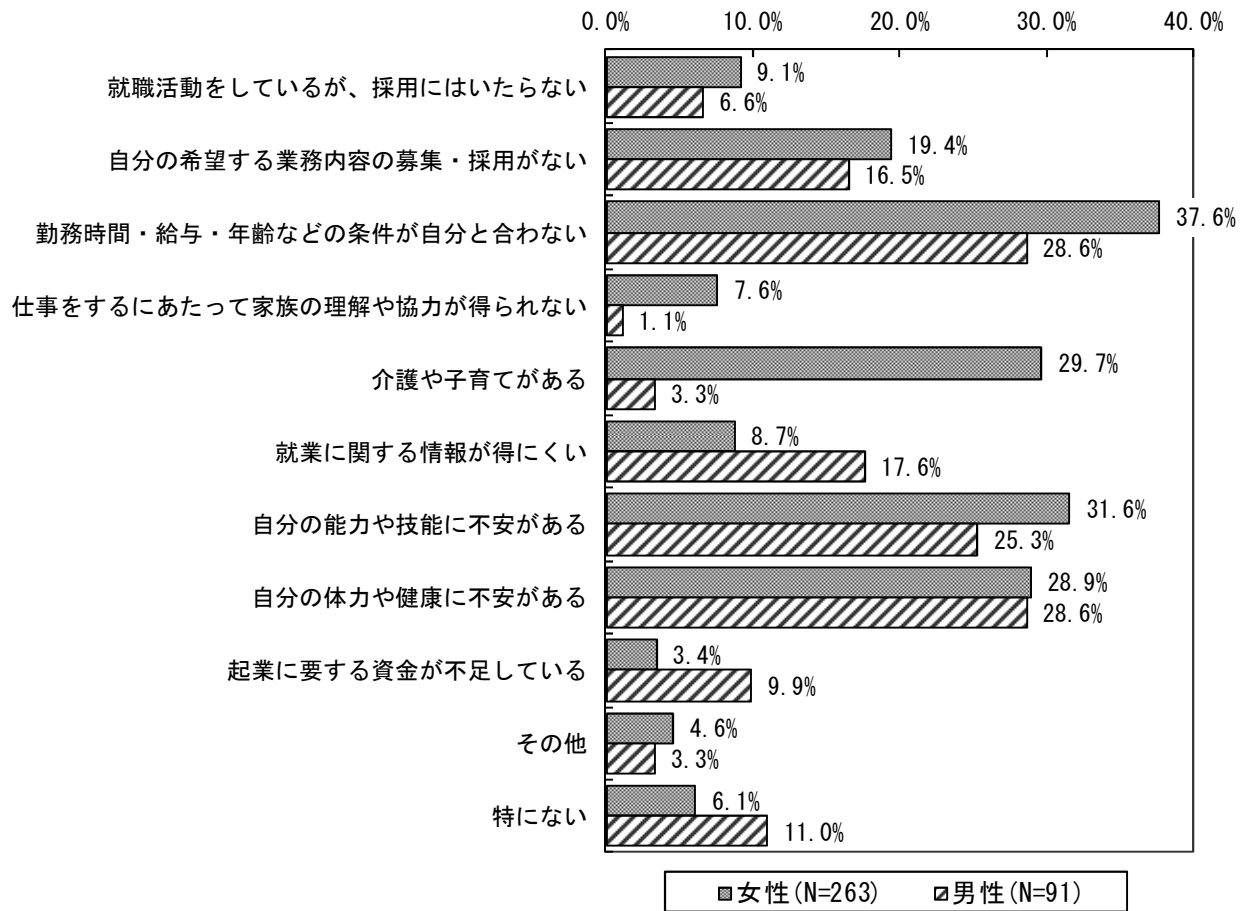
問8 あなたが今後、職業をもつ上で問題となることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 今後、仕事を持つ上で問題となることでは、「勤務時間・給与・年齢などの条件が自分と合わない」が35.4%、「自分の能力や技能に不安がある」が30.1%、「自分の体力や健康に不安がある」が29.2%となっている。
- 性別にみると、男女間で特に差異が大きい項目としては、「介護や子育てがある」で女性の29.7%に対して、男性は3.3%と極端に大きくなっている。
- 年齢別にみると、「10歳代」や「20歳代」では「就職活動をしているが、採用にはいたらない」や「自分の能力や技能に不安がある」が多く、「30歳代」や「40歳代」は「勤務時間・給与・年齢などの条件が自分と合わない」や「介護や子育てがある」が他の年代よりも多くなっている。また、「50歳代以上」となると「自分の体力や健康に不安がある」が就業する上での問題としてあがっている。

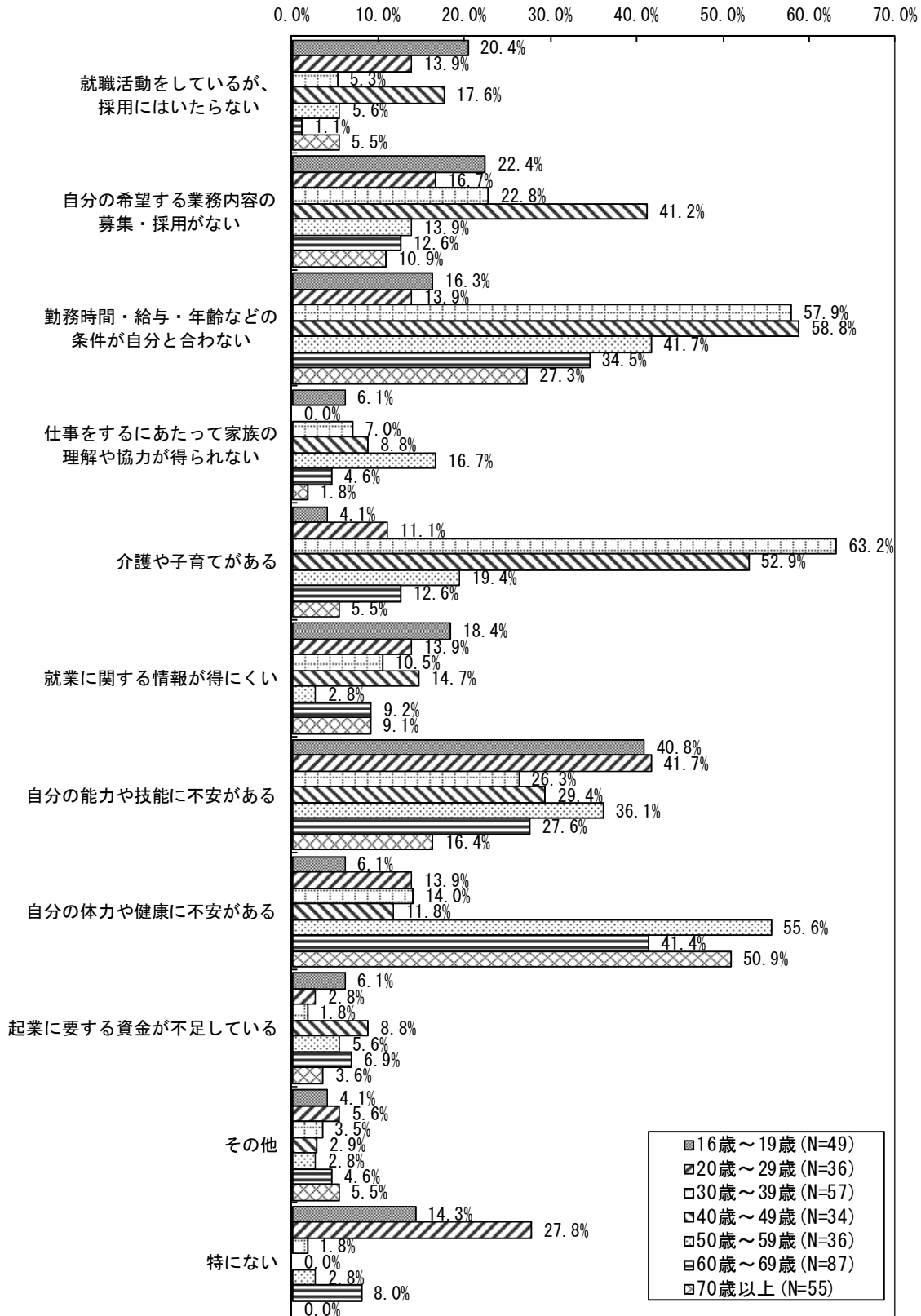
図表 今後、就業する上での問題



図表 今後、就業する上での問題－性別



図表 今後、就業する上での問題一年齢別



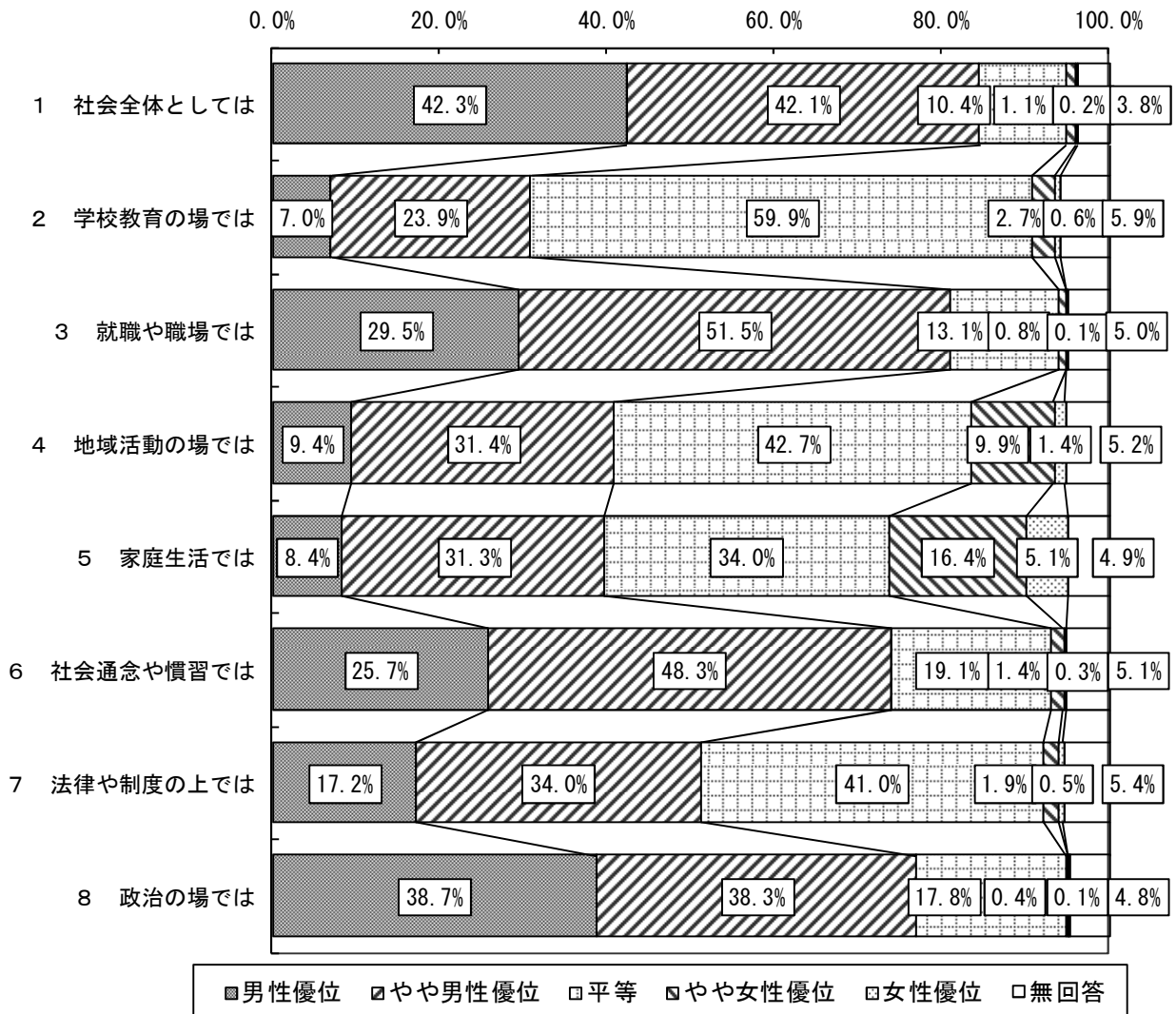
(9) 男女の地位の平等

問9 現在、わが国では次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
あなたの気持ちに最も近いものをお答え下さい。(それぞれいずれか1つに○)

- 男女の地位の平等感については、「男性優位」が多い項目は、「社会全体として」の42.3%、「政治の場」の38.7%、「就職や職場」の29.5%となっている。
- 「平等」が多い項目では、「学校教育の場」が59.9%、「地域活動の場」の42.7%、「法律や制度の上」の41.0%となっている。

図表 男女の地位の平等

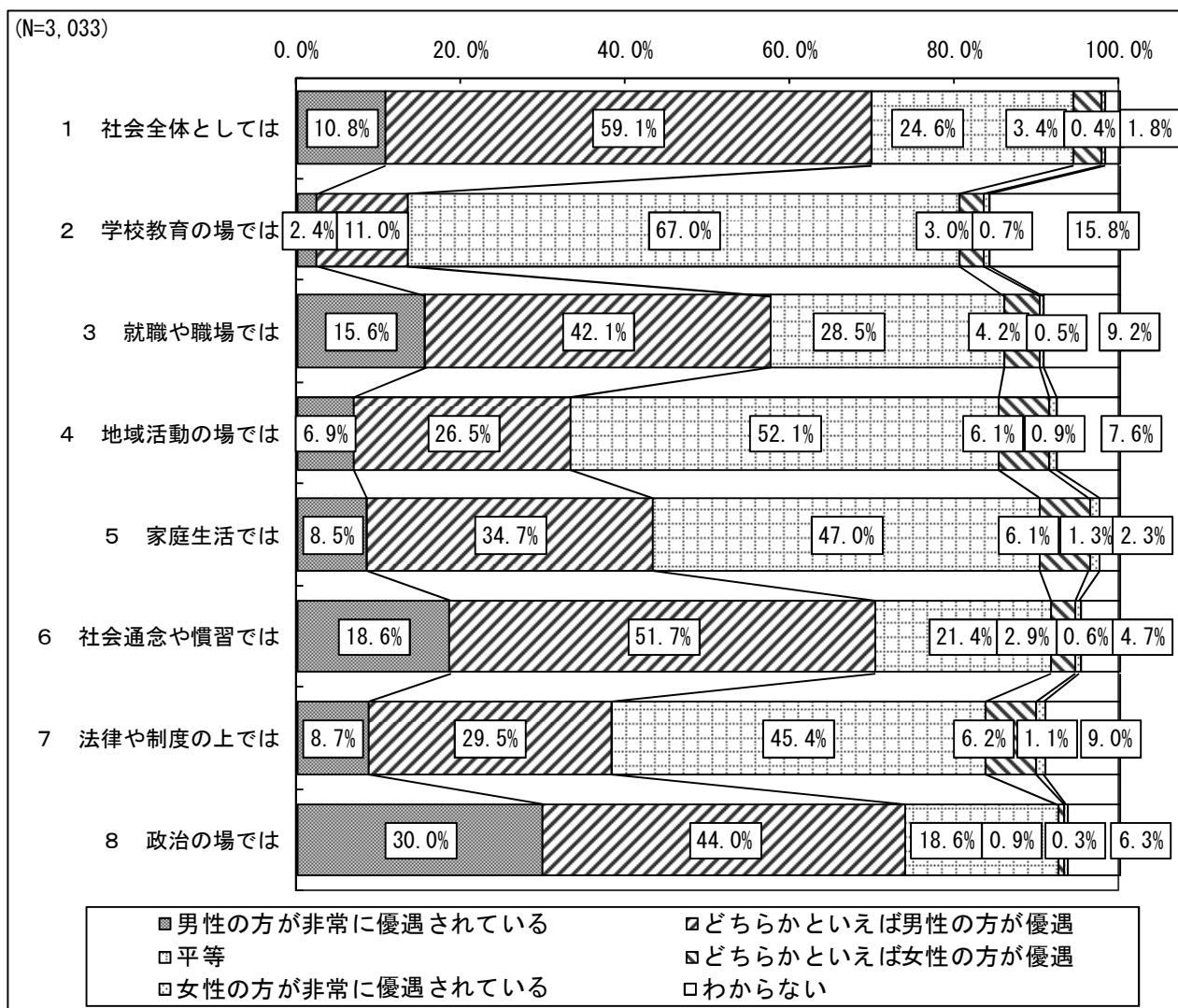
(N=1,401)



●内閣府調査と比較すると、選択肢が異なっているため直接的な比較はむずかしいが、「社会全体としては」をみると、生駒市調査では「男性優位」との回答が合わせて84.4%あり、内閣府調査の69.9%より多く、男性優位とみている傾向がある。

●個別の分野をみても、「家庭生活」での「男性優位」が生駒市調査では39.7%が内閣府調査では43.2%と逆転しているが、それ以外の項目ではいずれも生駒市調査のほうが「男性優位」との回答が多くなっており、さまざまな分野で男性が優位になっているとみられている。

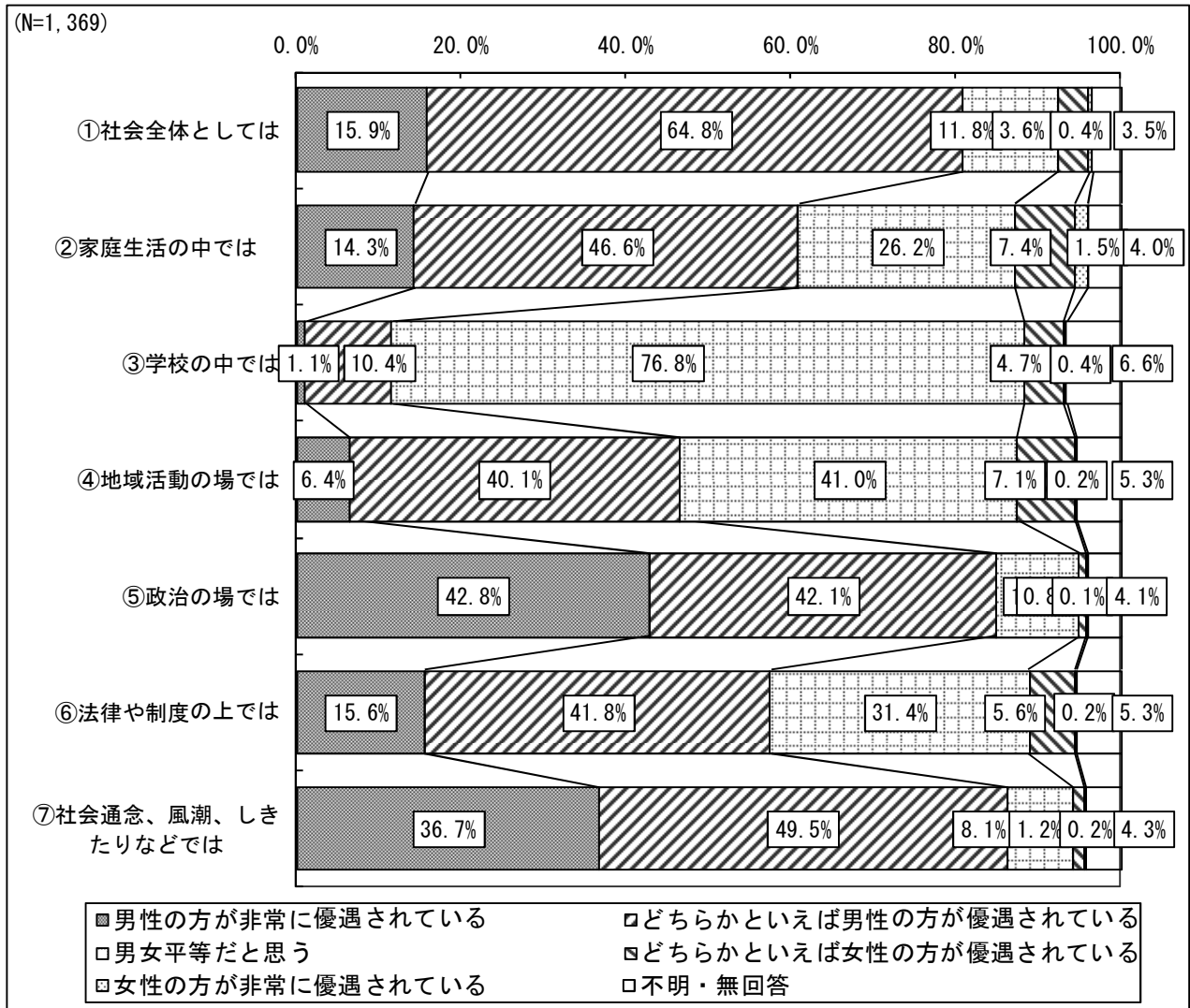
図表 (参考) 男女の地位の平等－平成24年内閣府男女共同参画に関する世論調査





- 奈良県女性就業等意識調査と比較すると、「社会全体としては」では、奈良県調査は「非常に優遇されている」と「どちらかといえば優遇されている」を合わせた「男性優位」が80.7%となり、内閣府調査と同様に生駒市のほうがより男性優位という結果となっている。
- 個別の各分野をみると、「学校の中では」を除くすべての項目で、奈良県調査の方が、生駒市よりも「男性優位」の回答が多くなっている。

図表 (参考) 男女の地位の平等－平成 21 年度 奈良県女性就業等意識調査



- 性別にみると、いずれの項目においても「男性優位」「やや男性優位」との回答は、女性のほうが男性よりも多くなっている。
- また、「平等」との回答は、いずれの項目においても「男性」が「女性」を上回っている。

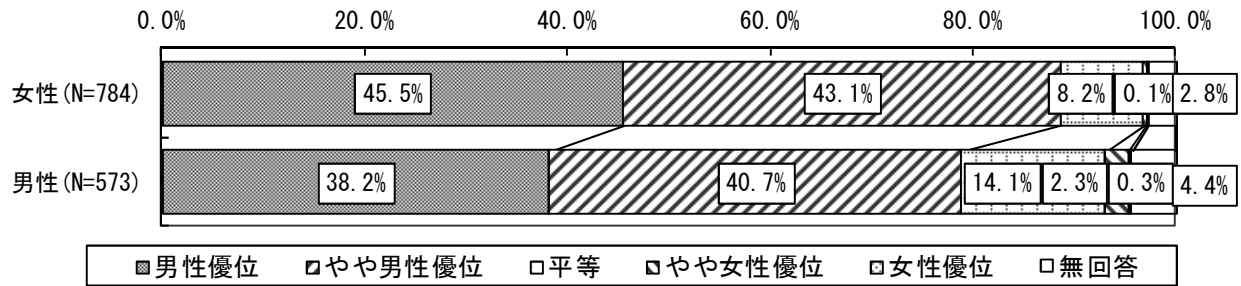
図表 男女の地位の平等－性別

		男性優位	やや男性優位	平等	やや女性優位	女性優位	無回答
1 社会全体としては	女性	45.5%	43.1%	8.2%	0.3%	0.1%	2.8%
	男性	38.2%	40.7%	14.1%	2.3%	0.3%	4.4%
2 学校教育の場では	女性	8.3%	27.7%	56.4%	1.9%	0.5%	5.2%
	男性	5.4%	18.5%	65.8%	3.5%	0.9%	5.9%
3 就職や職場では	女性	34.8%	49.1%	11.2%	0.3%	0.1%	4.5%
	男性	22.2%	55.0%	16.2%	1.6%	0.2%	4.9%
4 地域活動の場では	女性	12.0%	37.1%	36.2%	9.2%	0.9%	4.6%
	男性	6.3%	23.2%	51.8%	11.3%	2.1%	5.2%
5 家庭生活では	女性	11.6%	36.2%	29.5%	14.0%	4.6%	4.1%
	男性	3.5%	24.1%	40.8%	20.2%	6.1%	5.2%
6 社会通念や慣習では	女性	30.7%	48.5%	14.9%	0.9%	0.3%	4.7%
	男性	19.0%	47.6%	26.0%	2.1%	0.3%	4.9%
7 法律や制度の上では	女性	23.6%	40.7%	29.3%	1.4%	0.1%	4.8%
	男性	8.6%	25.7%	57.1%	2.6%	1.0%	5.1%
8 政治の場では	女性	47.4%	37.5%	10.5%	0.4%	0.1%	4.1%
	男性	27.1%	40.1%	27.7%	0.3%	0.0%	4.7%

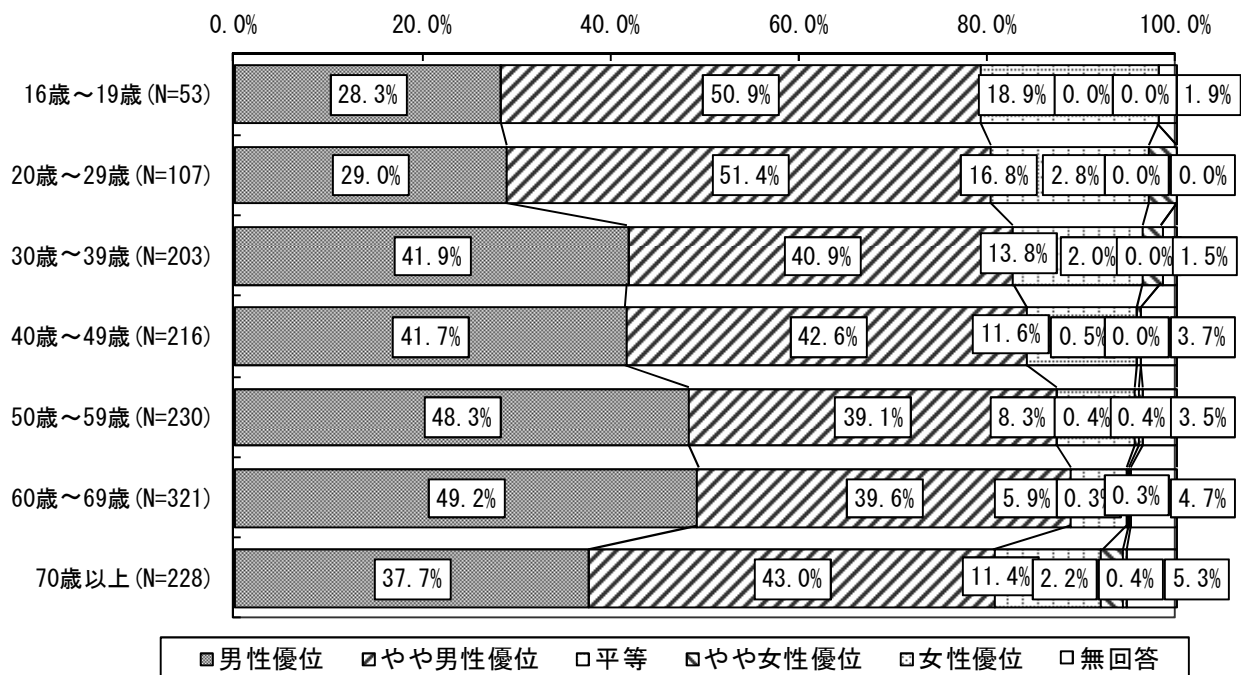
女性(N=784) 男性(N=573)

1 社会全体としては

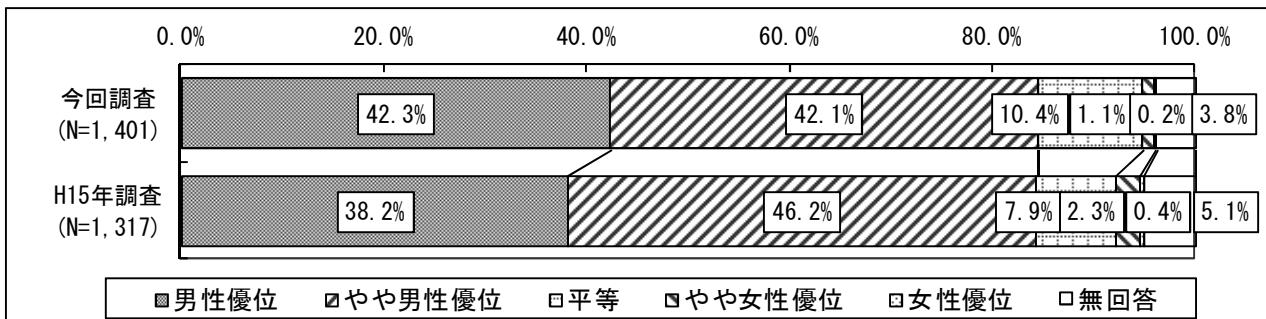
図表 男女の地位の平等（社会全体としては）－性別



図表 男女の地位の平等（社会全体としては）－年齢別

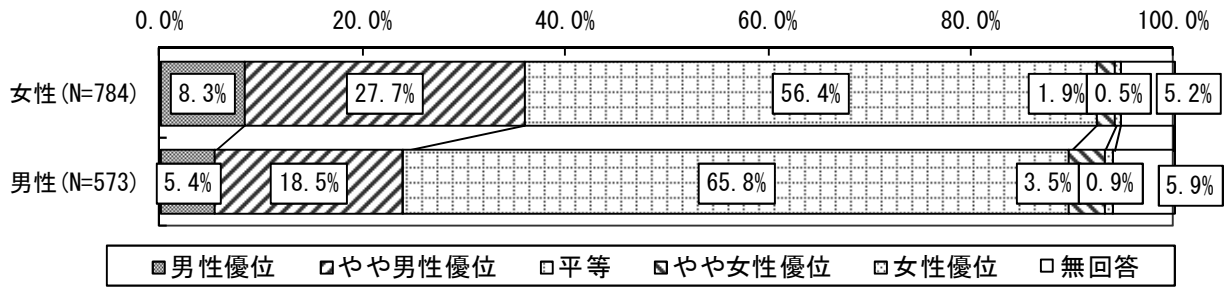


図表 男女の地位の平等（社会全体としては）－経年変化

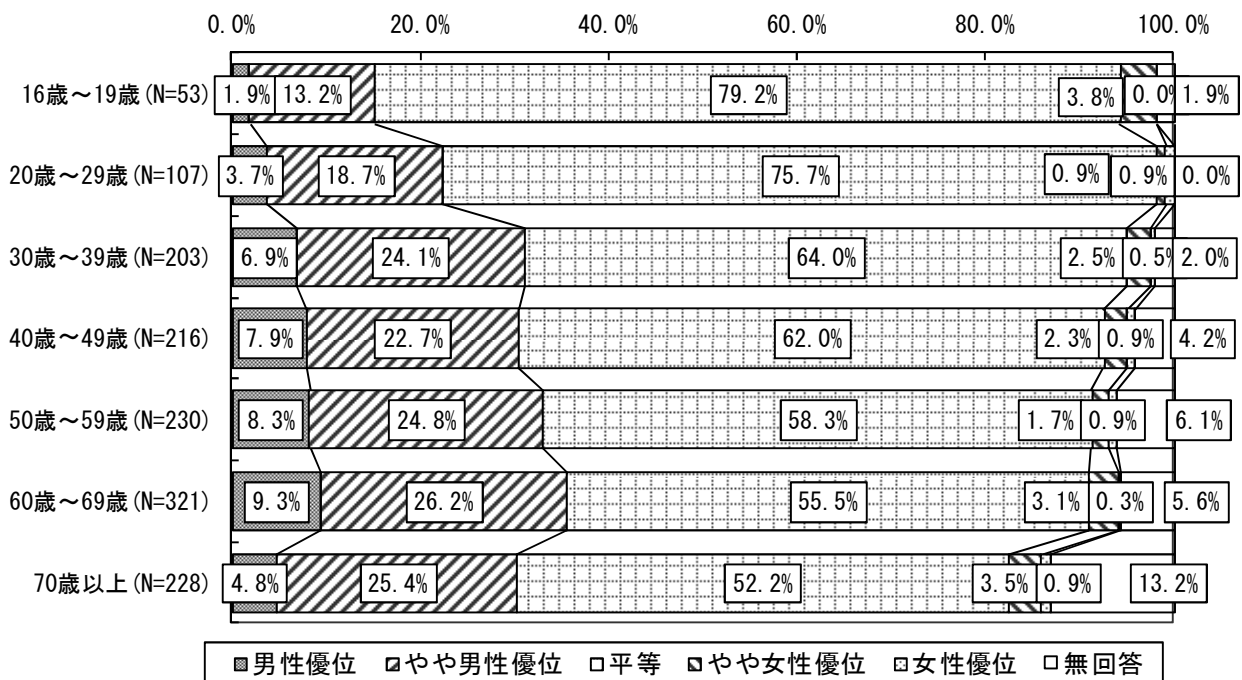


2 学校教育の場では

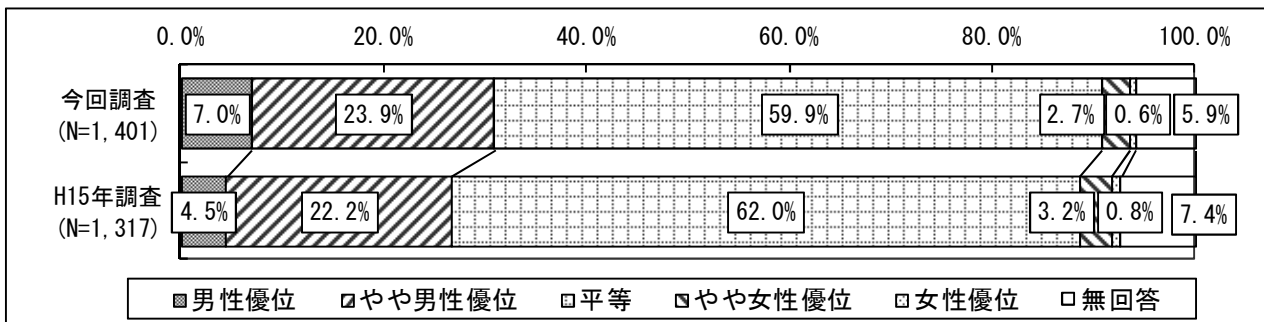
図表 男女の地位の平等（学校教育の場では）－性別



図表 男女の地位の平等（学校教育の場では）－年齢別

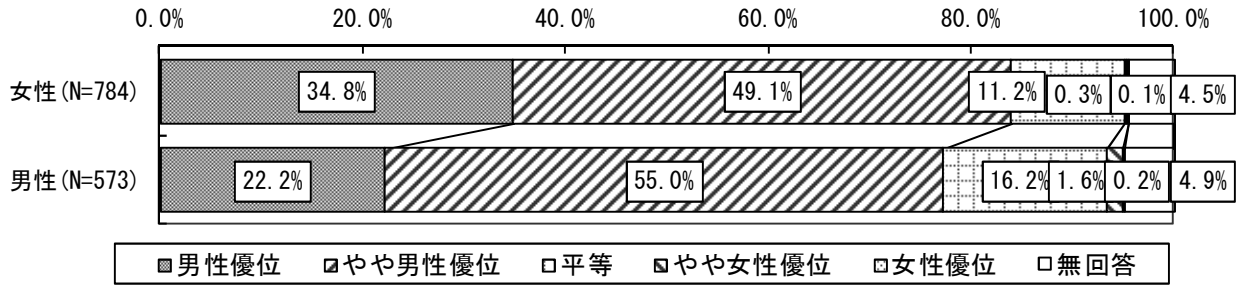


図表 男女の地位の平等（学校教育の場では）－経年変化

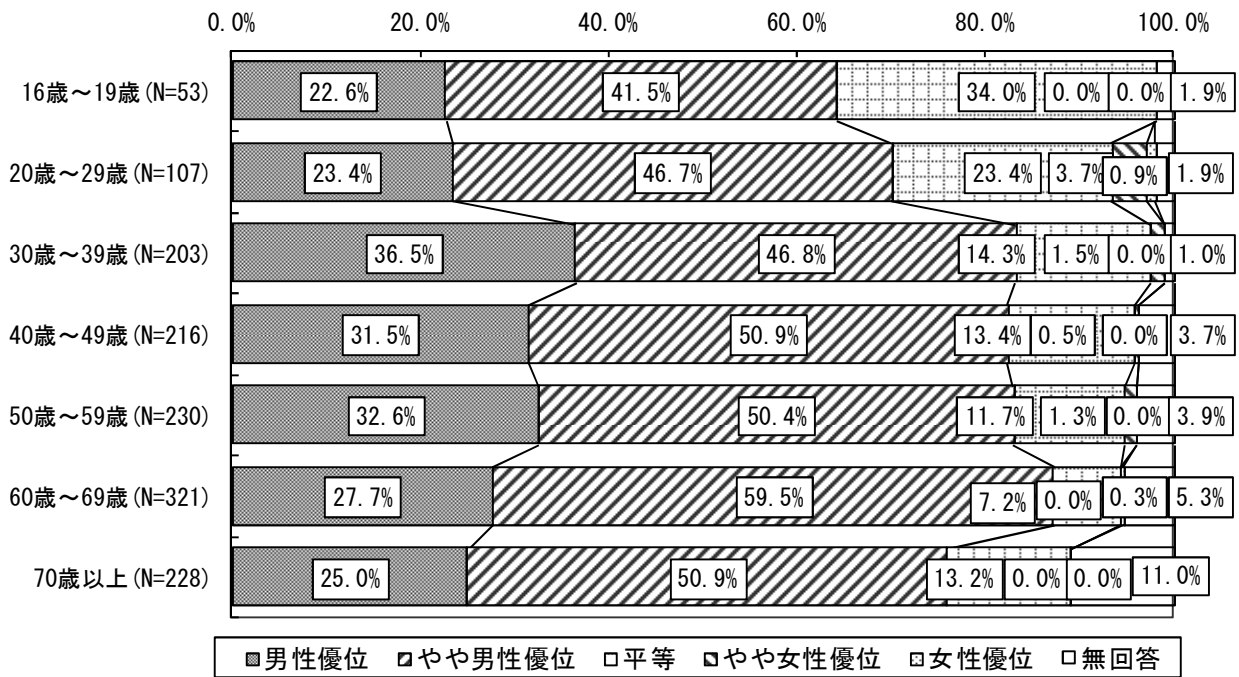


### 3 就職や職場では

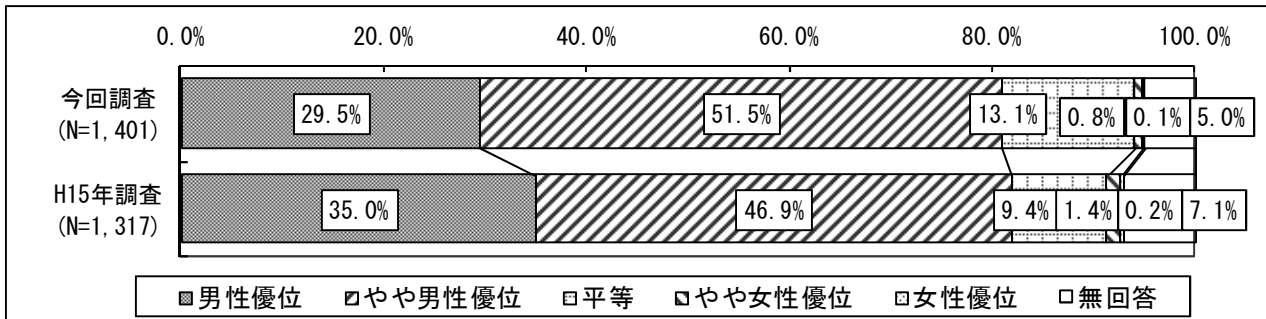
図表 男女の地位の平等（就職や職場では）－性別



図表 男女の地位の平等（就職や職場では）－年齢別

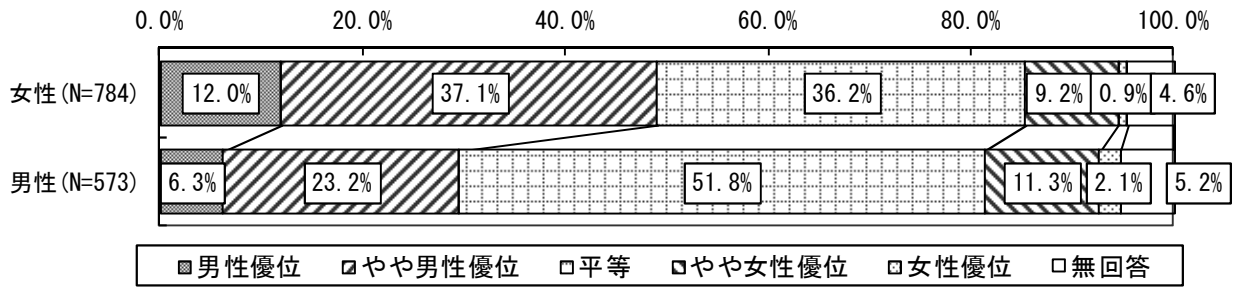


図表 男女の地位の平等（就職や職場では）－経年変化

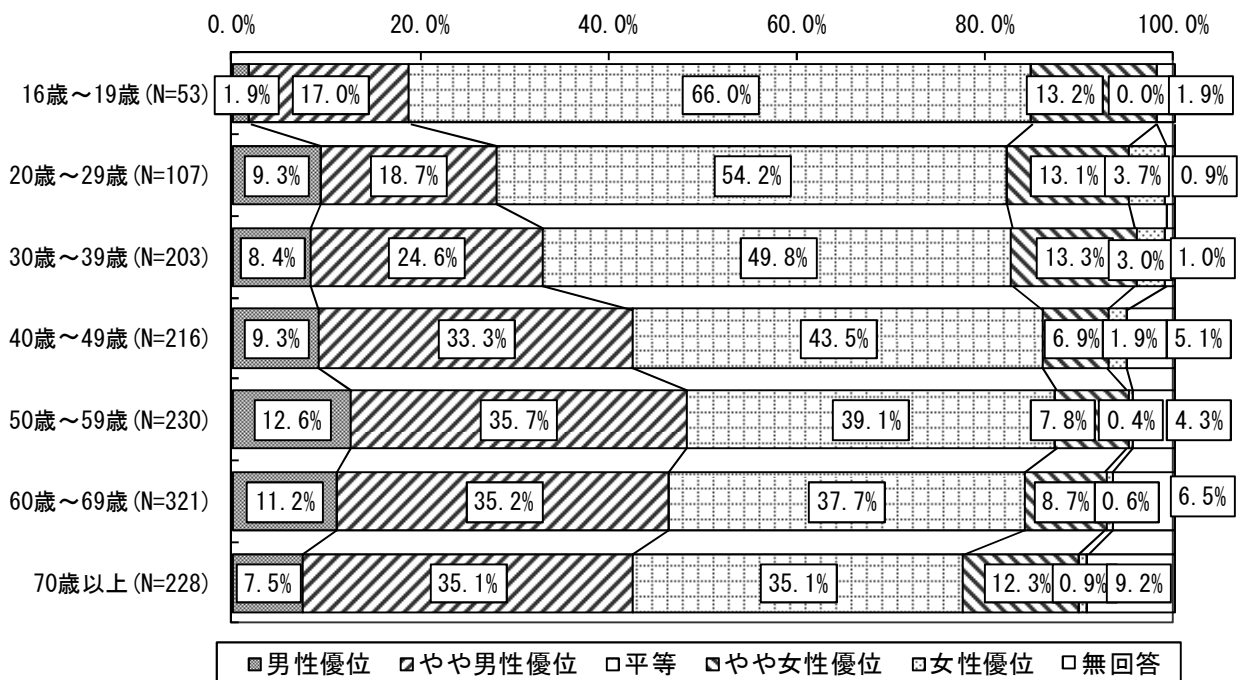


4 地域活動の場では

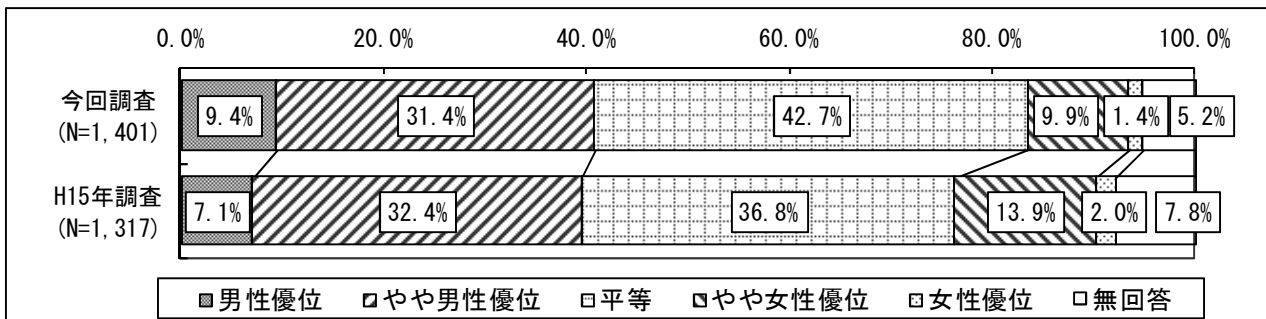
図表 男女の地位の平等（地域活動の場では）－性別



図表 男女の地位の平等（地域活動の場では）－年齢別

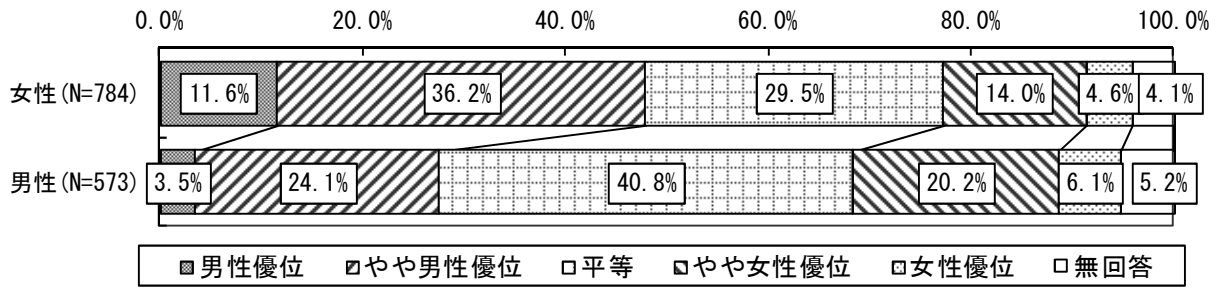


図表 男女の地位の平等（地域活動の場では）－経年変化

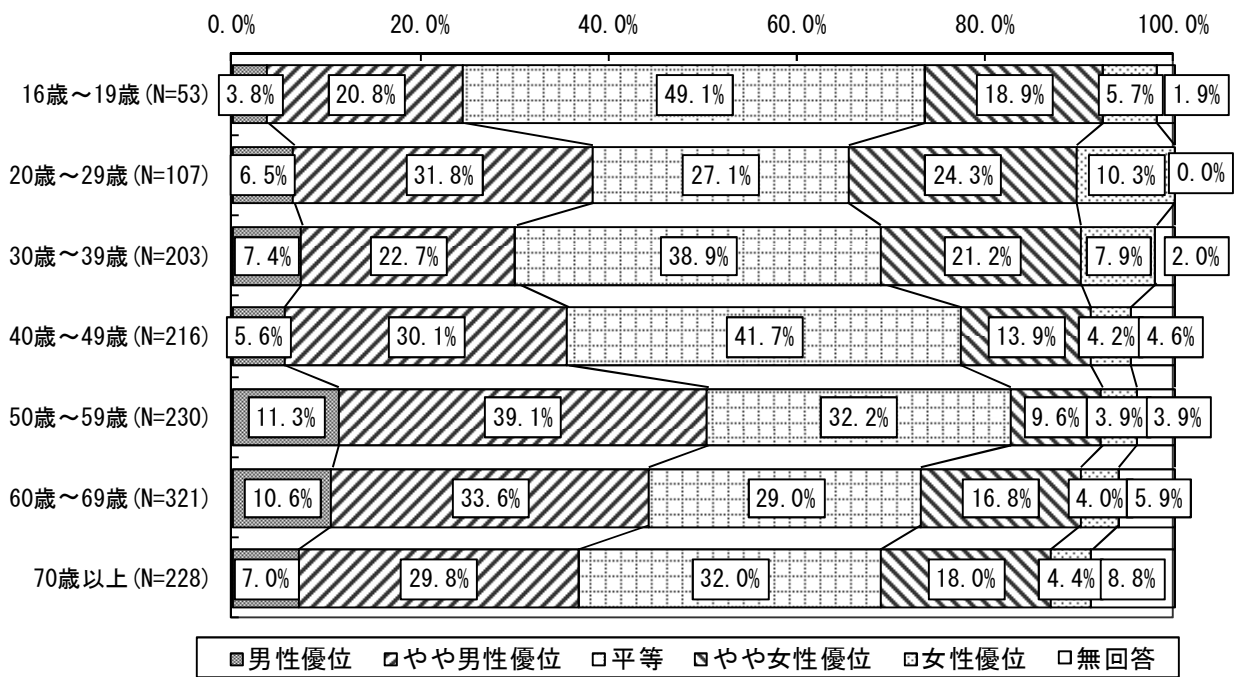


5 家庭生活では

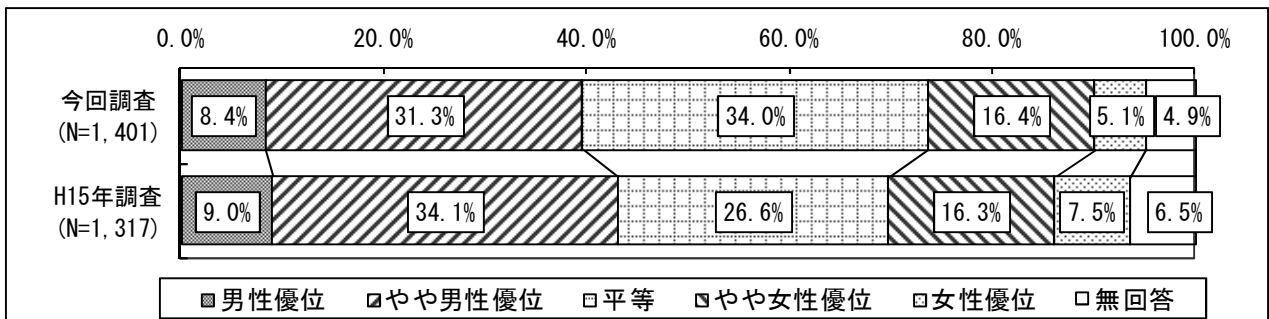
図表 男女の地位の平等（家庭生活では）－性別



図表 男女の地位の平等（家庭生活では）－年齢別

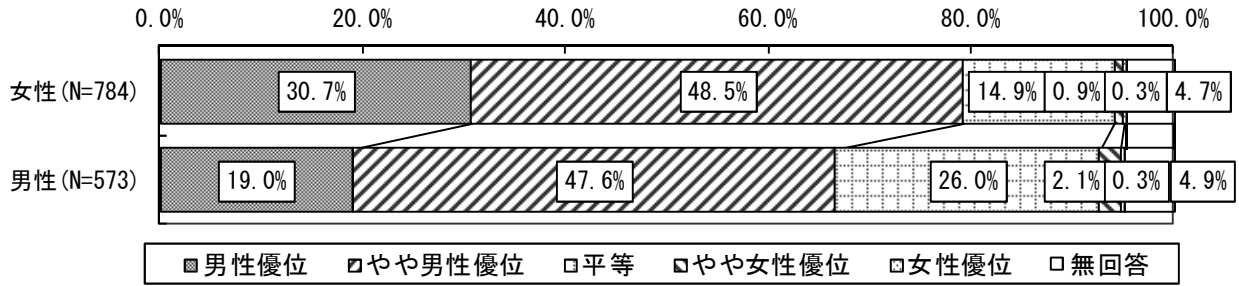


図表 男女の地位の平等（家庭生活では）－経年変化

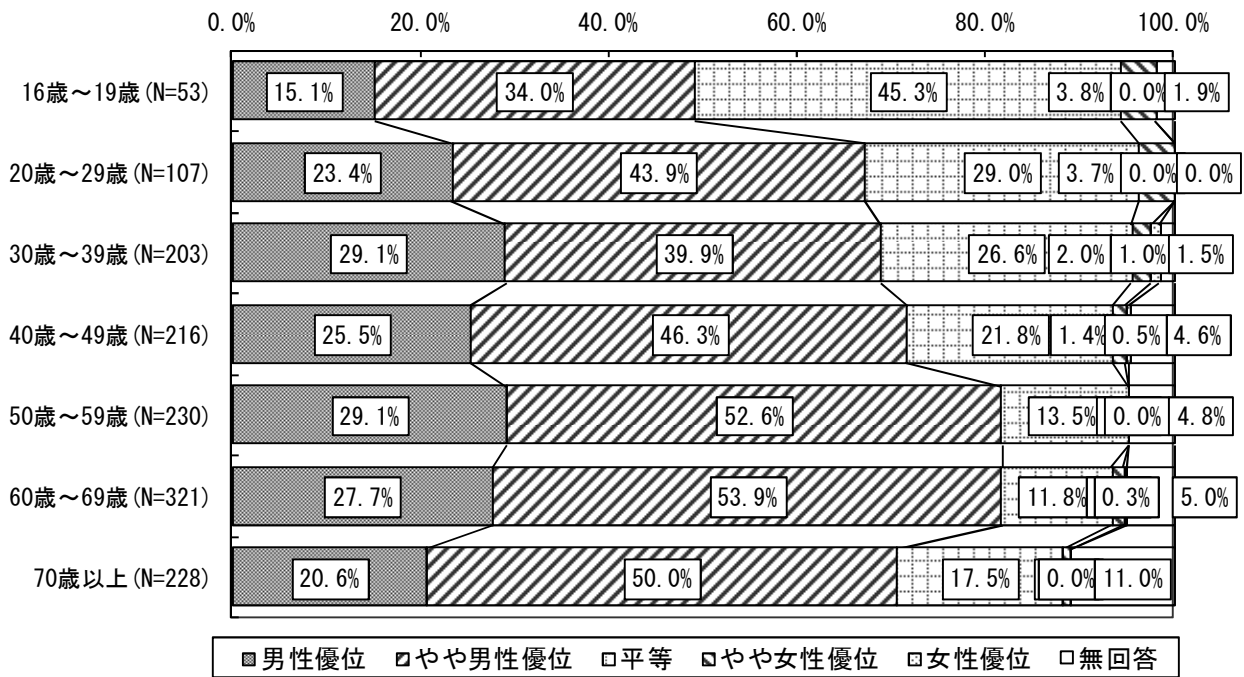


6 社会通念や慣習では

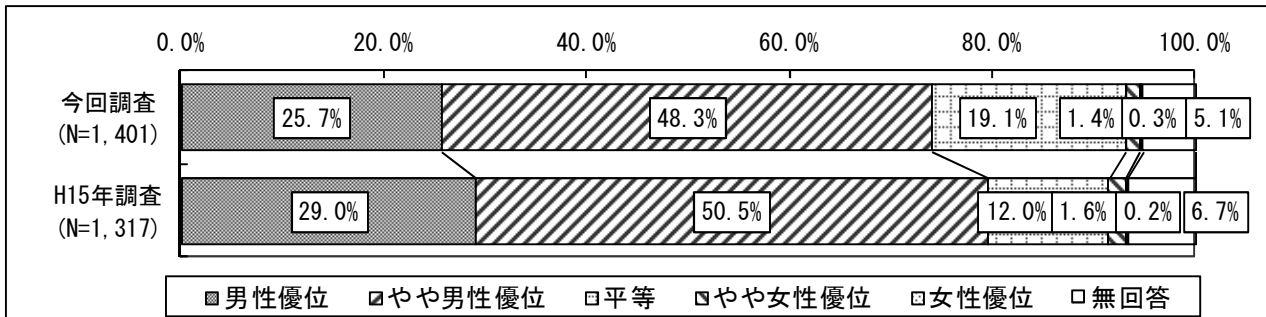
図表 男女の地位の平等（社会通念や慣習では）－性別



図表 男女の地位の平等（社会通念や慣習では）－年齢別



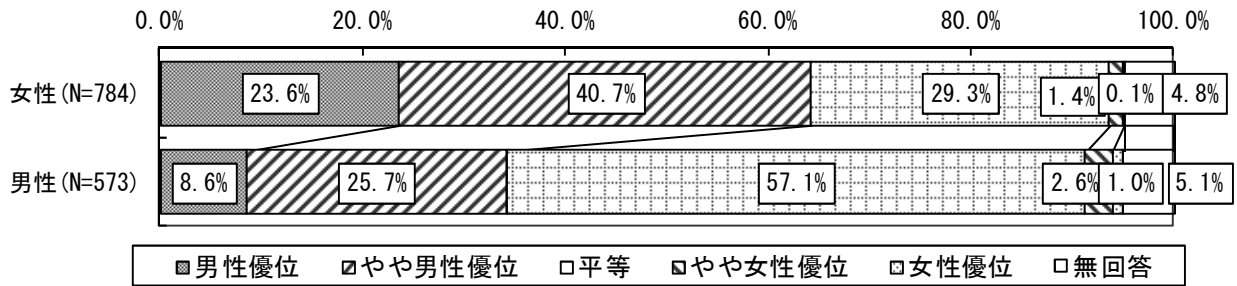
図表 男女の地位の平等（社会通念や慣習では）－経年変化



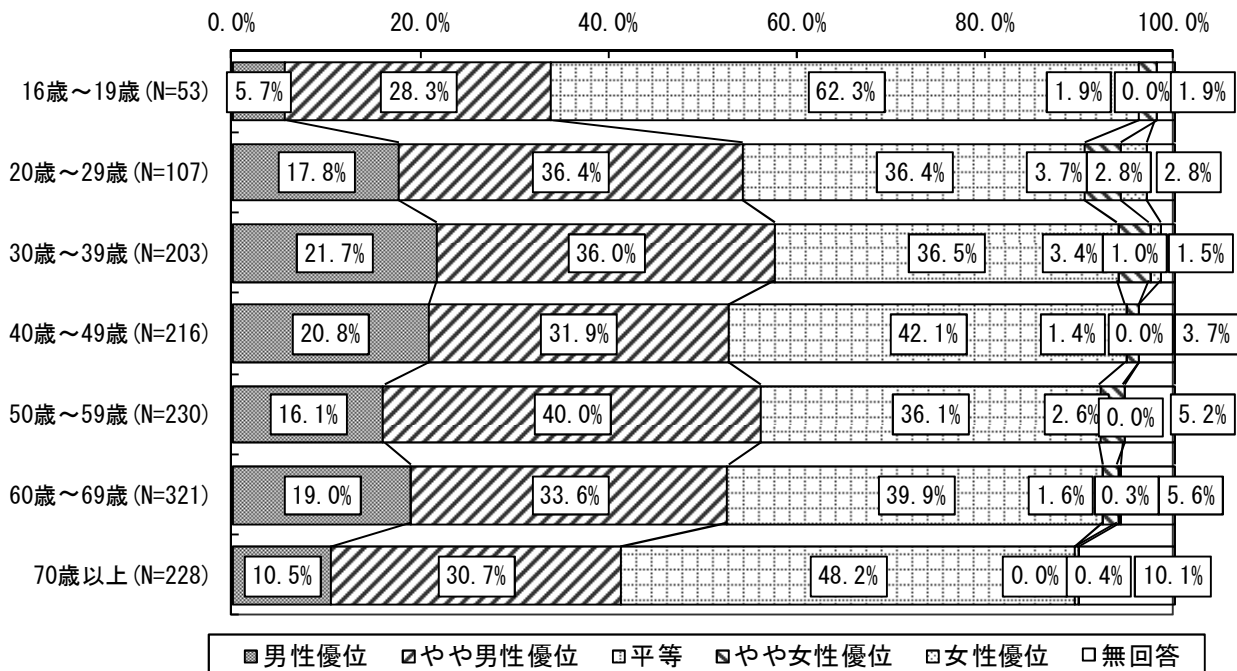


7 法律や制度の上では

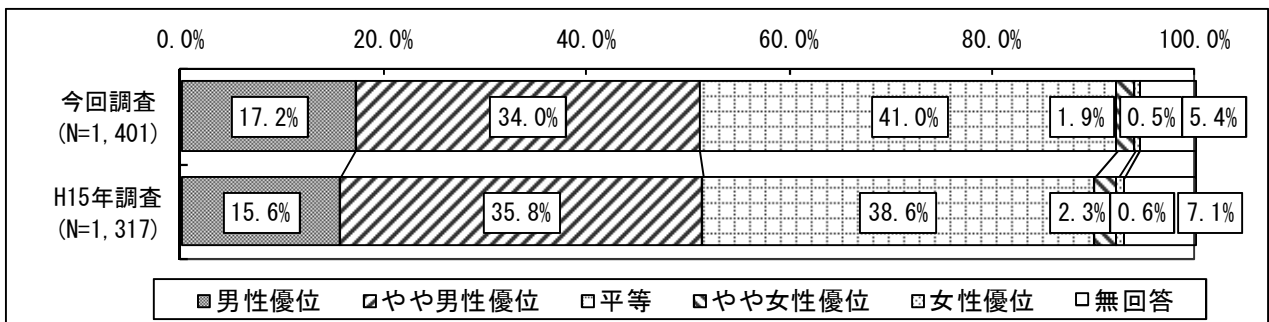
図表 男女の地位の平等（法律や制度の上では）－性別



図表 男女の地位の平等（法律や制度の上では）－年齢別

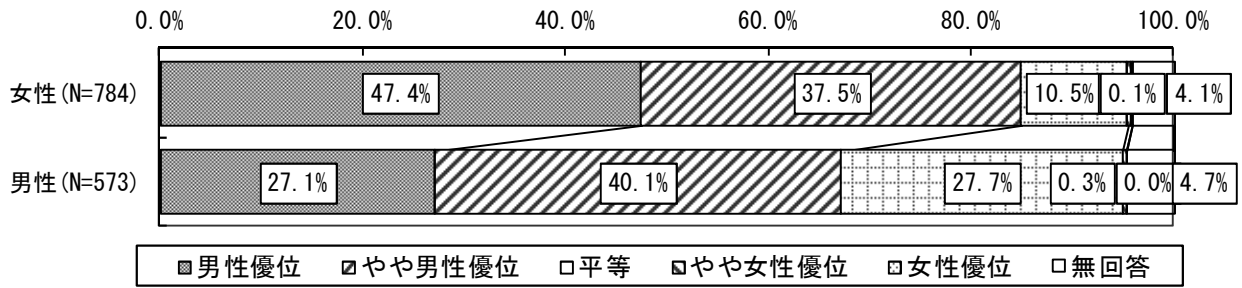


図表 男女の地位の平等（法律や制度の上では）－経年変化

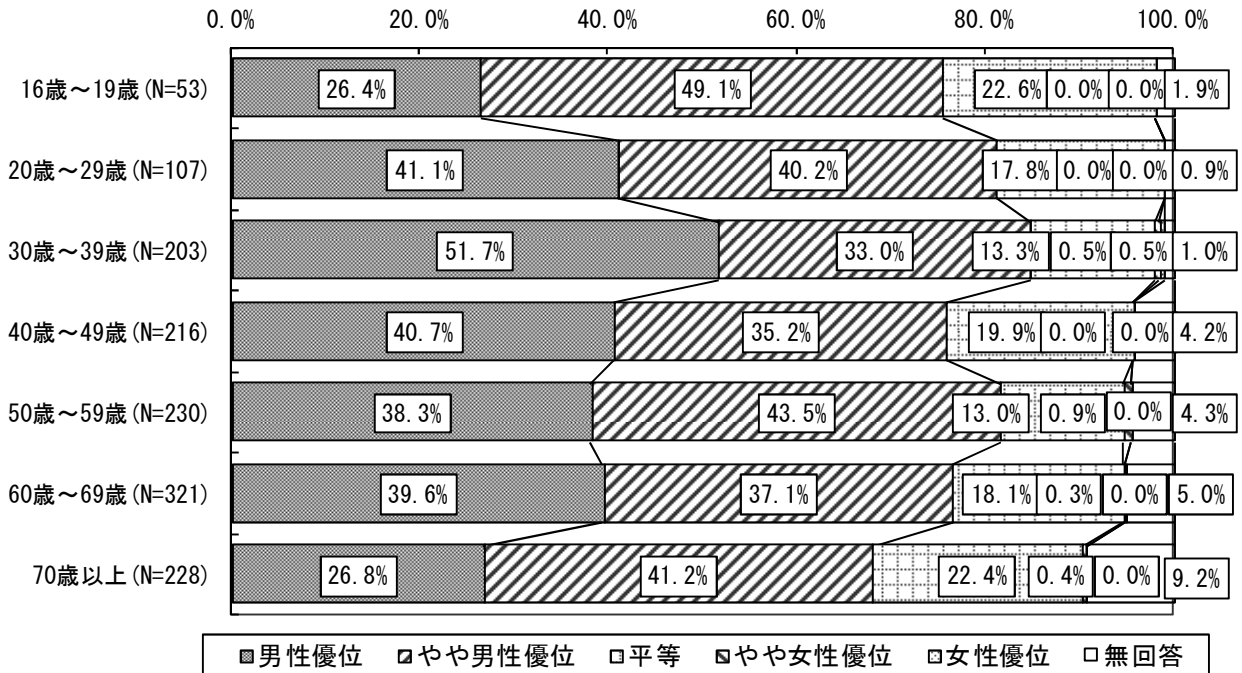


8 政治の場では

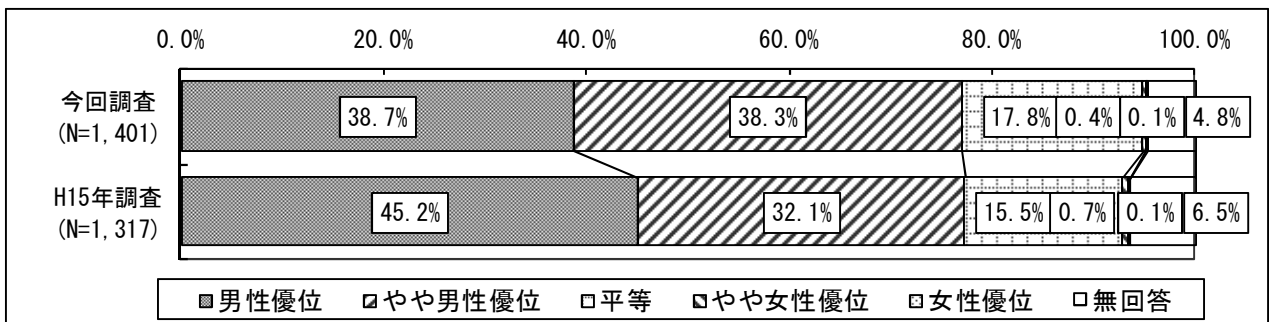
図表 男女の地位の平等（政治の場では）－性別



図表 男女の地位の平等（政治の場では）－年齢別



図表 男女の地位の平等（政治の場では）－経年変化



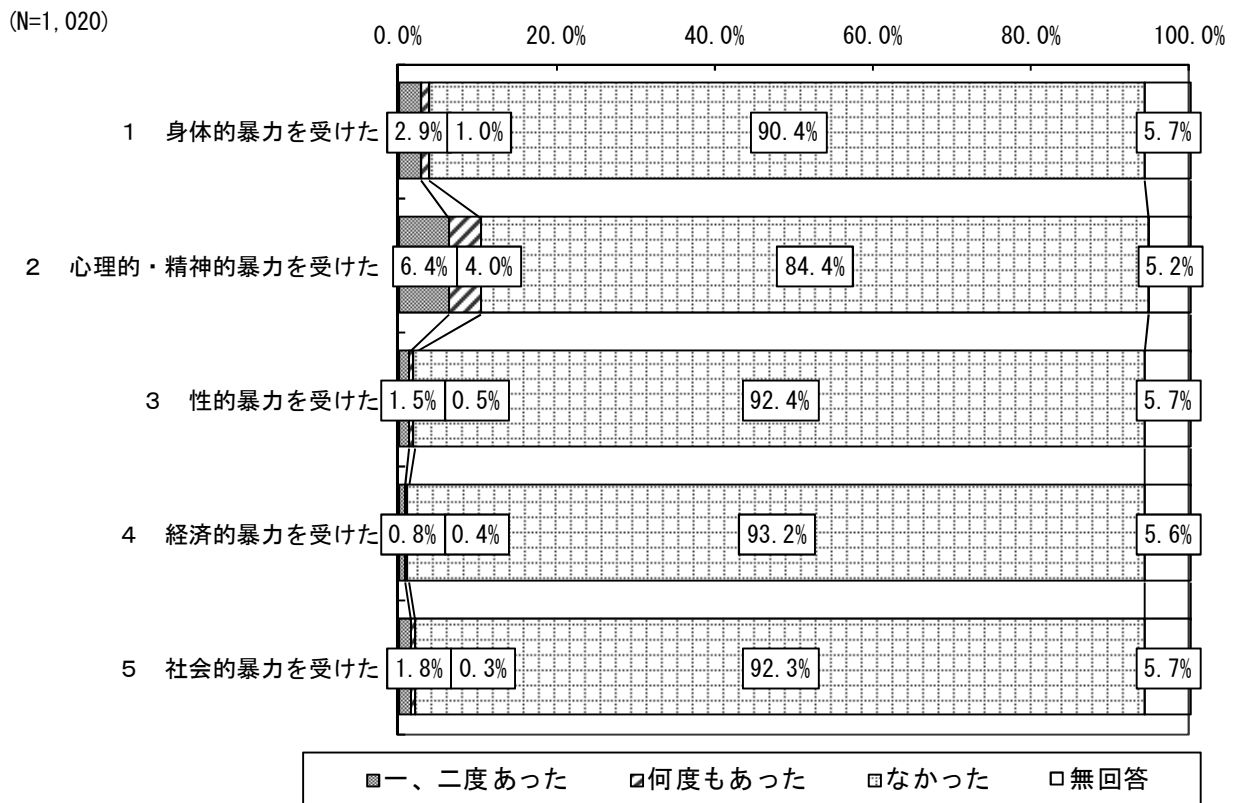
(10) ドメスティック・バイオレンス経験の有無

結婚（事実婚を含む）している方におたずねします。

問 10 あなたは、最近5年間で、配偶者等から次のようなこと（ドメスティック・バイオレンス）を受けて怖いと感じるような経験がありましたか。（それぞれいずれか1つに○）

- ドメスティック・バイオレンスを受けて怖いと感じるような経験があったかどうかでは、いずれの項目においても「なかった」が9割前後と多いが、その中で「心理的・精神的暴力を受けた」において「一、二度あった」が6.4%、「何度もあった」が4.0%とやや多くなっている。
- 年齢別では、「10歳代」は回答数が1件のため各項目とも100%となっている。

図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無



●性別にみると、いずれの項目においても「一、二度あった」や「何度もあった」との回答は、「女性」が「男性」を上回っている。

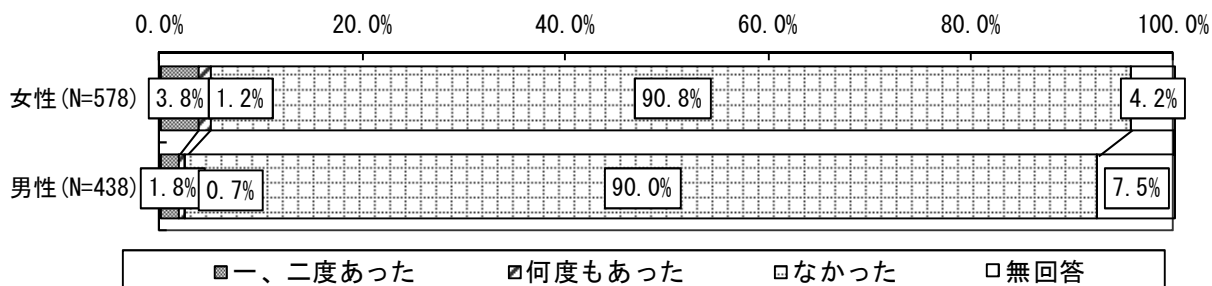
図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無－性別

		一、二度あった	何度もあった	なかった	無回答
1 身体的暴力を受けた	女性	3.8%	1.2%	90.8%	4.2%
	男性	1.8%	0.7%	90.0%	7.5%
2 心理的・精神的暴力を受けた	女性	8.0%	5.2%	83.4%	3.5%
	男性	4.1%	2.5%	85.8%	7.5%
3 性的暴力を受けた	女性	2.4%	0.7%	92.9%	4.0%
	男性	0.2%	0.2%	91.8%	7.8%
4 経済的暴力を受けた	女性	1.0%	0.7%	94.5%	3.8%
	男性	0.5%	0.0%	91.8%	7.8%
5 社会的暴力を受けた	女性	1.9%	0.3%	93.6%	4.2%
	男性	1.6%	0.2%	90.6%	7.5%

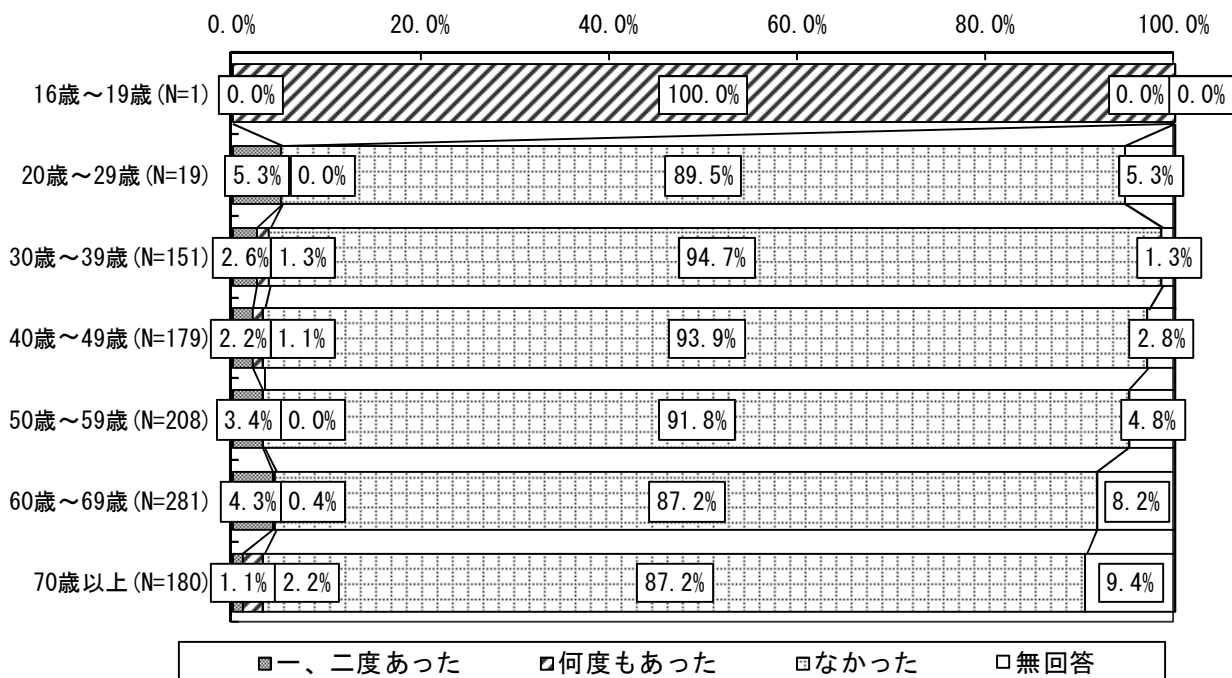
女性(N=578) 男性(N=438)

1 身体的暴力を受けた（なぐる、ける、物を投げつけるなど）

図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（身体的暴力を受けた）－性別

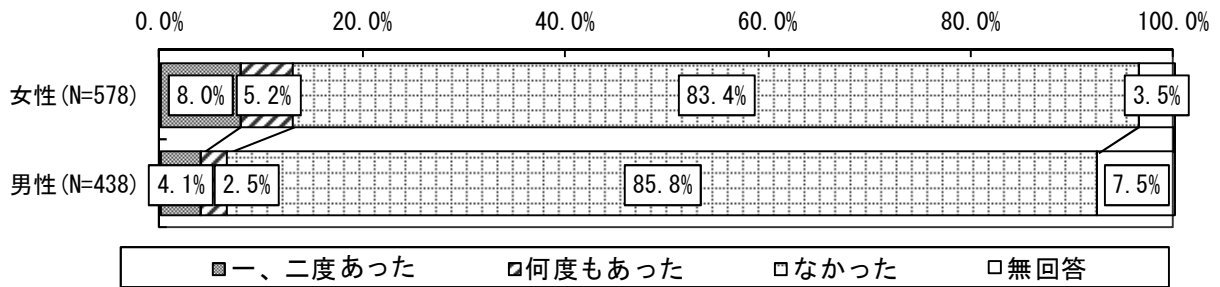


図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（身体的暴力を受けた）－年齢別

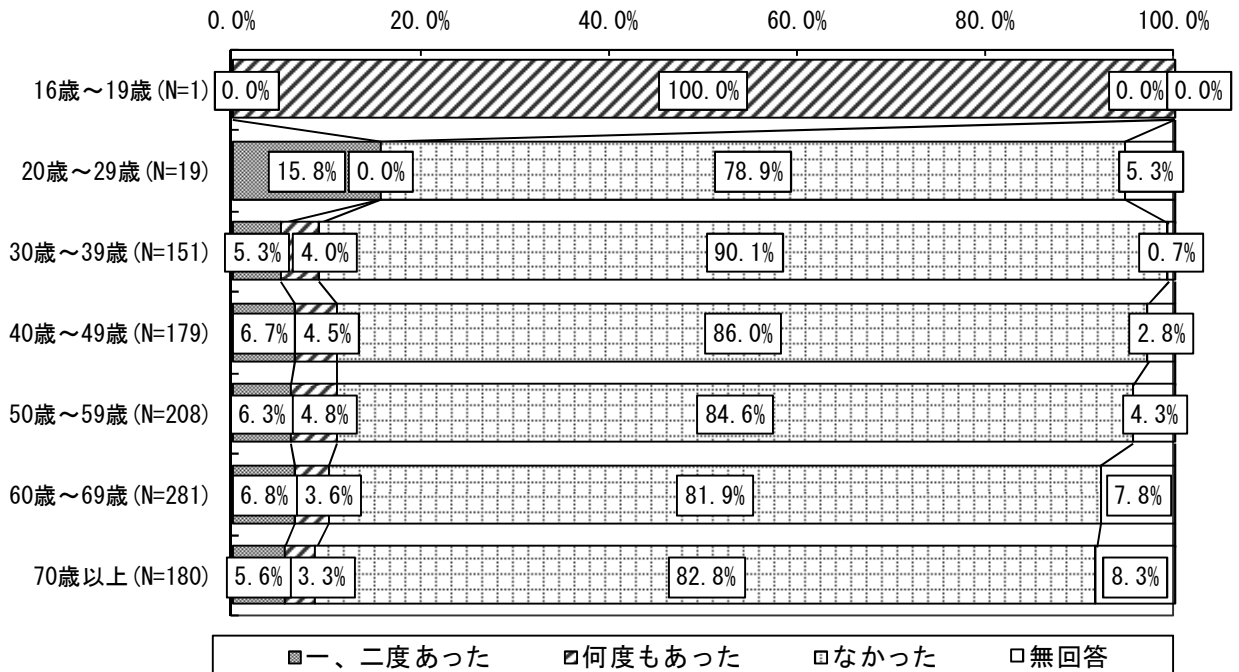


2 心理的・精神的暴力を受けた（あなたや家族をおどす、暴言をはく、長時間無視するなど）

図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（心理的・精神的暴力を受けた）－性別

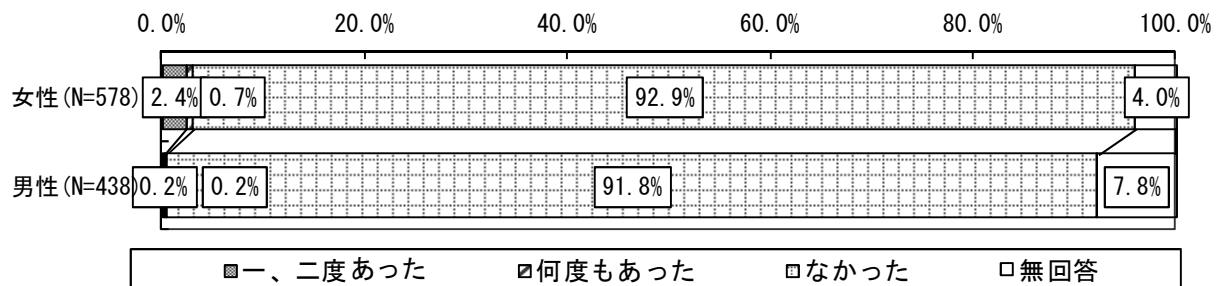


図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（心理的・精神的暴力を受けた）－年齢別

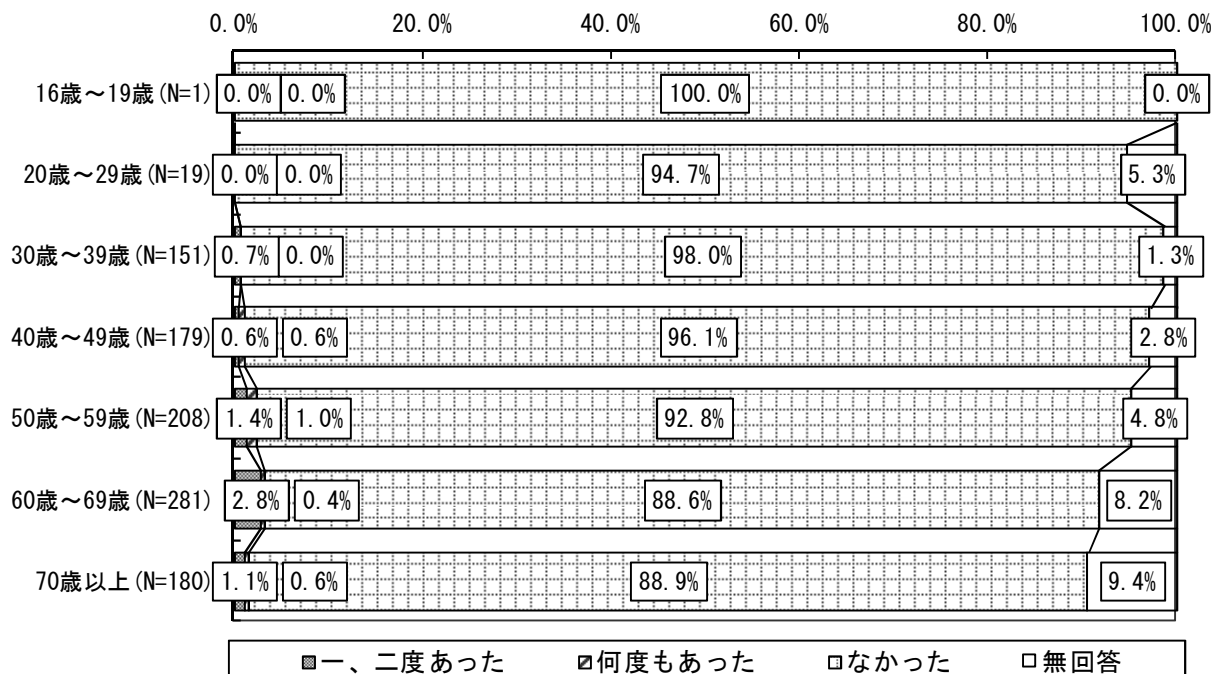


3 性的暴力を受けた（いやがっているのに性的な行為を強要する、見たくないのにポルノビデオ等を見せられるなど）

図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（性的暴力を受けた）－性別

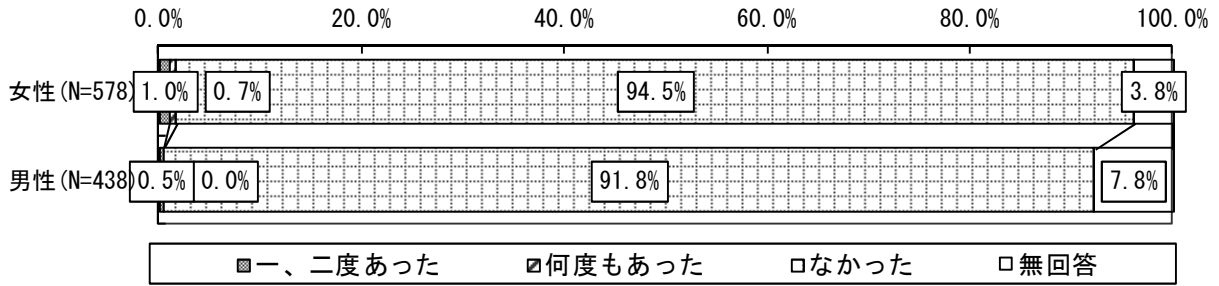


図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（性的暴力を受けた）－年齢別

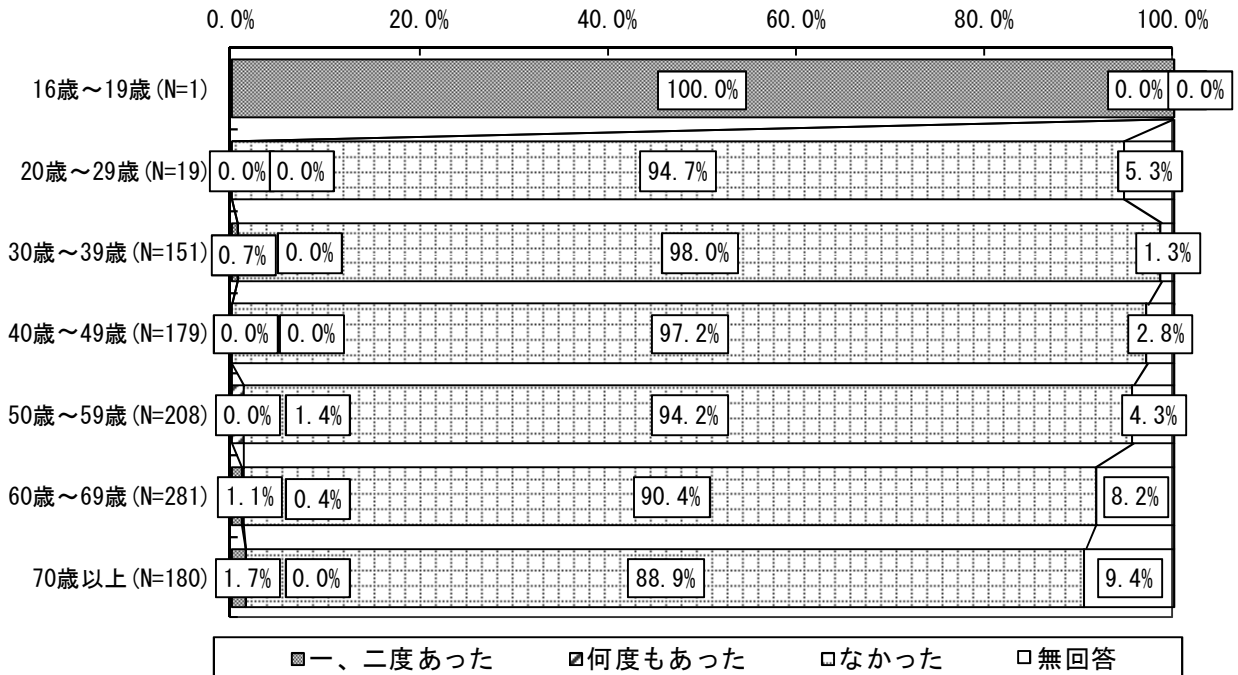


4 経済的暴力を受けた（生活費を渡さないなど）

図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（経済的暴力を受けた）－性別

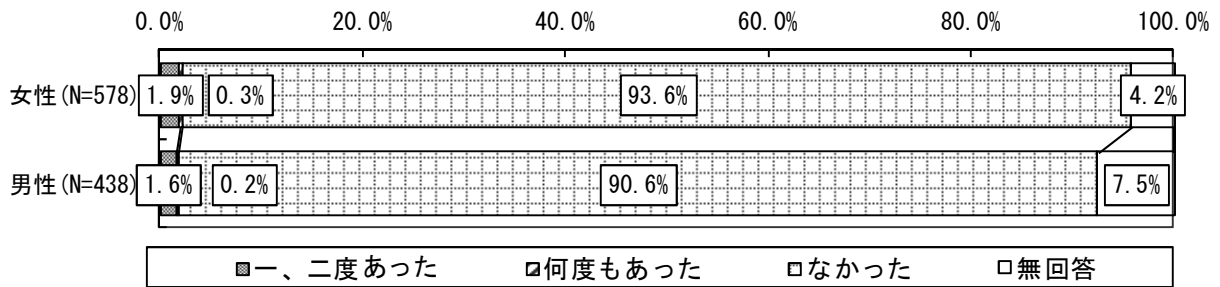


図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（経済的暴力を受けた）－年齢別

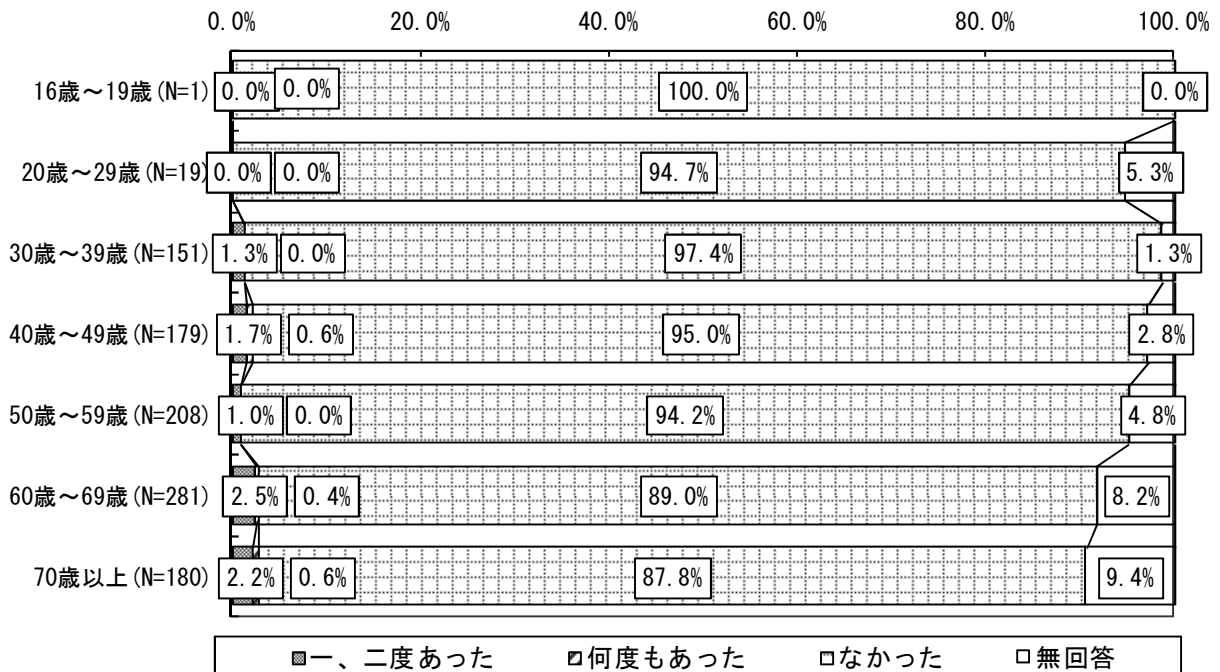


5 社会的暴力を受けた（交友関係、電話やメールを細かく監視・規制するなど）

図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（社会的暴力を受けた）－性別



図表 ドメスティック・バイオレンス経験の有無（社会的暴力を受けた）－年齢別





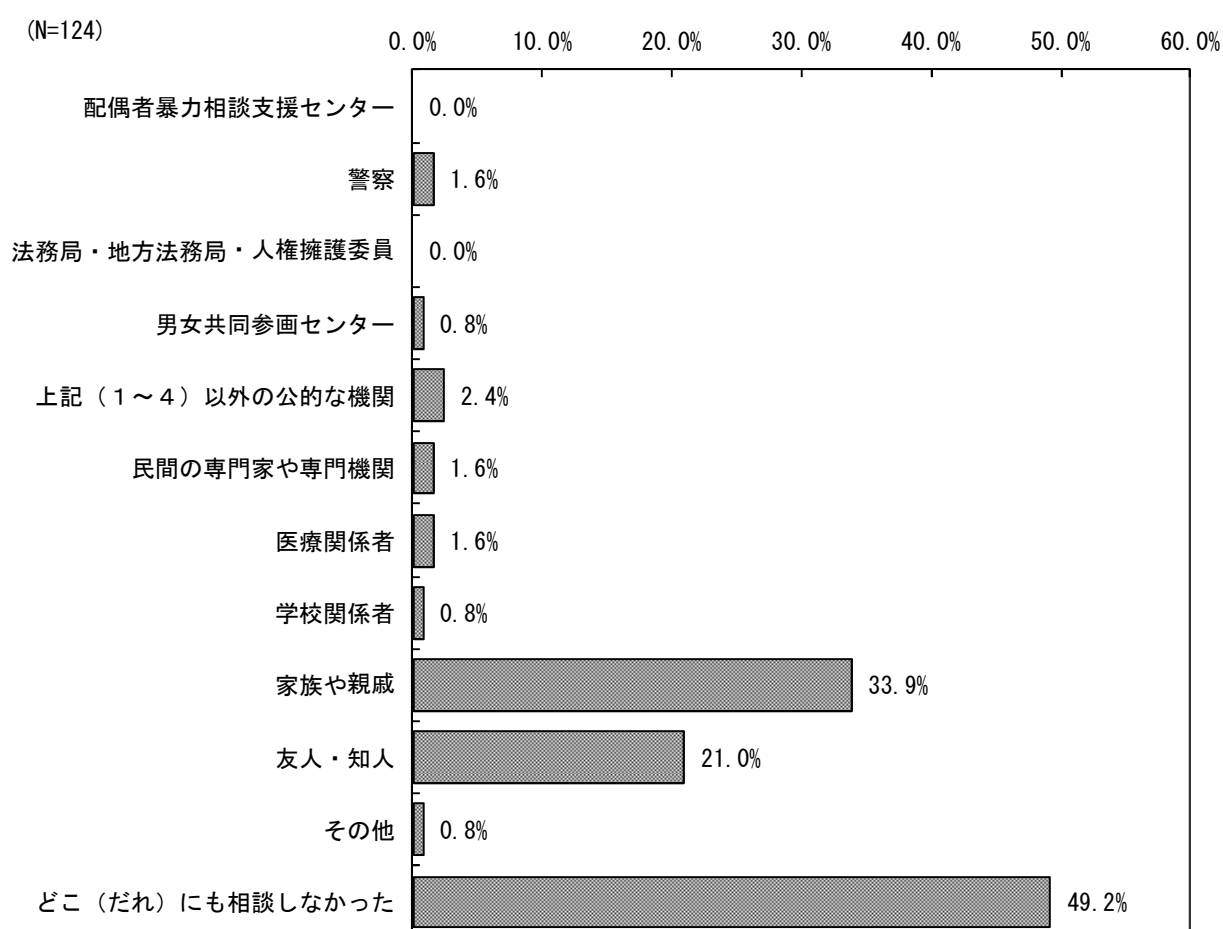
## (11) ドメスティック・バイオレンス経験の相談相手

問10のいずれかで「1 一、二度あった」「2 何度もあった」と答えられた方におたずねします。

問 11 配偶者等から受けた行為について、だれかに相談しましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

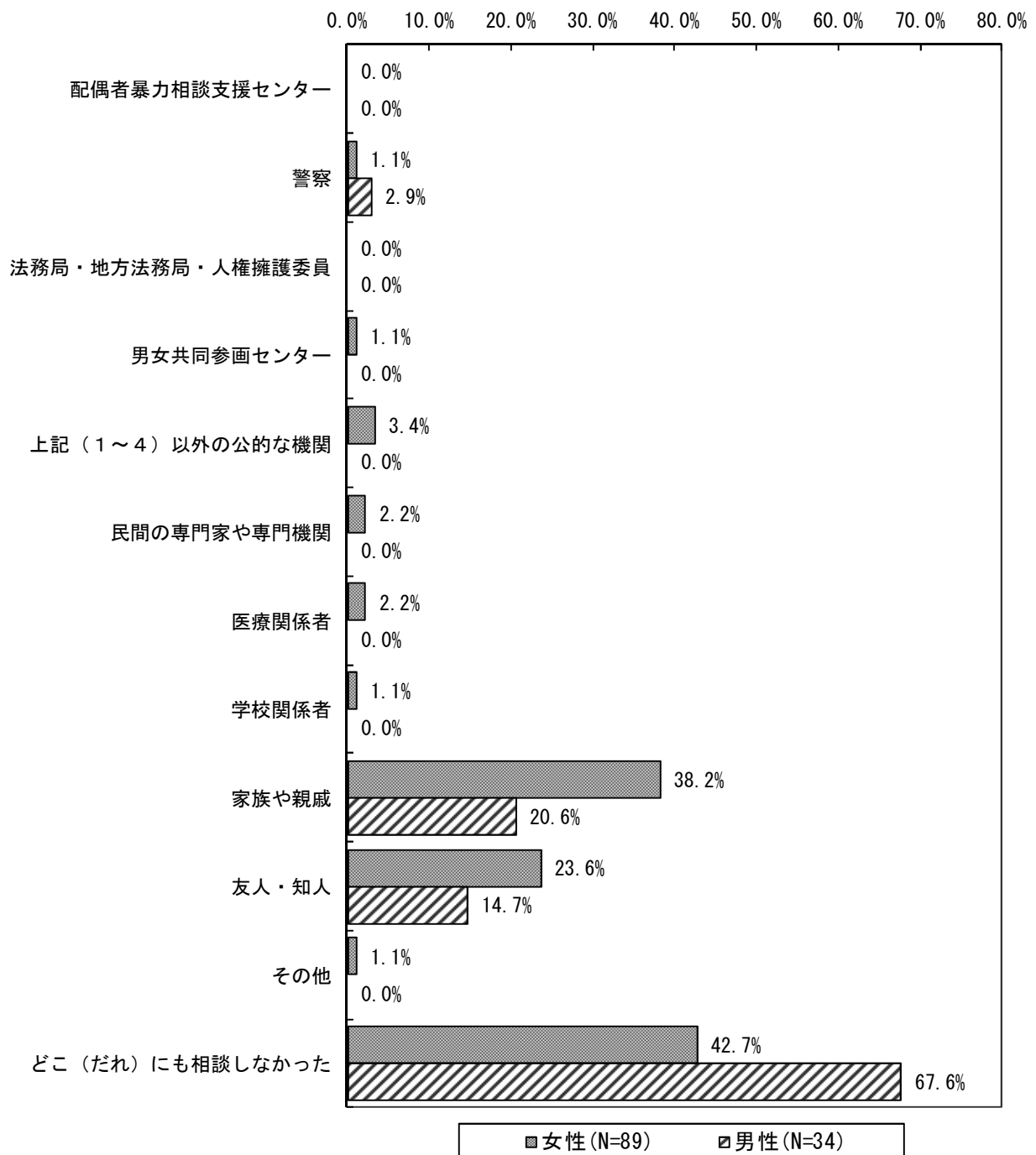
- 前問で「一、二度あった」「何度もあった」と答えられた方124人について、相談相手をたずねたところ「どこ（だれ）にも相談しなかった」が49.2%と多くなっている。相談相手としては、「家族や親戚」が33.9%、「友人・知人」が21.0%と多くなっている。
- それ以外の項目は、いずれも1%前後とごく僅かである。

図表 ドメスティック・バイオレンス経験の相談相手



●性別にみると、「女性」は「家族や親戚」「友人・知人」が多く、「男性」は「どこ（だれ）にも相談しなかった」が多くなっている。

図表 ドメスティック・バイオレンス経験の相談相手－性別



図表 ドメスティック・バイオレンス経験の相談相手一年齢別

	配偶者暴力相談支援センター(婦人相談所その他の施設)	警察	法務局・地方法務局・人権擁護委員	男女共同参画センター(生駒市男女共同参画プラザなど)	上記(1～4)以外の公的な機関	民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセリング機関、民間シェル	医療関係者(医師、看護師など)	学校関係者(教員、養護施設、スクールカウンセラーなど)	家族や親戚	友人・知人	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった
16歳～19歳(N=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
20歳～29歳(N=3)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
30歳～39歳(N=15)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	46.7%	20.0%	0.0%	46.7%
40歳～49歳(N=23)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30.4%	17.4%	0.0%	60.9%
50歳～59歳(N=25)	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	4.0%	4.0%	4.0%	0.0%	32.0%	24.0%	0.0%	52.0%
60歳～69歳(N=38)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	2.6%	2.6%	26.3%	15.8%	0.0%	55.3%
70歳以上(N=19)	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	47.4%	26.3%	0.0%	31.6%

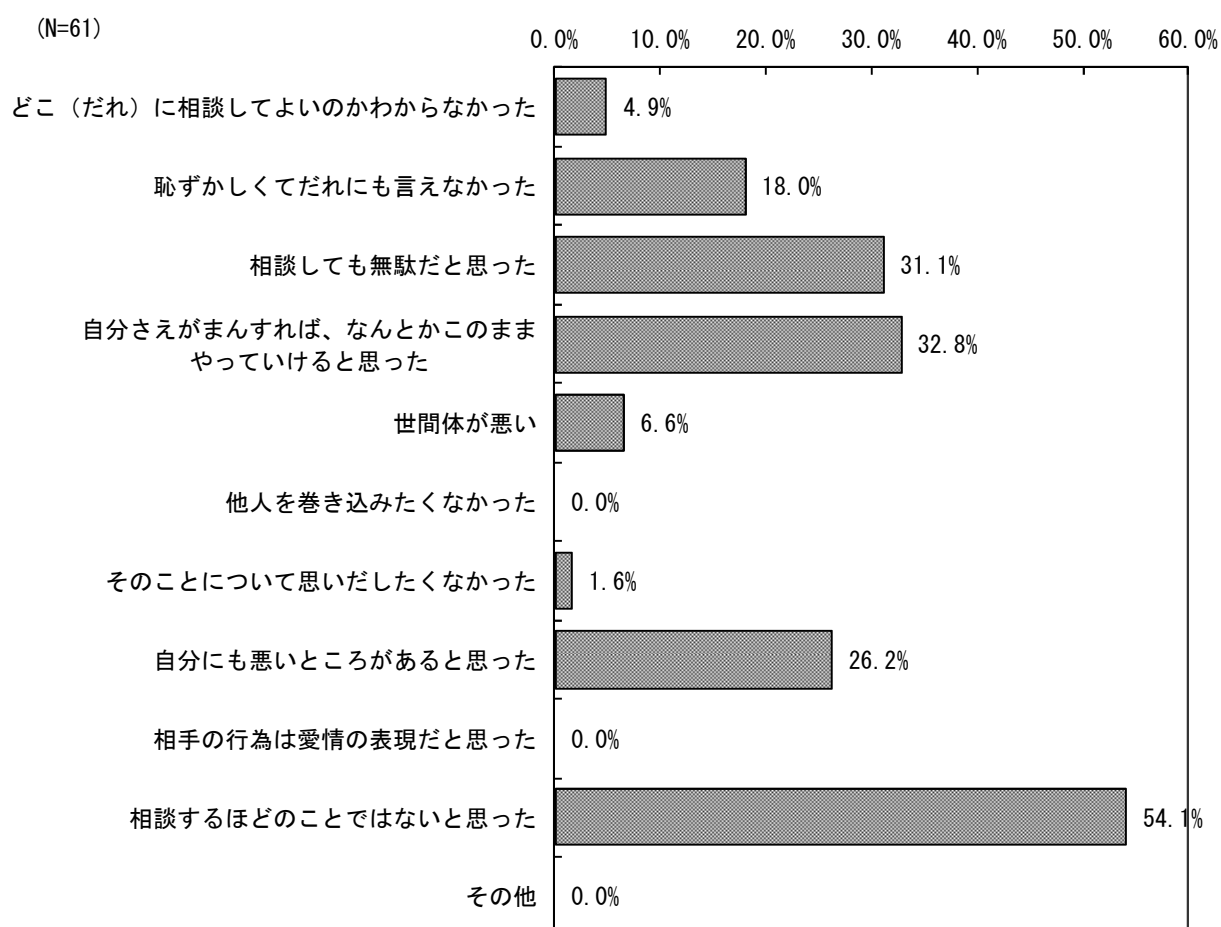
## (12) ドメスティック・バイオレンス経験を相談しなかった理由

問 11 で「12 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えられた方におたずねします。

問 12 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

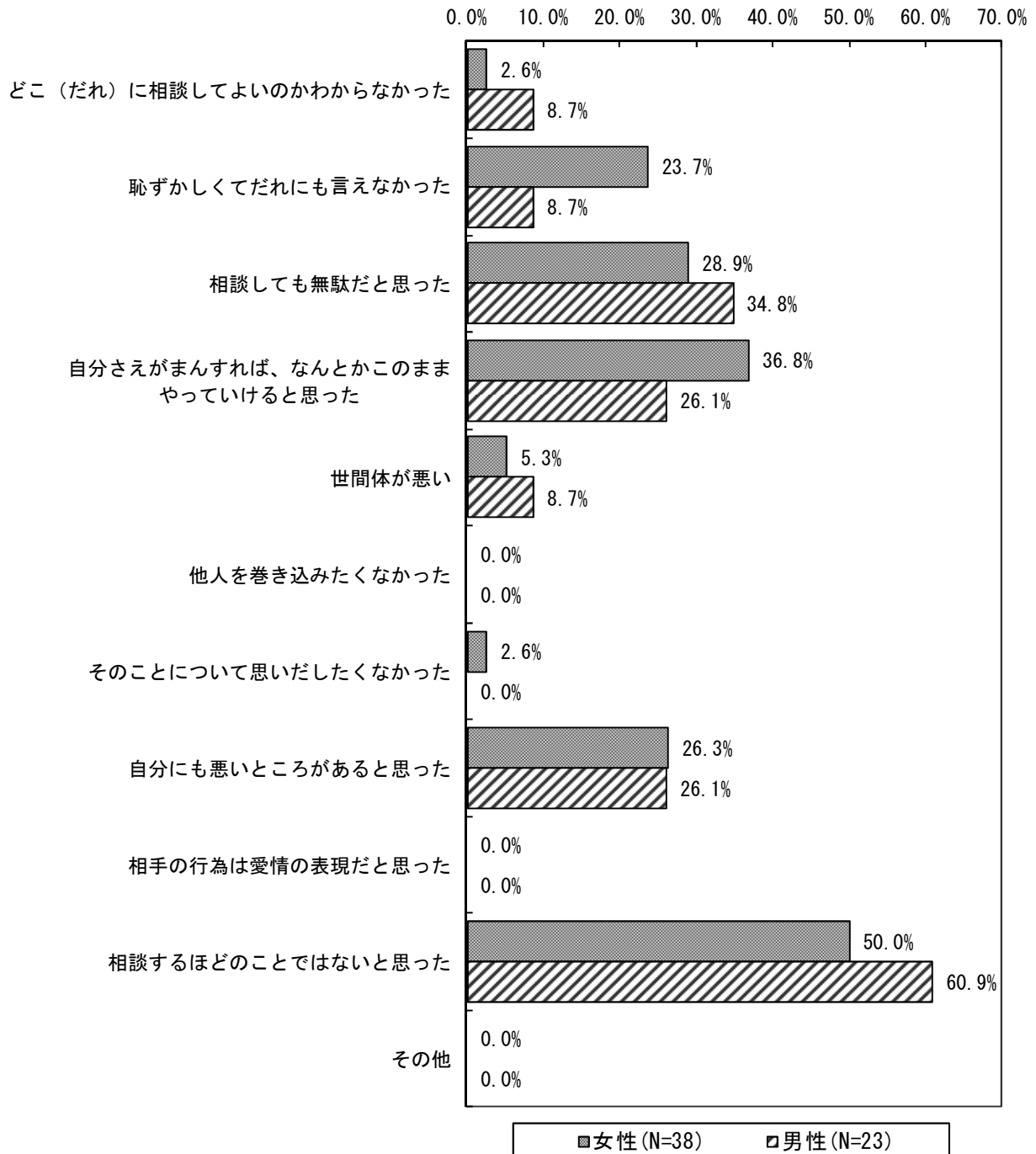
●前問で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えられた方 61 人について、相談しなかった理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思った」が 54.1%と最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」の 32.8%、「相談しても無駄だと思った」の 31.1%となっている。

図表 ドメスティック・バイオレンス経験を相談しなかった理由



●性別にみると、男女とも「相談するほどのことではないと思った」が多いが、「女性」では、男性に比べて「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」や「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が多くなっている。

図表 ドメスティック・バイオレンス経験を相談しなかった理由－性別



図表 ドメスティック・バイオレンス経験を相談しなかった理由一年齢別

	どこ(だれ)に相談してよいかわらなかった	恥ずかしくてだれにも言えなかった	相談しても無駄だと思った	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると	世間体が悪い	他人を巻き込みたくなかった	そのことについて思いだしたくなかった	自分にも悪いところがあると思った	相手の行為は愛情の表現だと思った	相談するほどのことではないと思った	その他
16歳～19歳 (N=0)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
20歳～29歳 (N=0)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
30歳～39歳 (N=7)	0.0%	14.3%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	42.9%	0.0%
40歳～49歳 (N=14)	7.1%	21.4%	50.0%	35.7%	7.1%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	35.7%	0.0%
50歳～59歳 (N=13)	0.0%	15.4%	38.5%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%	23.1%	0.0%	38.5%	0.0%
60歳～69歳 (N=21)	4.8%	14.3%	14.3%	28.6%	9.5%	0.0%	0.0%	38.1%	0.0%	71.4%	0.0%
70歳以上 (N=6)	16.7%	33.3%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	83.3%	0.0%

(13) デートDV経験

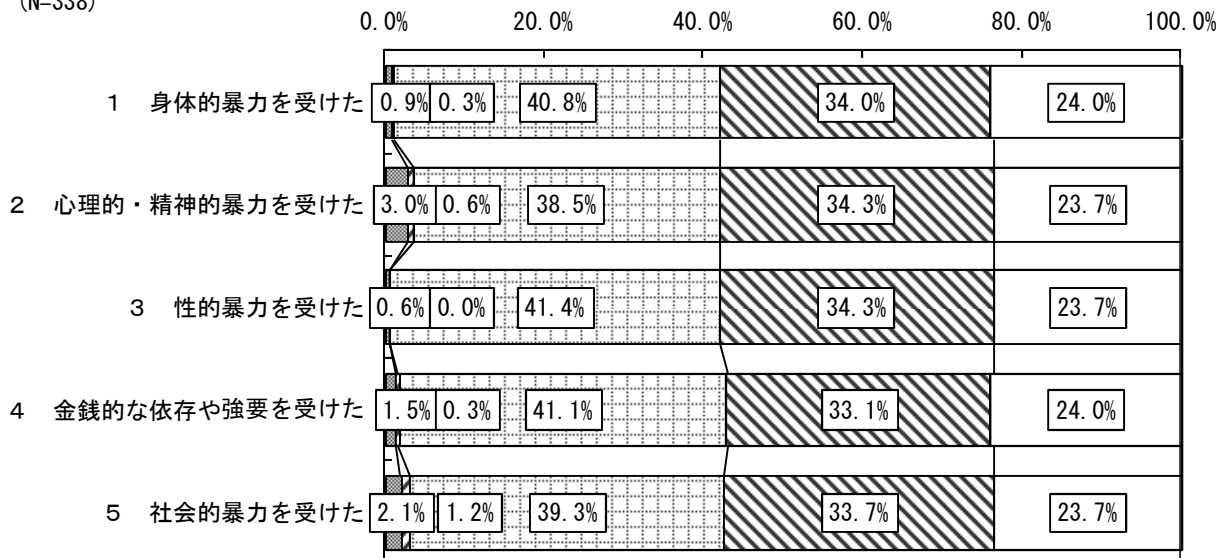
結婚していない方におたずねします。

問 13 あなたは最近5年間で、交際相手から次のようなこと（デートDV）を受けて怖いと感じるような経験がありましたか。（それぞれいずれか1つに○）

●デートDVを受けて怖いと感じるような経験の有無については、「一、二度あった」との回答が「心理的・精神的暴力を受けた」が3.0%、「社会的暴力を受けた」が2.1%となるなど、いずれの項目においても、ごく僅かではあるがみられる。

図表 デートDV経験

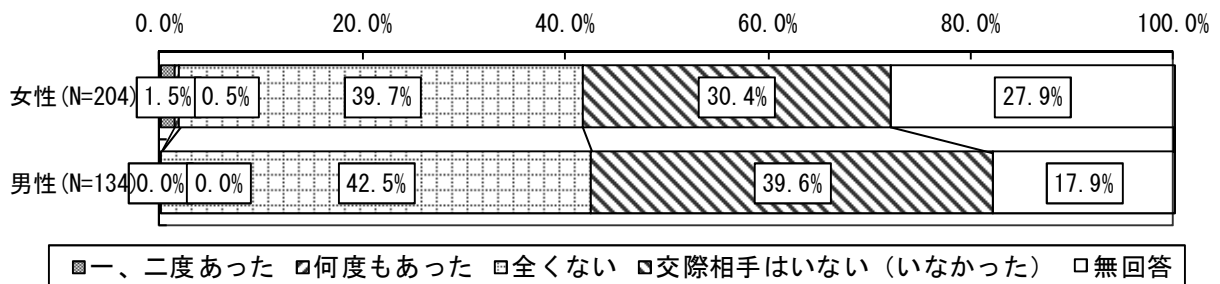
(N=338)



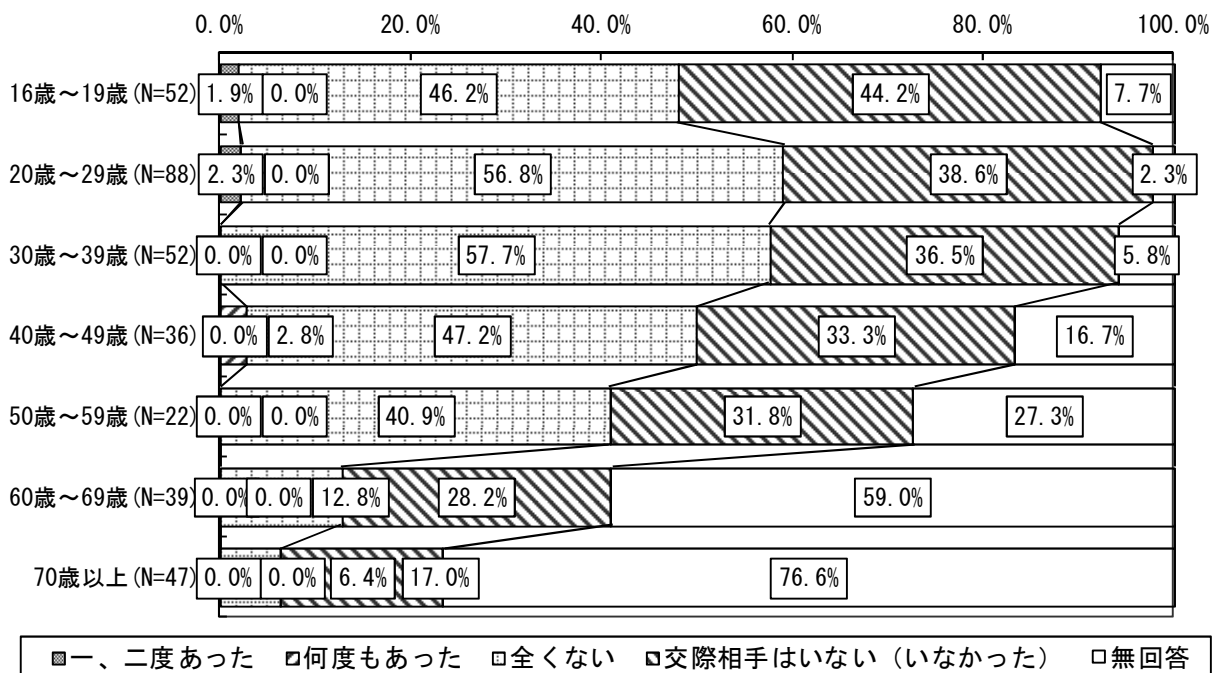
■一、二度あった □何度もあった □全くない □交際相手はいない（いなかった） □無回答

1 身体的暴力を受けた（なぐる、ける、物を投げつけるなど）

図表 デートDV経験（身体的暴力を受けた）－性別



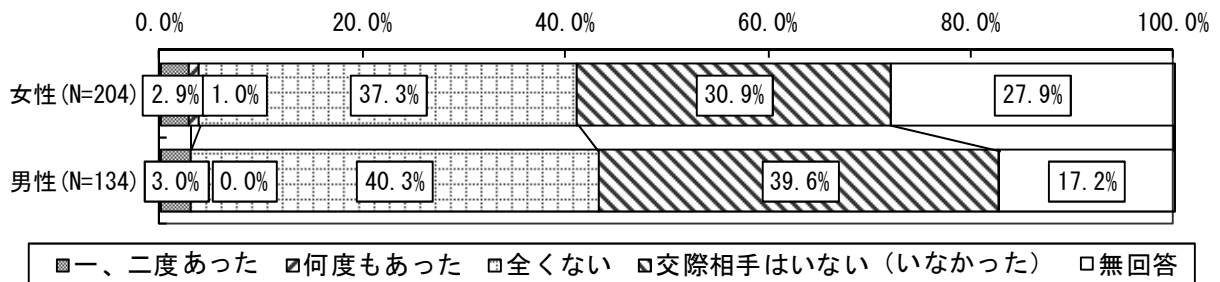
図表 デートDV経験（身体的暴力を受けた）－年齢別



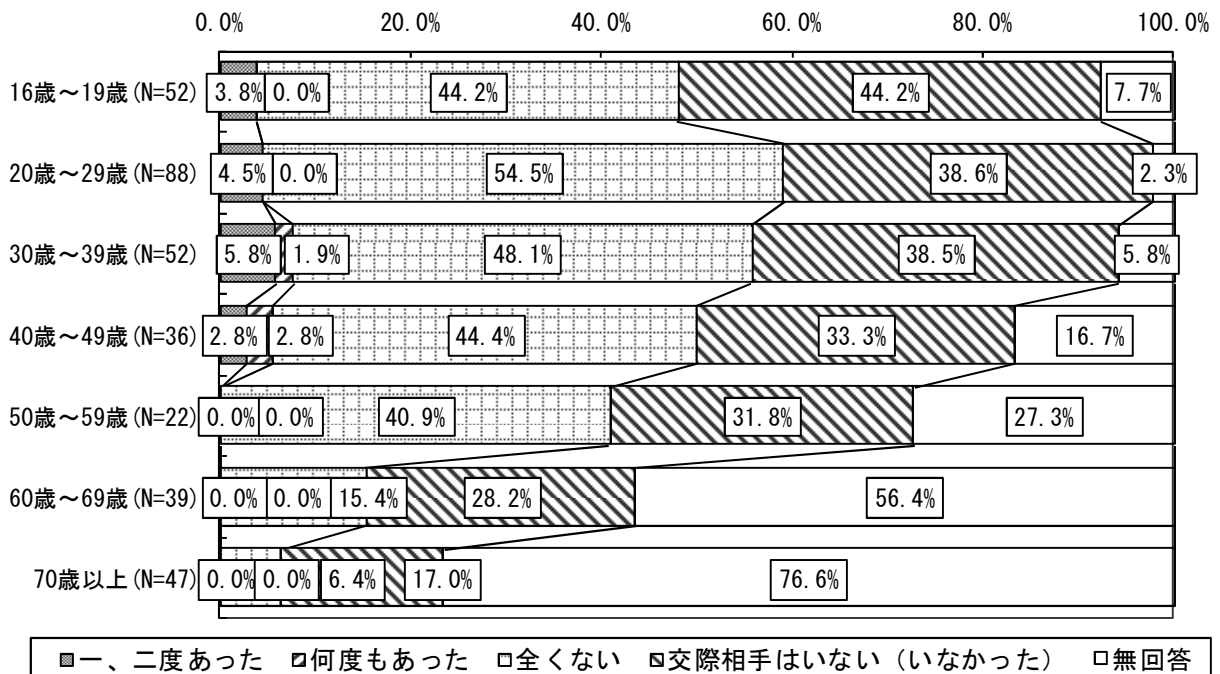


2 心理的・精神的暴力を受けた（あなたや家族をおどす、暴言をはく、長時間無視するなど）

図表 デートDV経験（心理的・精神的暴力を受けた）－性別

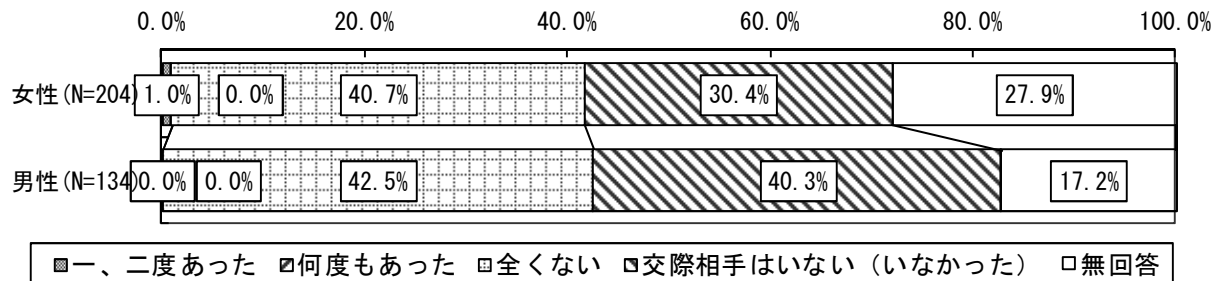


図表 デートDV経験（心理的・精神的暴力を受けた）－年齢別

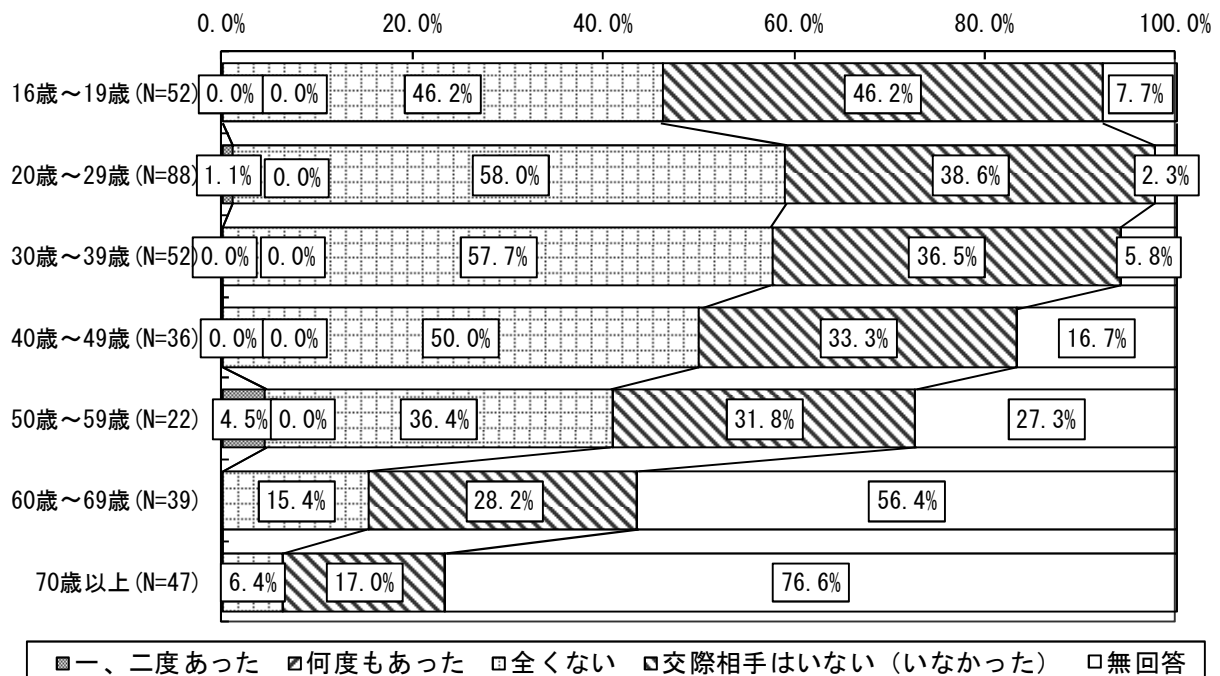


3 性的暴力を受けた（いやがっているのに性的な行為を強要する、見たくないのにポルノビデオ等を見せられるなど）

図表 デートDV経験（性的暴力を受けた）－性別

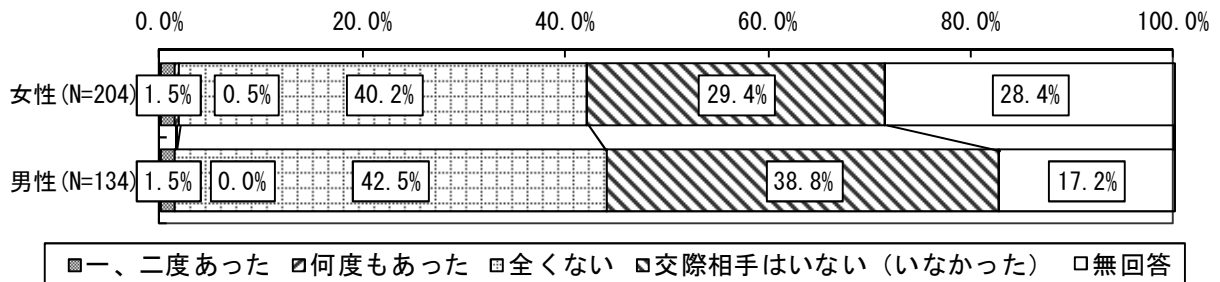


図表 デートDV経験（性的暴力を受けた）－年齢別

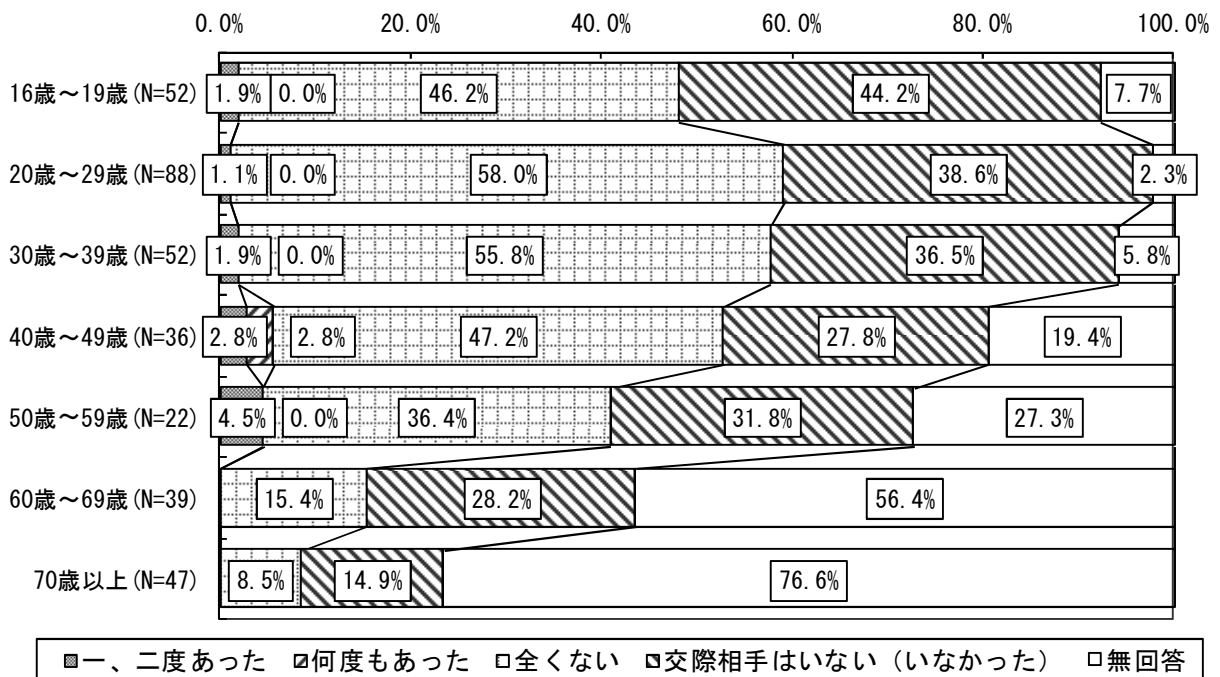


#### 4 金銭的な依存や強要を受けた

図表 デートDV経験（金銭的な依存や強要を受けた）－性別

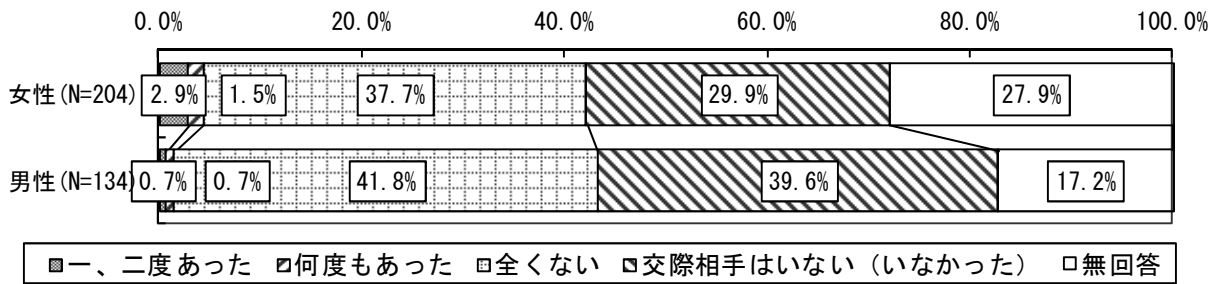


図表 デートDV経験（金銭的な依存や強要を受けた）－年齢別

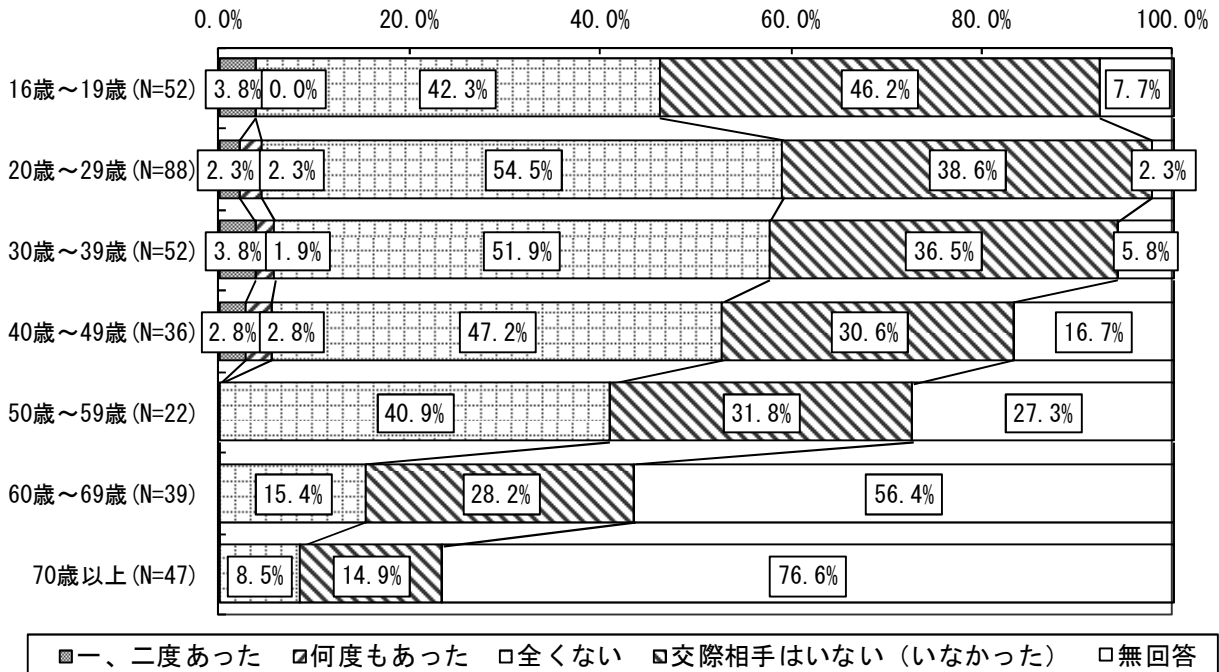


5 社会的暴力を受けた（交友関係、電話やメールを細かく監視・規制するなど）

図表 デートDV経験（社会的暴力を受けた）－性別



図表 デートDV経験（社会的暴力を受けた）－年齢別



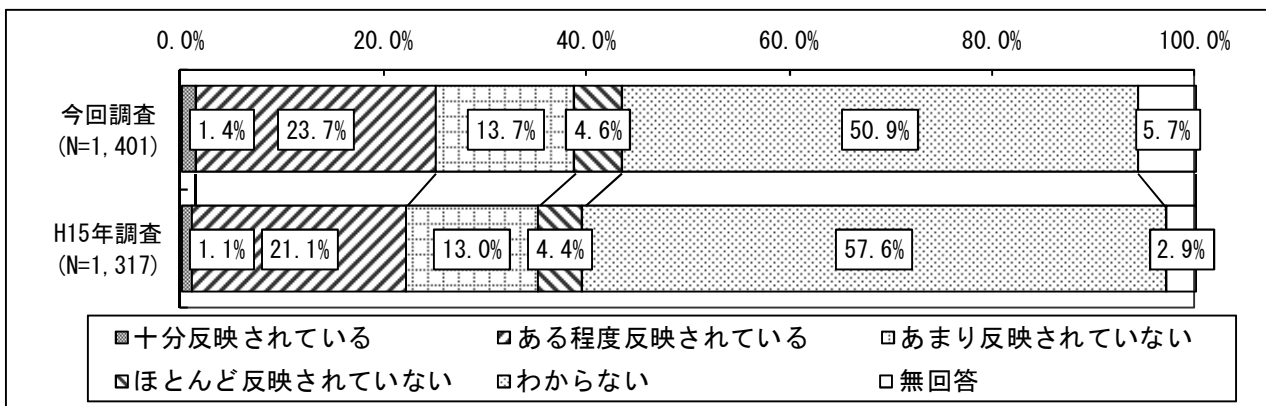
(14) 生駒市の政策への女性の意見の反映状況

問14 あなたは、現在の生駒市の政策に女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。(いずれか1つに○)

●生駒市の政策に女性の意見がどの程度反映されているかでは、「わからない」が50.9%と半数にのぼっている。次いで「ある程度反映されている」が23.7%で、「十分反映されている」の1.4%と合わせると「反映されている」との意見が25.1%で、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた「反映されていない」の18.3%を上回っている。

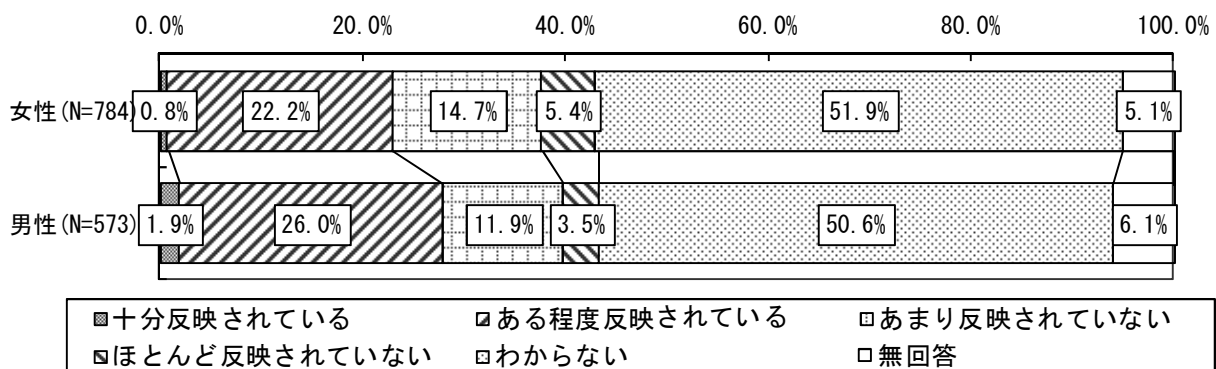
●前回調査と比較すると、「反映されている」という人も「反映されていない」とする人も増加しており、「わからない」という回答が減少している。

図表 生駒市の政策への女性の意見の反映状況－経年変化



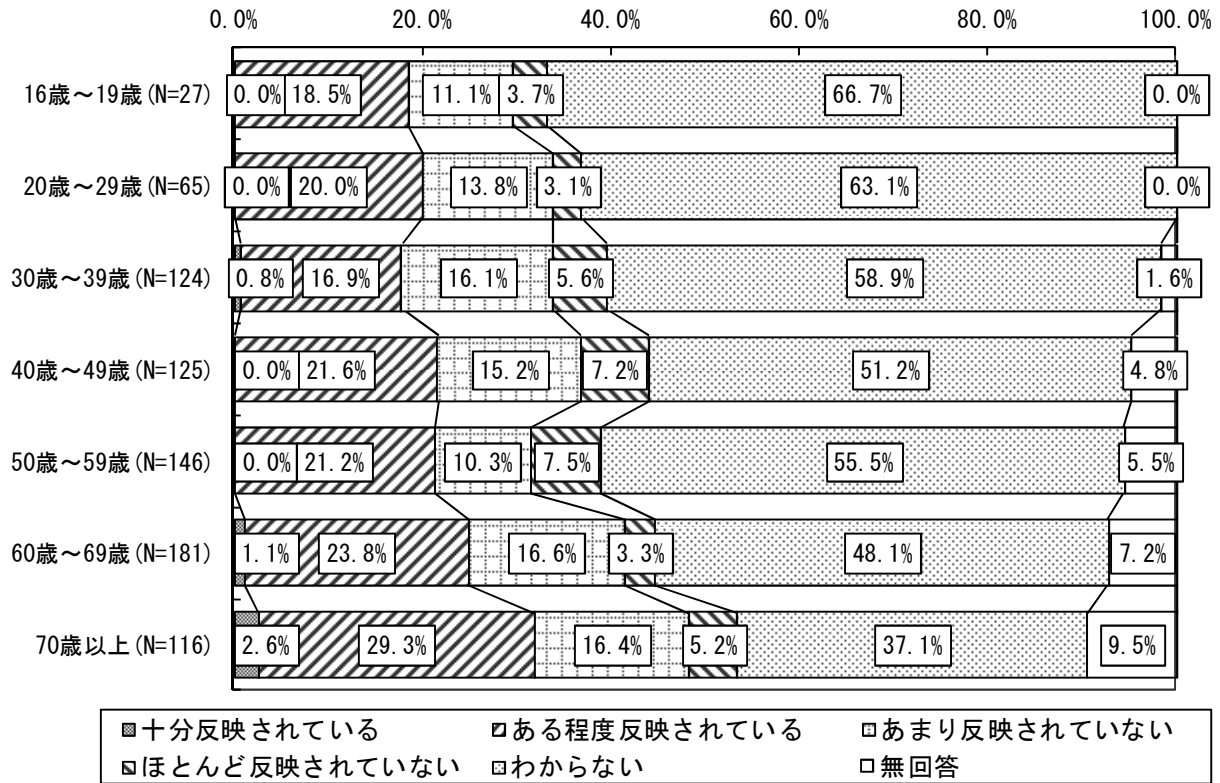
●性別にみると、「十分反映されている」や「ある程度反映されている」は、いずれも「女性」のほうが「男性」より少なく、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」では、「女性」のほうが多くなっており、どちらかといえば、女性のほうが政策への女性の意見反映がなされていないと考えている。

図表 生駒市の政策への女性の意見の反映状況－性別

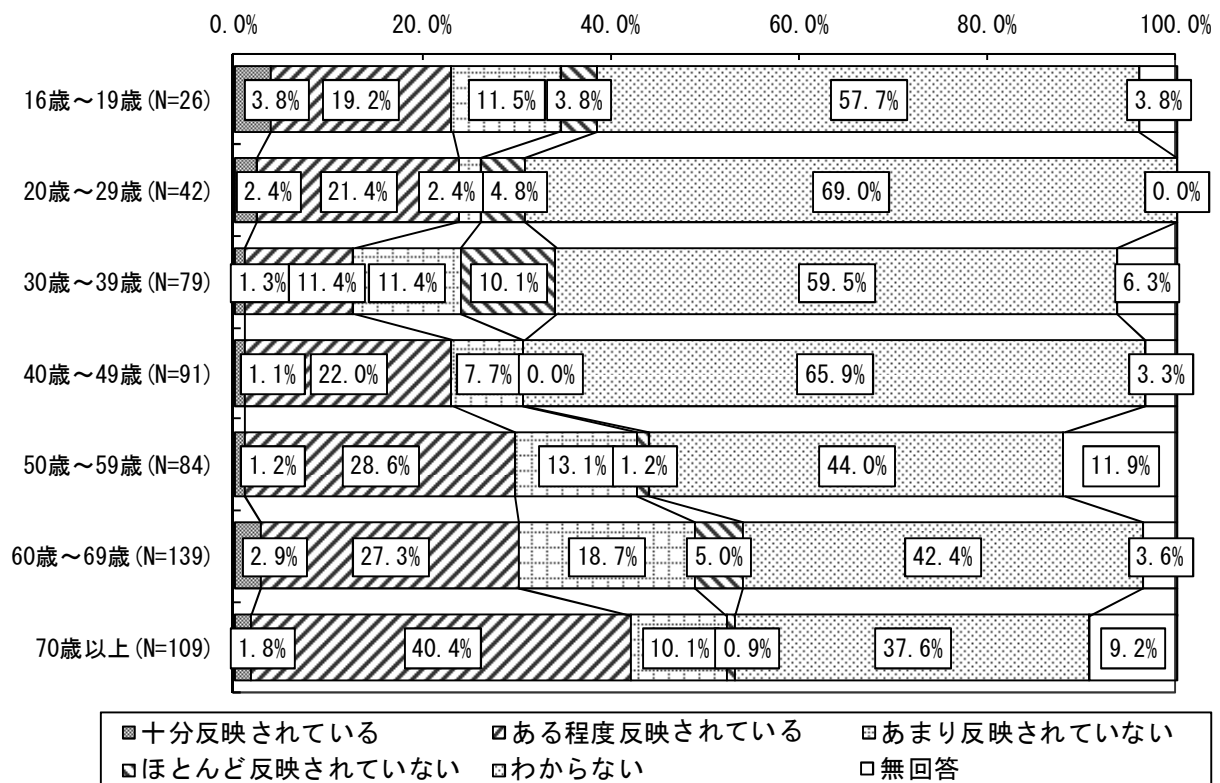


●性・年齢別にみると、「反映されている」と考えているのは、男女ともおおむね年齢の上昇に伴い増加していく傾向にある。また、男女とも「わからない」が、若年者ほど多くなる傾向がみられ、関心が薄いと考えられる。

図表 生駒市の政策への女性の意見の反映状況－女性・年齢別



図表 生駒市の政策への女性の意見の反映状況－男性・年齢別



(15) 女性の意見が反映されていない理由

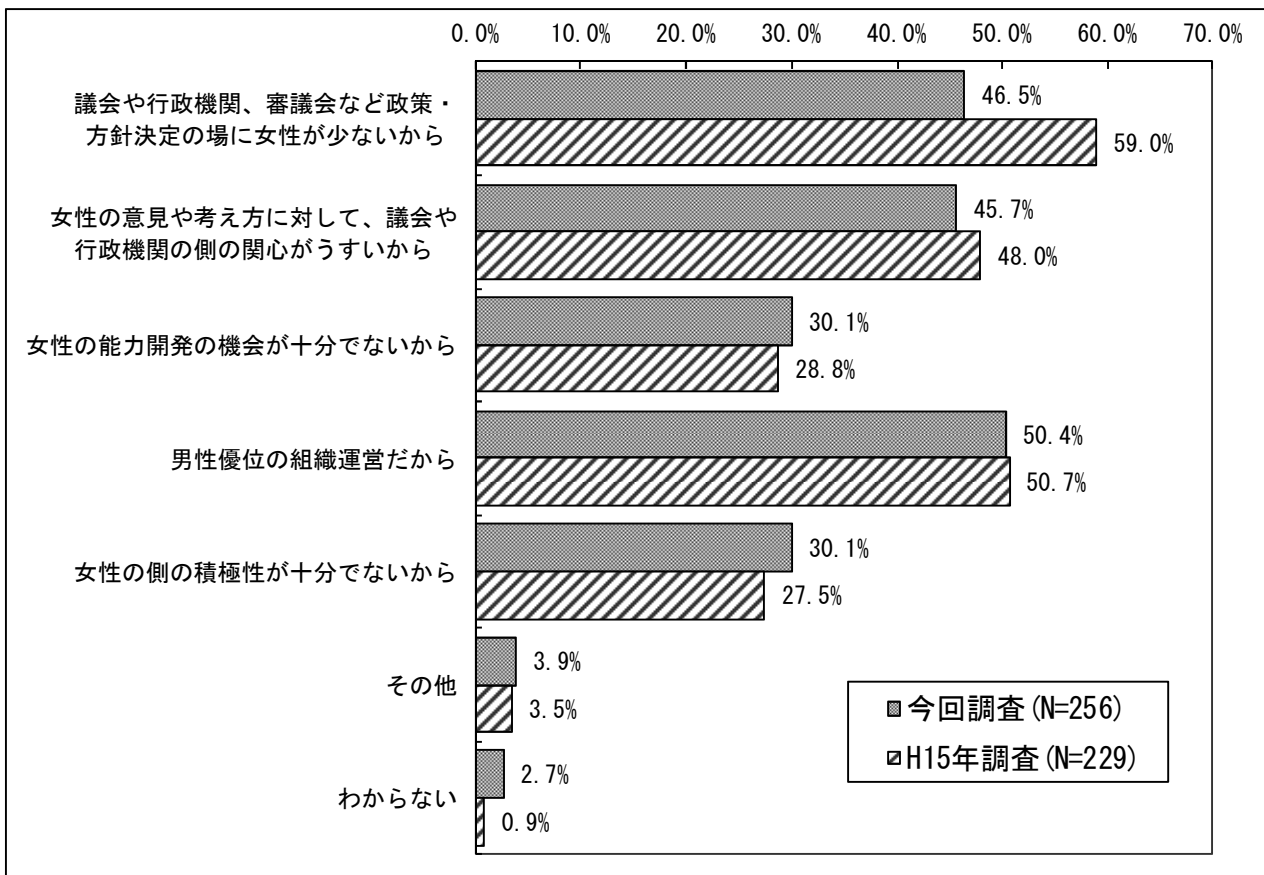
問14で「3 あまり反映されていない」「4 ほとんど反映されていない」と答えられた方におたずねします。

問 15 生駒市の政策に女性の意見が反映されていないのは、主にどのような理由からだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

●女性の意見が反映されていない理由では、「男性優位の組織運営だから」が50.4%、「議会や行政機関、審議会など政策・方針決定の場に女性が少ないから」が46.5%、「女性の意見や考え方に対して、議会や行政機関の側の関心がうすいから」が45.7%などとなっている。

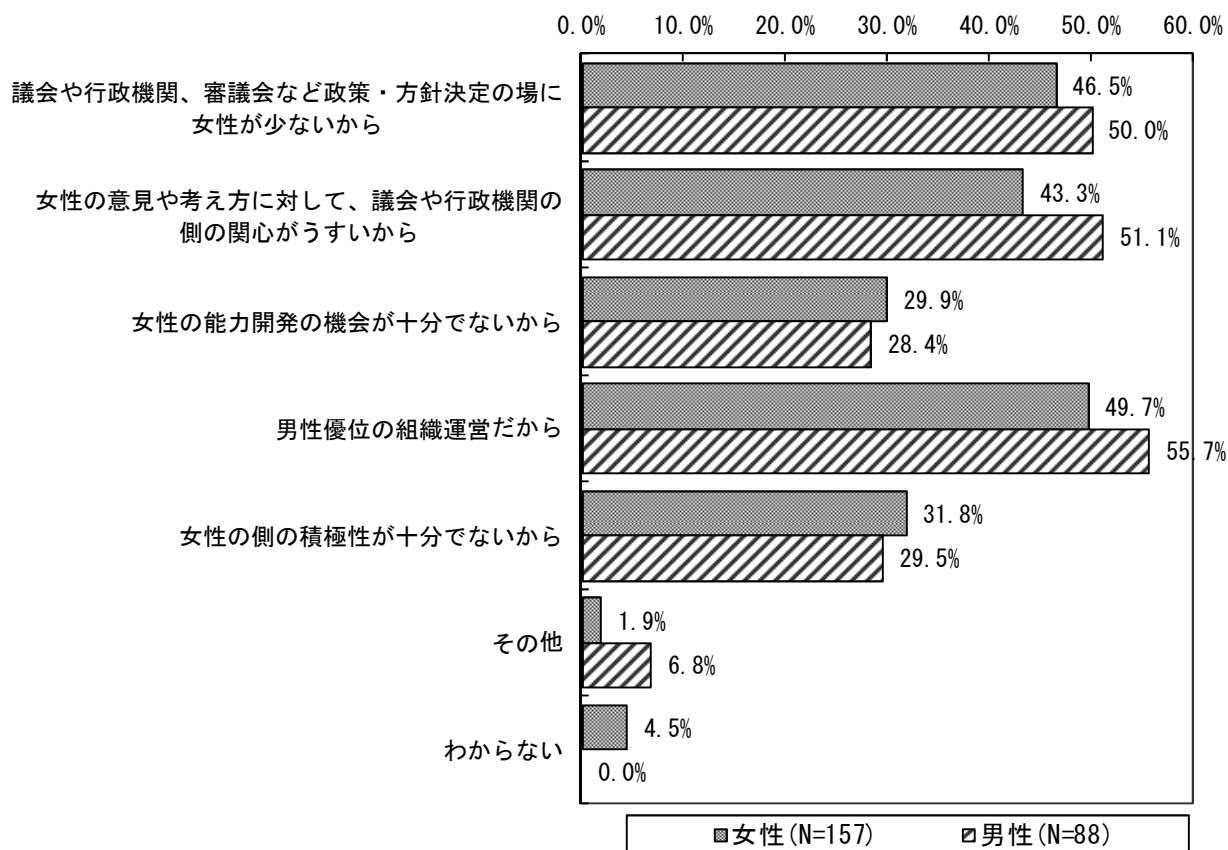
●前回調査と比較すると、「議会や行政機関、審議会など政策・方針決定の場に女性が少ないから」が59.0%から46.5%と減少している。それ以外の項目では目立った変化はみられない。

図表 女性の意見が反映されていない理由—経年変化



●性別にみると、「女性の能力開発の機会が十分でないから」や「女性の側の積極性が十分でないから」は「女性」のほうが「男性」を上回って多くなっている。

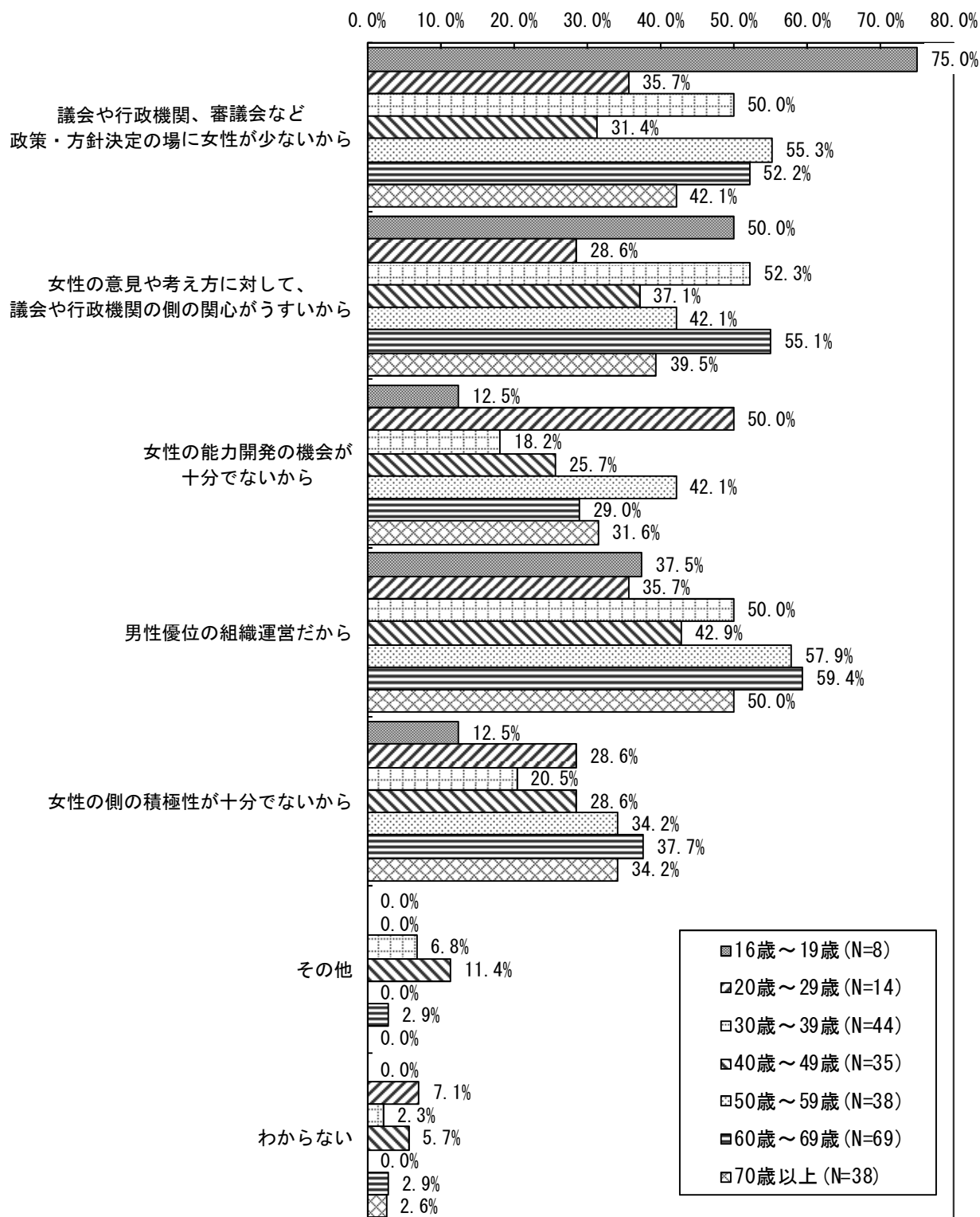
図表 女性の意見が反映されていない理由－性別





●年齢別にみると、「男性優位の組織運営だから」や「女性の側の積極性が十分でないから」は「50歳代以上」で多くなる傾向がみられる。また「10歳代」、「20歳代」は回答件数がそれぞれ8件、14件と少ないが、「10歳代」では「議会や行政機関、審議会など政策・方針決定の場に女性が少ないから」が多く、「20歳代」は「女性の能力開発の機会が十分でないから」と考えている人が他の世代よりも多くなっている。

図表 女性の意見が反映されていない理由—年齢別



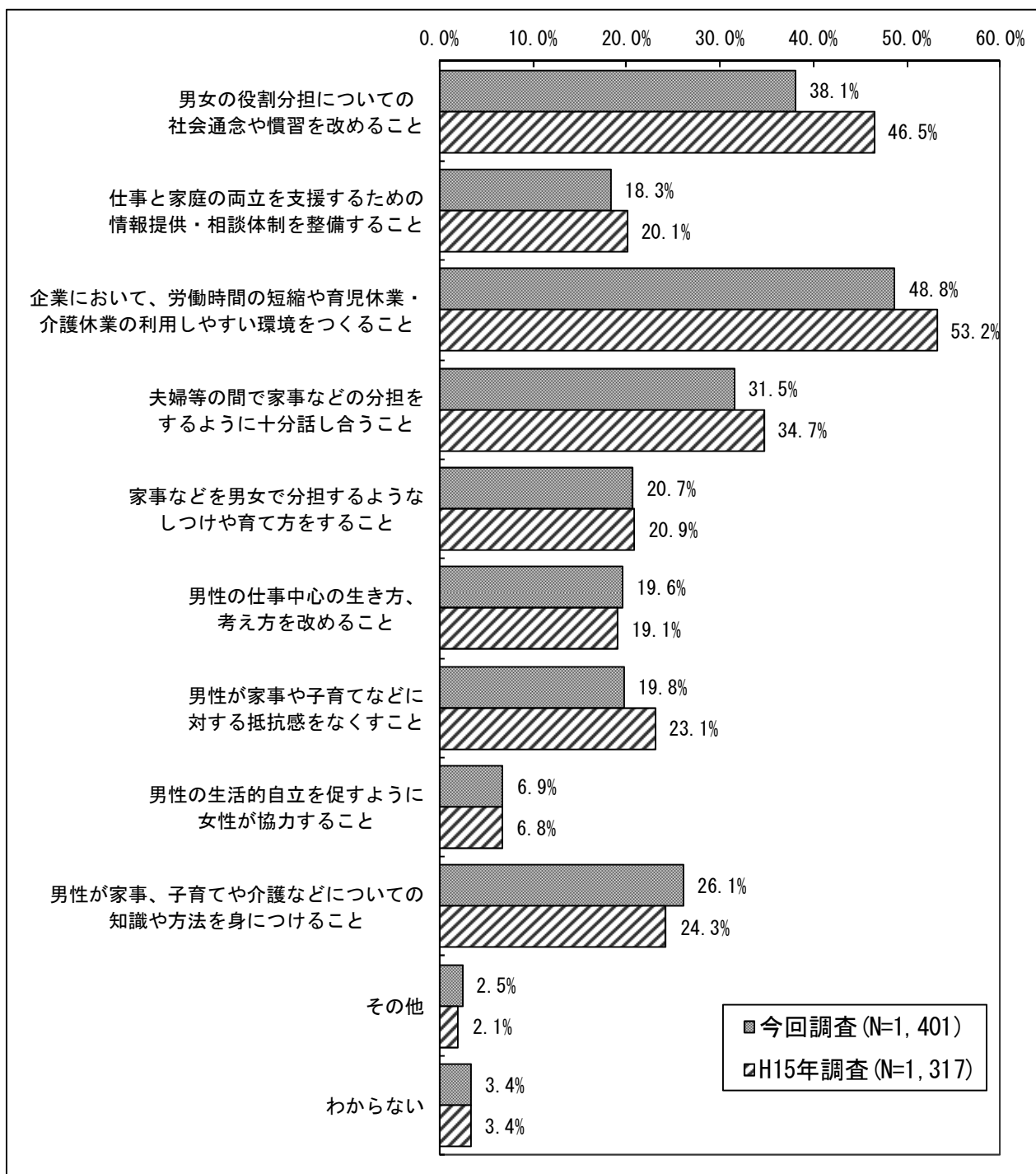
## (16) 男性が参画していくために必要な事項

問16 今後、男性が女性と共に家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

●今後、男性が女性と共に家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参画していくために必要な事項としては、「企業において、労働時間の短縮や育児休業・介護休業の利用しやすい環境をつくること」が48.8%、「男女の役割分担についての社会通念や慣習を改めること」が38.1%、「夫婦等の中で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が31.5%などとなっている。

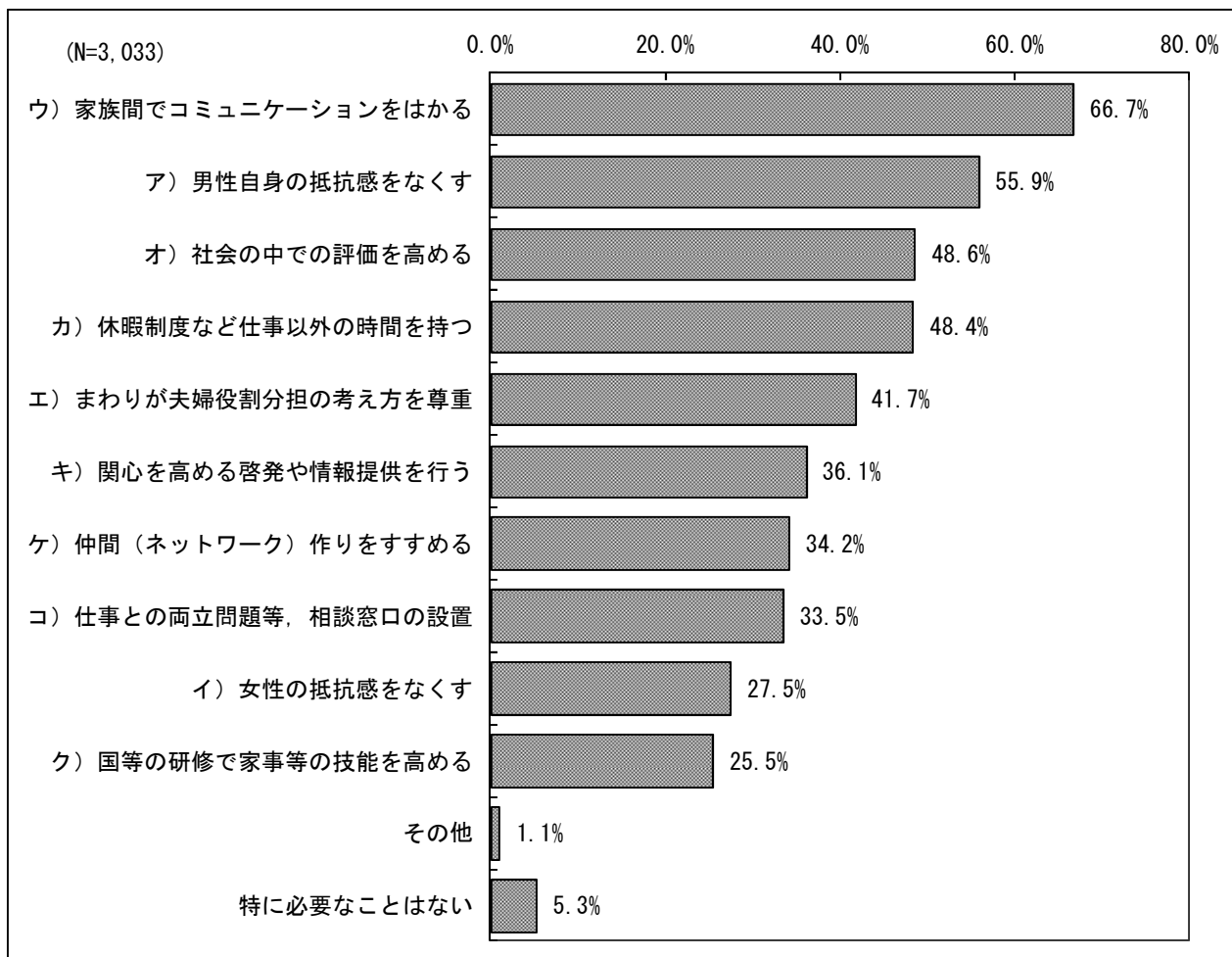
●前回調査と比較すると、「男性が家事、子育てや介護などについての知識や方法を身につけること」が前回の24.3%から今回26.1%と増加していることを除くといずれの項目も、減少か、横ばいという結果となっている。

図表 男性が参画していくために必要な事項－経年変化



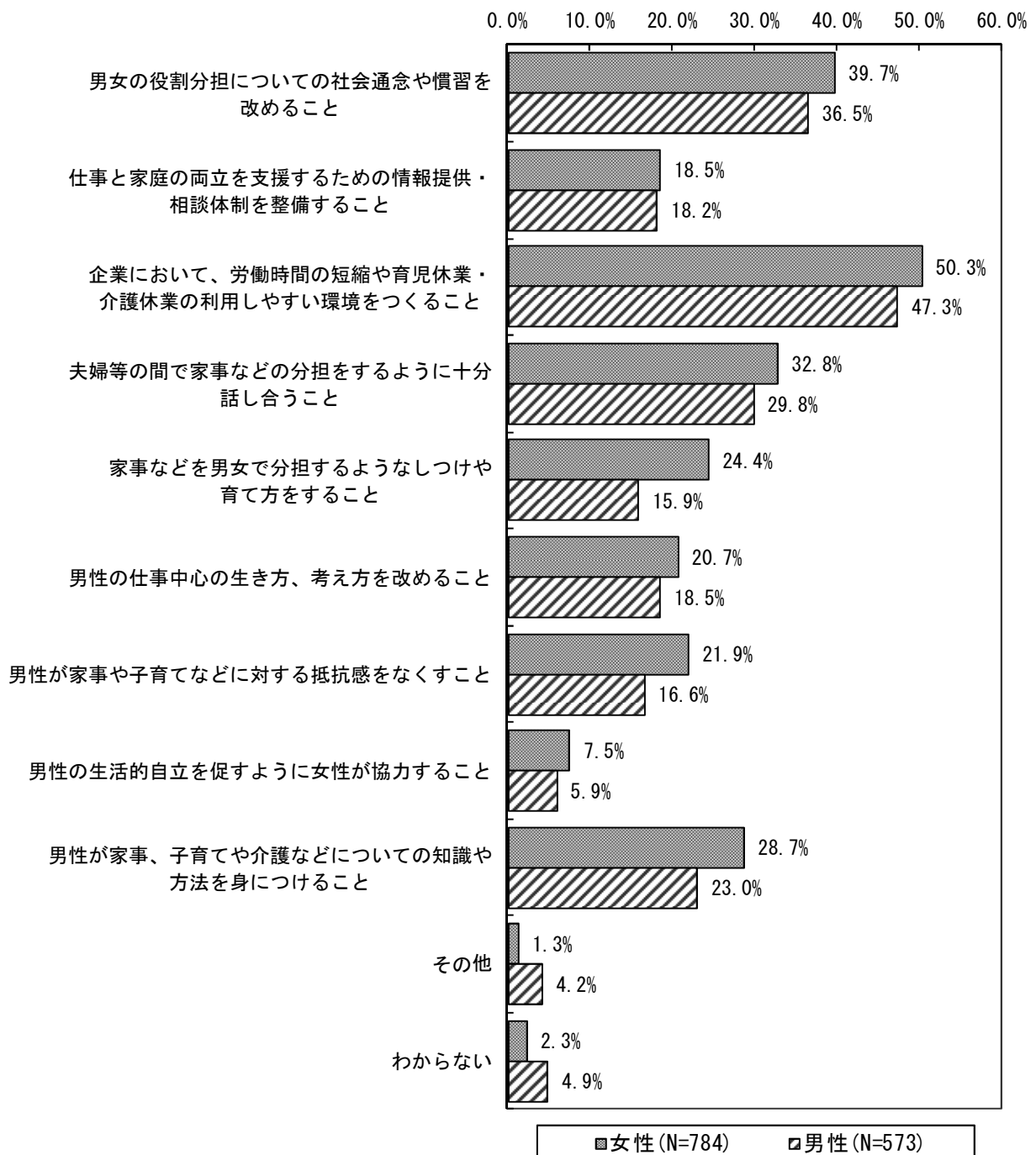
●内閣府調査と比較すると、選択肢が異なっているため比較はできないが、「家族間でコミュニケーションをはかる」が66.7%で最も多く、次いで「男性自身の抵抗感をなくす」の55.9%、「社会の中での評価を高める」の48.6%などとなっている。

図表 (参考) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと  
 —平成24年内閣府男女共同参画に関する世論調査



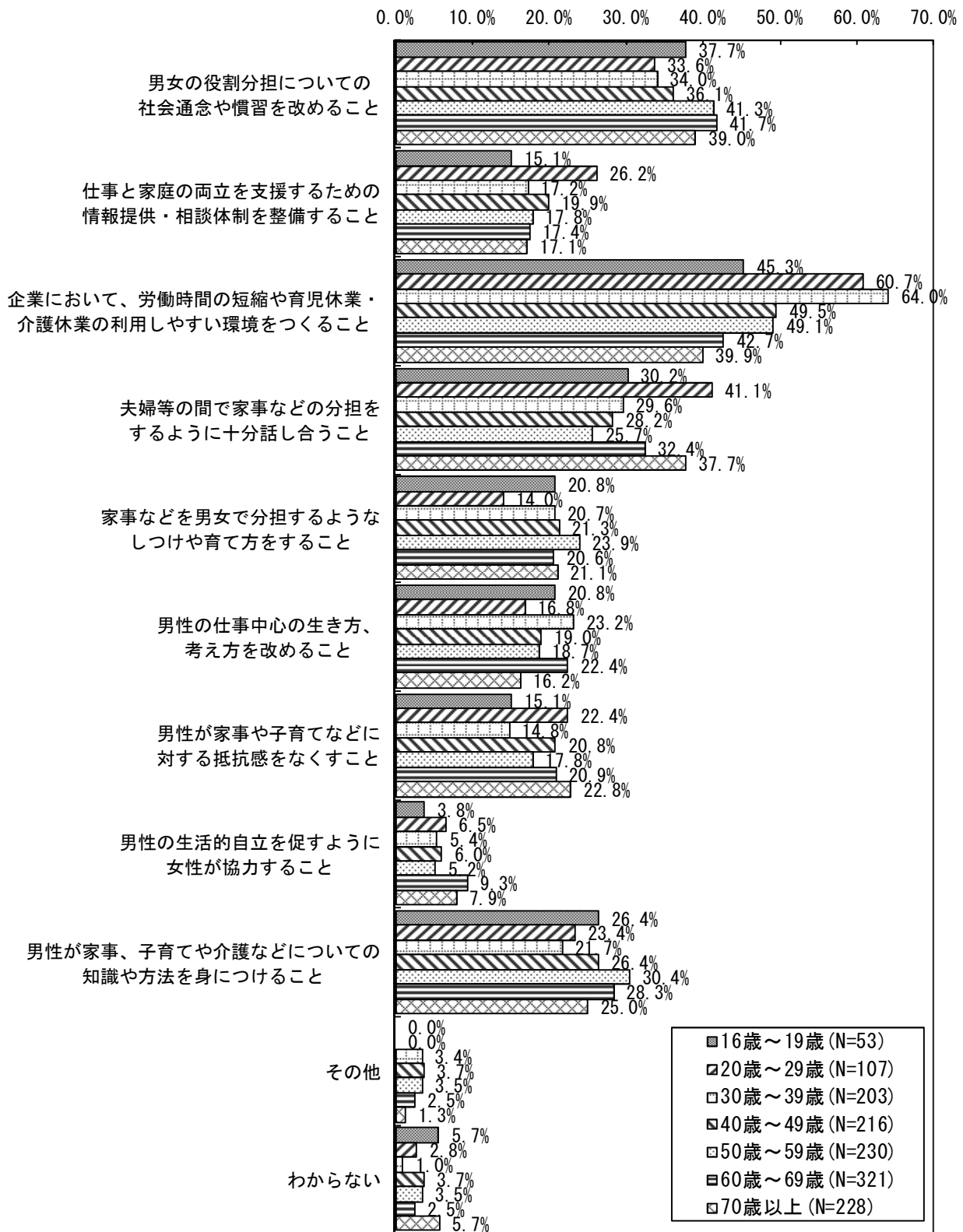
●性別にみると、「その他」や「わからない」を除くいずれの項目においても「女性」のほうが「男性」よりも多く、女性は男性の様々な面での支援が必要であると考えている。

図表 男性が参画していくために必要な事項－性別



●年齢別にみると、「企業において、労働時間の短縮や育児休業・介護休業の利用しやすい環境をつくること」では「20歳代」や「30歳代」で多くなっている。

図表 男性が参画していくために必要な事項一年齢別

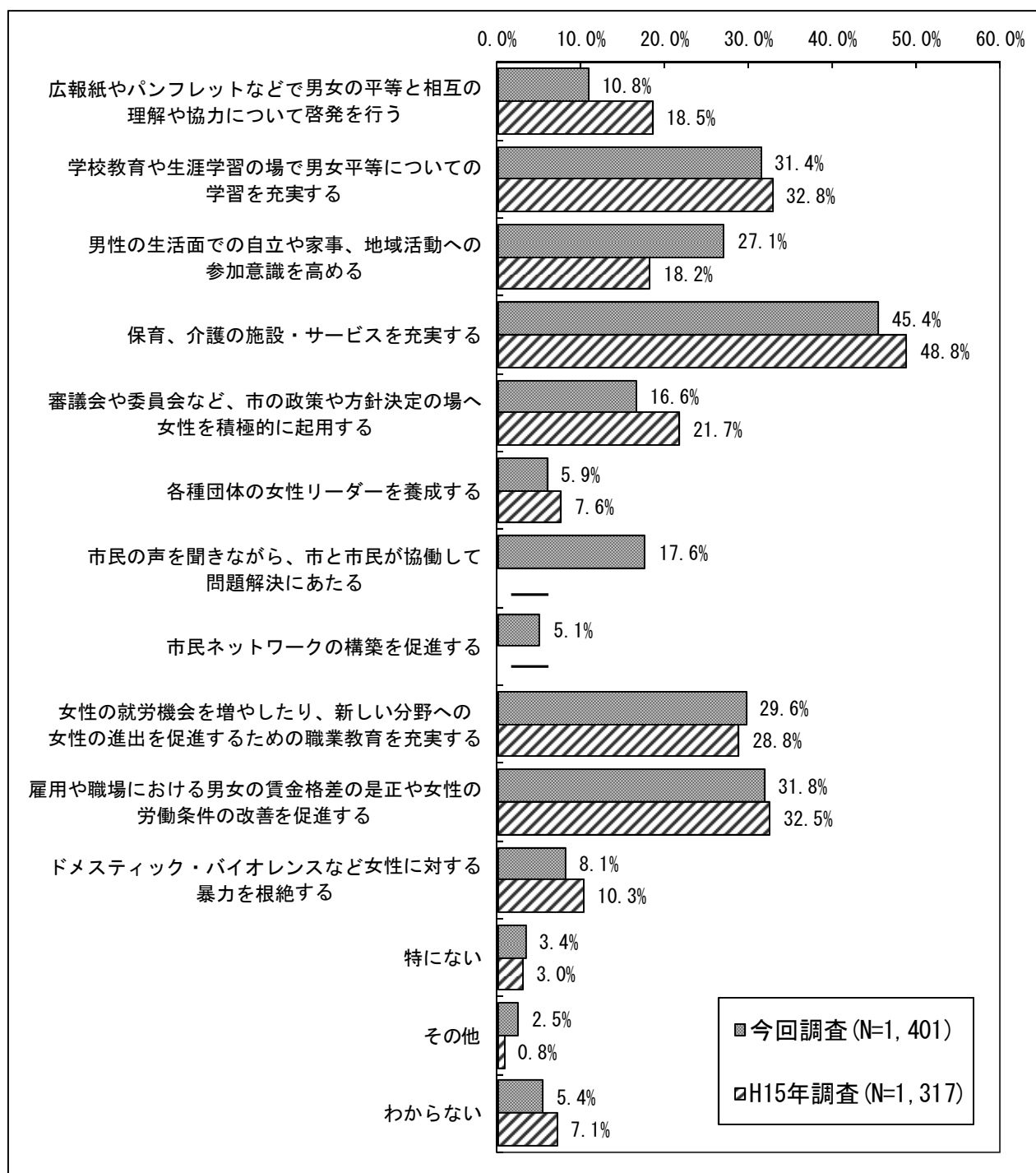


## (17) 生駒市が力を入れていくべき施策

問17 男女共同参画社会をつくるために、生駒市ではどのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。(主なもの3つまでに○)

- 生駒市が力を入れていくべき施策では、「保育、介護の施設・サービスを充実する」が45.4%と最も多く、次いで「雇用や職場における男女の賃金格差の是正や女性の労働条件の改善を促進する」が31.8%、「学校教育や生涯学習の場で男女平等についての学習を充実する」が31.4%、「女性の就労機会を増やしたり、新しい分野への女性の進出を促進するための職業教育を充実する」が29.6%などとなっている。
- 働きやすくするための就労環境の整備や教育の充実を求める意見が上位を占めている。
- 前回調査と比較すると、「男性の生活面での自立や家事、地域活動への参加意識を高める」は前回の18.2%から27.1%と増加し、「広報紙やパンフレットなどで男女の平等と相互の理解や協力について啓発を行う」は18.5%から10.8%へと減少している。
- それ以外の項目では、目立った変化はみられなかった。

図表 生駒市が力を入れていくべき施策－経年変化

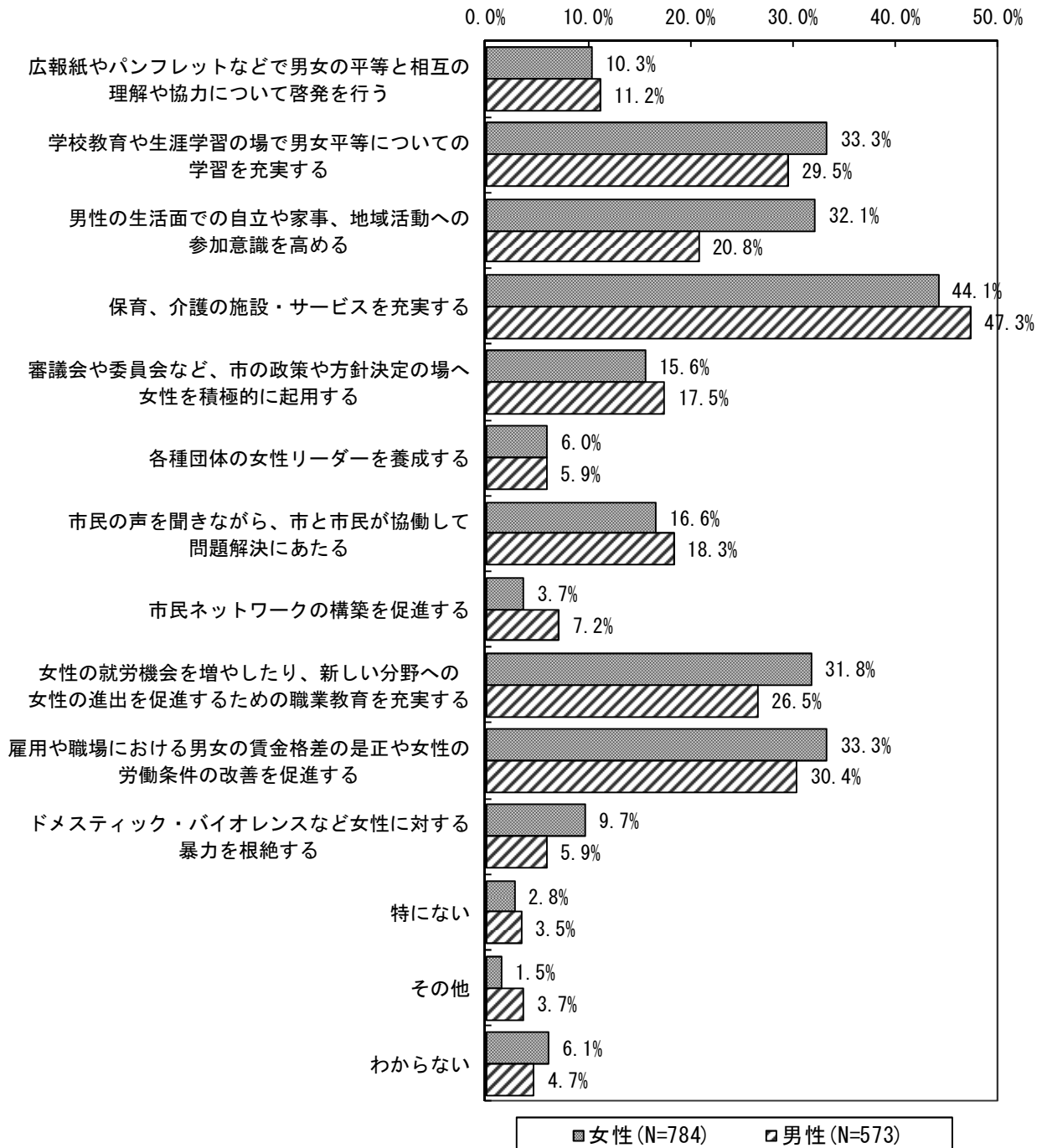


【前回調査には、「市民の声を聞きながら、市と市民が協働して問題解決にあたる」と「市民ネットワークの構築を促進する」の2項目は、選択肢として設定されていなかった。】



●性別にみると、男女間での大きな傾向に差異はみられないが、「男性の生活面での自立や家事、地域活動への参加意識を高める」では、「女性」の32.1%に対して「男性」は20.8%と差異が大きく、女性は男性の家事労働における自立や地域活動への積極的な関与が必要と考えている。

図表 生駒市が力を入れていくべき施策－性別



●年齢別にみると、大きな傾向の差異はみられなかった。

図表 生駒市が力を入れていくべき施策一年齢別

	16歳～19歳 (N=53)	20歳～29歳 (N=107)	30歳～39歳 (N=203)	40歳～49歳 (N=216)	50歳～59歳 (N=230)	60歳～69歳 (N=321)	70歳以上 (N=228)
広報紙やパンフレットなどで男女の平等と相互の理解や協力について啓発を行う	11.3%	3.7%	5.4%	7.4%	8.7%	14.0%	18.9%
学校教育や生涯学習の場で男女平等についての学習を充実する	30.2%	23.4%	35.0%	28.2%	30.0%	35.2%	34.2%
男性の生活面での自立や家事、地域活動への参加意識を高める	28.3%	22.4%	28.1%	22.2%	27.8%	31.2%	27.2%
保育、介護の施設・サービスを充実する	35.8%	47.7%	50.2%	44.4%	51.7%	46.1%	36.8%
審議会や委員会など、市の政策や方針決定の場へ女性を積極的に起用する	15.1%	14.0%	13.3%	14.8%	16.5%	18.1%	19.7%
各種団体の女性リーダーを養成する	3.8%	7.5%	6.9%	5.1%	5.2%	4.4%	8.8%
市民の声を聞きながら、市と市民が協働して問題解決にあたる	9.4%	19.6%	16.3%	15.7%	19.1%	16.5%	20.2%
市民ネットワークの構築を促進する	3.8%	2.8%	3.0%	6.5%	5.2%	6.2%	5.7%
女性の就労機会を増やしたり、新しい分野への女性の進出を促進するための職業教育	32.1%	33.6%	29.1%	33.3%	30.9%	29.9%	22.4%
雇用や職場における男女の賃金格差の是正や女性の労働条件の改善を促進する	32.1%	42.1%	36.5%	32.4%	30.0%	32.7%	24.6%
ドメスティック・バイオレンスなど女性に対する暴力を根絶する	7.5%	9.3%	12.8%	7.4%	9.1%	5.3%	7.0%
特にない	1.9%	2.8%	2.0%	3.7%	1.3%	3.4%	5.3%
その他	3.8%	2.8%	2.5%	1.9%	3.5%	2.8%	0.9%
わからない	15.1%	5.6%	5.4%	5.6%	3.5%	2.8%	8.8%

■ 第1位    ■ 第2位    □ 第3位